

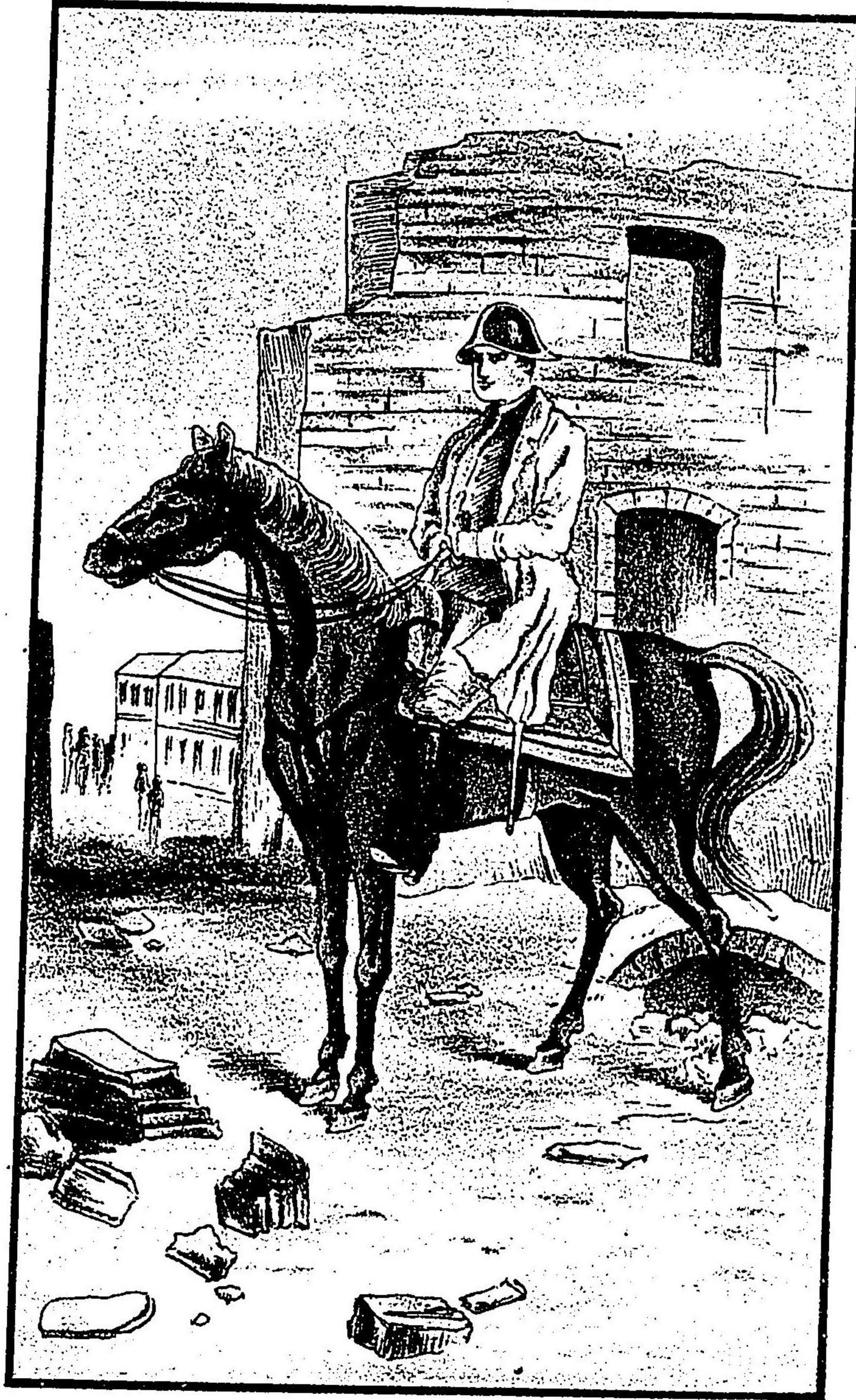
96-290



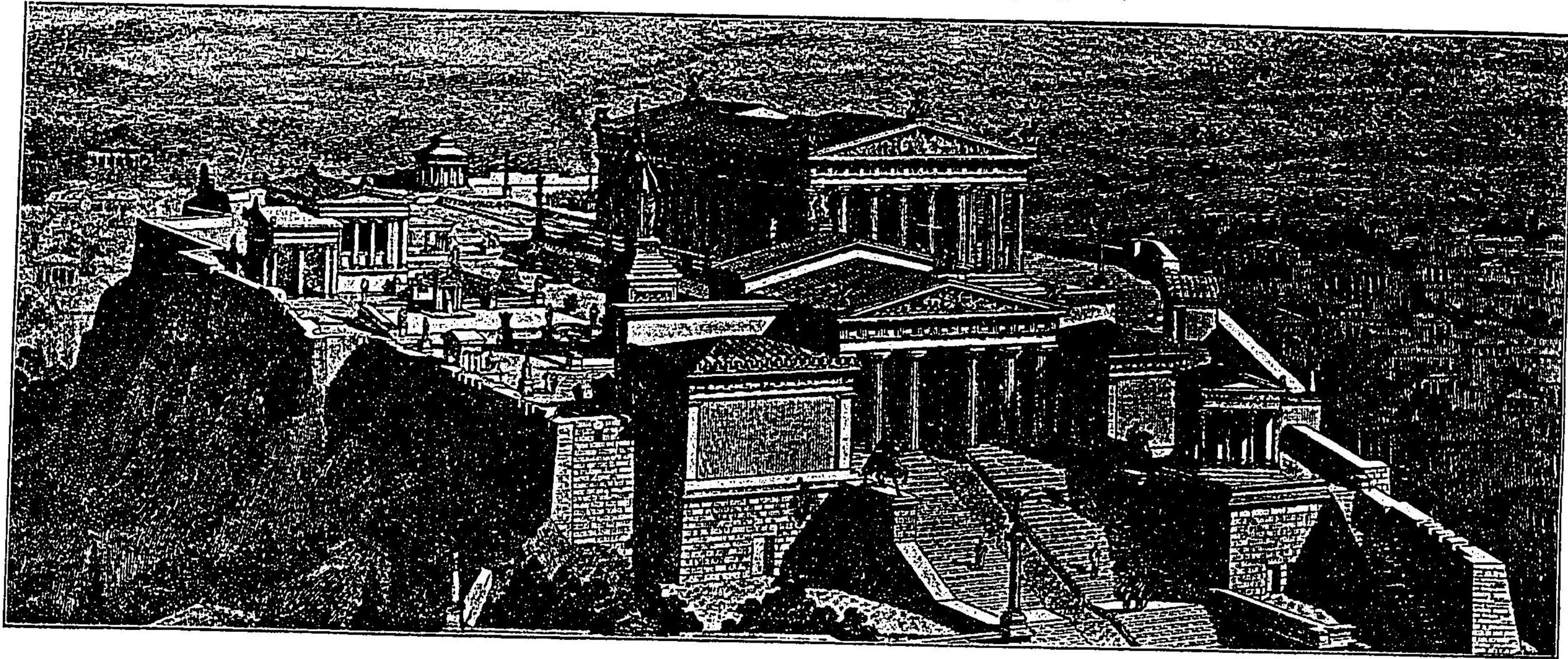
地
名
歷
史



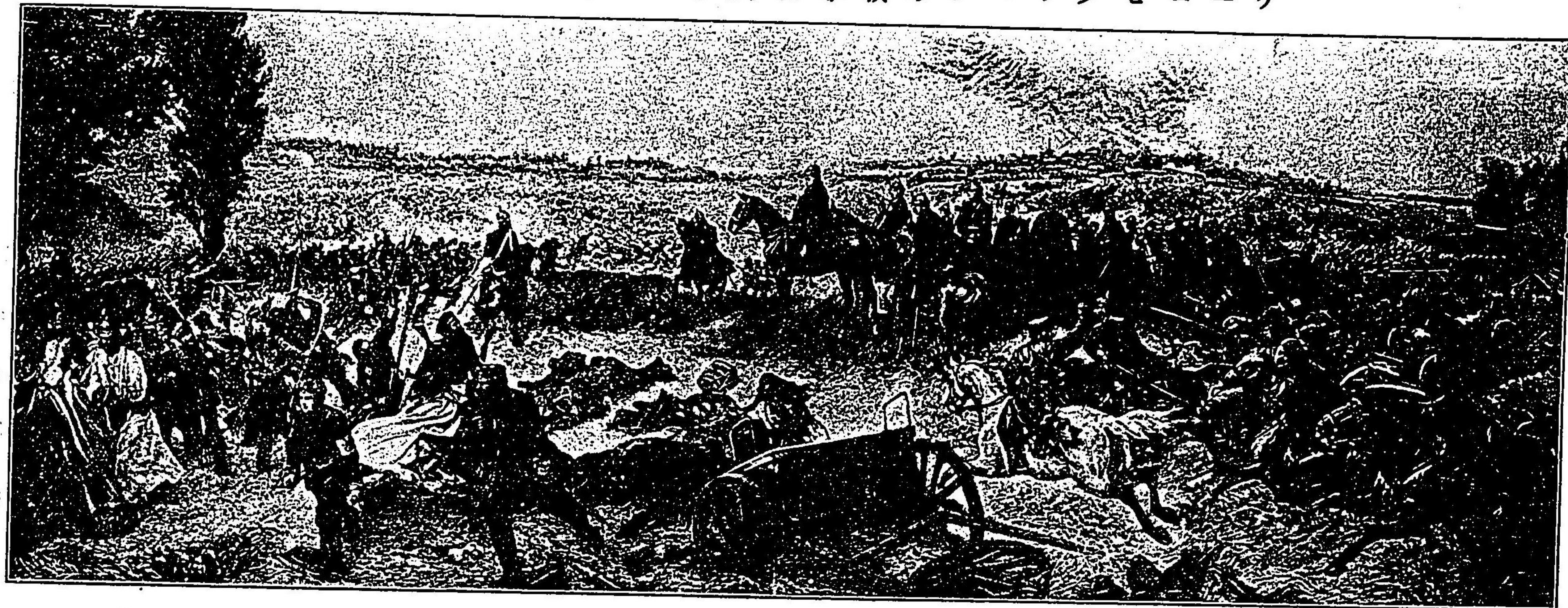
モクスバク焼跡に於けるボレオン



殿神スリホロクアのネテア



王ムルヘルイウるけ於に争戦のツレグヒニーケ



議 會 ソ リ ル ベ の 年 八 七 八 一



例言

- 一、本書編纂の目的は、西洋歴史學修者及び西洋地誌教授の事に從はるゝ諸士の參考に供せん爲なり。
- 一、本書舉ぐる所の地名は、西洋所在の者を主とすと雖も、西洋歴史に關係せる者は、東洋に屬するも往々之を掲げたる者あり。
- 一、編纂の體裁は、各地名を五十音順に排列し、其字數に依りて部を分ち。地名には其左側に、人名には其右側に單縱線を、地名人名にあらざる名辭には、其右側に複縱線を施して、其別を明にせり。
- 一、地名人名の稱呼は、概ね官報第五八一號附録に據れり。然ども他の讀方にて、既に世に慣用せられ居る地名は、別に之を擧げて閱覽者の便をはかれり。
- 一、歴史上の事項名辭の必要なるものは、集めて之に解釋を附し、附

録となして卷末に加へ、本書閲覽者及び西洋史學修者の參考に資せり。

一、予もと非才にして淺學加ふるに研鑽未熟、故に此編時に或は誤謬を傳へ、或は重要記載すべきものにして之を遺漏せしもの多かるべきを思ひ、衷心自ら安んぜざるものあり、幸に江湖讀者諸君の指摘を得ば、他日必ず之を是正補足すべし。

明治三十六年四月

編者 識

索引

ア之部

アツカ	一
アデン	一
Xアボカ	二
アルマ	二
アヘン	二
アソフ	三
アグラ	三
Xアテ子	三
アゼンス	三
アテン	四
アブリア	四
入アルヌス河	四
アンゴラ	四
アルレス	四
アンシラ	四
アブキル	四
アキティン	五
アマアン	五
Xアルゼン島	五

索引

アラゴン	五
アラスカ	六
アイゲン	六
アクチウム	六
アクイレヤ	七
アクチオン	七
Xアヴェルサ	七
アブリエン	七
アジャシオ	七
アンボイナ島	七
アスペルン	七
アルメニア	八
アヤクチオ	八
アツシリア王国	八
アリガント	九
アルジエリア	九
アキティン	十
Xアルゼリー	十
アルバジ	十
アヴィニオン	十

イ之部

アクロポリス	十
アゼンクール	十
アイスレベン	十
アイスランド	十
アンチオキア	十
アウテナルデ	十
アウグスブルグ	十
アムステルダム	十
アウストラリア	十
アドリアノブル	十
アウステルリッツ	十
アドリアノポリス	十
アレクサンドリア	十
アウエルステット	十
アルトランステット	十
イソス	十
イラン	十
イッサス	十
イブス	十

ウ之部

イブサス	十
イギリス國	十
イタリア國	十
イスパハン	十
イルクツク	十
インケルマン	十
イギリス海峡	十
イエリサレム	十
イエニセイスク	十
ウチカ	十
ウスリ江	十
ウルム	十
ウエトルト	十
ウォルムス	十
ウエールス	十
ウトレヒト	十
ウインチエスター	十
ウエストフリア	十
ウラジボストク	十

エ之部

ウイッテンベルヒ……………二十三
 ウンキアルスケレシ……………二十三
 エリー湖……………二十四
 エムス……………二十四
 エーグル……………二十四
 エギナ島……………二十五
 エアツサ……………二十五
 エジソコート……………二十五
 エグバタナ……………二十五
 エレトリア……………二十五
 エクノムス……………二十六
 エルフルト……………二十六
 エウフラト河……………二十六
 エゴスポタミ……………二十六
 エーグス・ラ・シヤベル……………二十七

オ之部

オトラル……………二十七
 オルムズ島……………二十七
 オリノコ河……………二十七
 オトラント……………二十七
 オルレアン……………二十八
 オルミヤツ……………二十八
 オスナブリック……………二十九
 カレ……………二十九
 カレー……………二十九
 ガリア……………三十
 カザン……………三十
 カナダ……………三十
 カリコ……………三十
 カンチ……………三十
 カーセーシ……………三十一
 カナン……………三十一
 カイロ……………三十一
 ガザル……………三十一
 カンヌ……………三十一
 カルス……………三十二
 カザス……………三十二
 カノサ……………三十二
 カルタゴ……………三十二
 カルツーム……………三十二
 カルデア王國……………三十三

カ之部

カルマル……………三十三
 カナノル……………三十四
 カントン……………三十四
 カメンツ……………三十四
 カラカス……………三十五
 カラフト島……………三十五
 ガリポリ……………三十五
 カスチリア……………三十五
 ガスタイン……………三十五
 カツバツハ河……………三十五
 カタラウニ……………三十六
 カラコルム……………三十六
 カリカドヌス河……………三十六
 カムチアツカ……………三十六
 カル、スバード……………三十六
 カムボ・フォルミオ……………三十七
 ガリア・チサルピナ……………三十七
 ガリア・トランスアル……………三十七
 ピナ……………三十七
 キー……………三十八

キ之部

キレチ……………三十九
 キエフ……………三十九
 キプロス島……………三十九
 キノスケフヘン……………三十九
 キリシヤ……………四十
 クレビー……………四十
 クリム半島……………四十
 クマナ……………四十
 クリート島……………四十一
 クック島或はヘルペー……………四十一
 島……………四十一
 クレシ……………四十一
 クロトン……………四十二
 クラカウ……………四十二
 グリメア……………四十二
 グラニコス河……………四十二
 クランノーン……………四十二
 クレルモン……………四十三
 クストツツア……………四十三
 グリーンランド……………四十三
 クテシフォン……………四十三

ク之部

ク之部

ク子ルスドルフ……………四十四
 クロスタット……………四十四
 クシユク・ガイナルザ……………四十五
 ケーレン……………四十五
 ケント……………四十五
 ケーロ子ア……………四十六
 ケベック……………四十六
 ケープ・コロニー……………四十六
 ケーニヒケレーツ……………四十七
 ケーニヒスベルヒ……………四十七
 ケツチスブルグ……………四十七
 ケルソ子スス・タウリ……………四十八
 カ……………四十八
 コニア……………四十八
 ゴーガメラ……………四十八
 コルゴス河……………四十九
 コルキラ島……………四十九
 コルドバ……………四十九
 コリント……………四十九

コ之部

コンコード……………五十
 コーンウオール……………五十
 コルツイラ島……………五十
 コソホ・ホリエ……………五十
 好望海角……………五十
 コンスタンツ……………五十一
 ゴールデン・ホード……………五十一
 コンスタンチノブル……………五十二
 ザマ……………五十二
 サイス……………五十三
 サモス島……………五十三
 サドワ……………五十三
 サルデス……………五十三
 サラミス島……………五十三
 サマリア……………五十四
 サレルノ……………五十四
 ザーランド……………五十四
 ザムベシ河……………五十四
 サラトガ……………五十五
 サイゴン……………五十五
 サンガラ城……………五十六

サ之部

シ之部

サンチアゴ……………五十六
 サン・ルカル……………五十六
 サイプラス島……………五十七
 ザスパツハ……………五十七
 サン・ユーステ……………五十七
 サイラキユース……………五十七
 サマルカンド……………五十七
 サン・ステファノ……………五十八
 サン・ベルナルド……………五十八
 サン・サルバドル島……………五十八
 ザールブリックケン……………五十八
 シノーベ……………五十九
 シシリ島……………五十九
 シノーア……………五十九
 シレチ……………五十九
 シヤバ島……………五十九
 シドン……………六十
 シナイ山……………六十
 シヤナ島……………六十
 シベリア……………六十
 シチリア島……………六十一

ス之部

シントラ……………六十一
 シエノバ……………六十一
 シユムラ……………六十二
 シラクサ……………六十二
 シヨームン……………六十二
 シワチーア……………六十三
 シエホール……………六十三
 シレシア……………六十三
 シヤチオン……………六十四
 シル・オルダ……………六十四
 シンガポール……………六十四
 シアマイカ島……………六十四
 シワマップ……………六十四
 シアラタル……………六十五
 シユレシエン……………六十六
 シラレスウイヒ……………六十六
 シヤンデルナゴル……………六十六
 シロマルカルタン……………六十七
 シント・ピーターズ……………六十七
 スーサ……………六十七

○ピレネー	百十九	ノルウェー	百二十七	フォンテヌアロー	百三十四	ベネチア	百四十一
○ピレウス港	百二十	○オレスラウ	百二十八	フランデーアイン	百三十五	ベルダン	百四十二
○ピルシエン	百十九	○フアシムダ	百二十八	フヘルツスブルク	百三十五	ベルリン	百四十二
○ピブルス	百二十	フアレルム	百二十八	フランクフルト	百三十六	ベテレヘム	百四十三
○ヒダスバス河	百二十	ブルガリア	百二十八	ノイラデルファイア	百三十六	ベルサイユ	百四十三
○ヒラシス河	百二十一	ブリンザシ	百二十九	ブルケルスドルフ	百三十七	ベネチア	百四十三
ヒルカニア	百三十一	ブリマウス	百二十九	ファイア・フォークス	百三十七	ヘスチングス	百四十三
○ピラフランカ	百三十二	フランデル	百二十九	ブライデンフェルド	百三十八	ベルナルド	百四十三
○ブルート	百三十二	フロリズム	百二十九	フェール・シヤムプノア	百三十八	ヘルゴランド	百四十四
○ブライグ	百三十三	フロレンス	百三十	フレデリクスハル	百三十八	ヘルウエチア共和国	百四十四
○ブービヌ	百三十三	フルツセル	百三十	フレデリクスアルグ	百三十八	ベルセボリス	百四十四
○ブレンナ	百三十四	フイリピン群島	百三十	ブライス・ド・ラ・コン	百三十八	ヘルセゴビナ	百四十五
○ブエブ	百三十四	ブリタニア	百三十	コルド	百三十九	ハテルブルグ	百四十五
○ブレイク	百三十五	プリンストン	百三十一	フレデリックシャルド	百三十九	ヘレス・ド・ラ・フロン	百四十六
○ブレイク	百三十五	フリードランド	百三十一	ヘグ	百三十九	テラ	百四十六
○ブレイク	百三十五	ブロンビエル	百三十一	メリュー島	百四十	ホーコ	百四十六
○ブレイク	百三十五	ブラセンチナ	百三十二	ペハラ	百四十	ホハラ	百四十七
○ブレイク	百三十五	フアルサルス	百三十二	ペロナ	百四十	ホヤカ	百四十七
○ブレイク	百三十五	フイレンツェ	百三十三	ベニス	百四十	ホストン	百四十八
○ブレイク	百三十五	ブレンハイム	百三十三	ベルテ岬	百四十	ホリソフ	百四十八
○ブレイク	百三十五	フインランド	百三十三				
○ブレイク	百三十五	プレスアルグ	百三十四				

フ之部

へ之部

ホ之部

メ之部

ニ之部

モ之部

ム之部

ホロニア	百四十九	ホルトガル國	百五十七	マセドニア	百六十五	マセドニア	百六十五	メツカ	百七十三
ホアチエー	百四十九	ホンザラス國	百五十八	マルセイユ	百六十五	マルセイユ	百六十五	メツツ	百七十四
ホラズム	百四十九	ホルスタイン	百五十八	マアチシア	百六十六	マアチシア	百六十六	メルフ	百七十五
ホーツマス	百五十	ボンヤシエリー	百五十八	マルブラケ	百六十七	マルブラケ	百六十七	メシナ	百七十六
ホンコン	百五十	ホーヘンリンデン	百五十九	マダガスカル	百六十七	マダガスカル	百六十七	メンフィス	百七十六
ホアツシー	百五十	マルタ島	百五十九	マールムスベリ	百六十七	マールムスベリ	百六十七	メナナ	百七十六
ホントス	百五十	マカチ	百六十	マーストン・モア	百六十七	マーストン・モア	百六十七	メチア王國	百七十七
ホフニア	百五十一	マンジ	百六十	マゲアアルグ	百六十八	マゲアアルグ	百六十八	メツサナ	百七十七
ホリビア	百五十一	マニラ	百六十	マリアアエンス海峡	百六十八	マリアアエンス海峡	百六十八	メソボミア	百七十七
ホヘミア	百五十二	マラカ	百六十一	ミレ	百六十九	ミレ	百六十九	メサオラム	百七十八
ホル子才島	百五十二	マクタン	百六十一	ミカレ岬	百七十	ミカレ岬	百七十	メクレンブルヒ	百七十八
ホートマク	百五十三	マラトン	百六十二	ミラン	百七十	ミラン	百七十		
ホドソン河	百五十三	マラゾン	百六十三	ミノルカ島	百七十一	ミノルカ島	百七十一		
ホーランド國	百五十三	マリアナ諸島	百六十三	ミソノルカ島	百七十一	ミソノルカ島	百七十一		
ホンバイ	百五十五	マインツ	百六十三	ミシシッピ河	百七十一	ミシシッピ河	百七十一		
ホルタバ	百五十五	マレンゴ	百六十三	ミソロンギ	百七十二	ミソロンギ	百七十二		
ホロザノ	百五十六	マドラス	百六十三	ミヨール・パルセ	百七十二	ミヨール・パルセ	百七十二		
ホスワース	百五十六	マシリア	百六十四	ミヨンスデル	百七十二	ミヨンスデル	百七十二		
ホンメルン	百五十六	マシエンタ	百六十四	ムラヒダ國	百七十三	ムラヒダ國	百七十三		
ホルスクラ	百五十六	マンチチア	百六十四						
ホルト・アーサー	百五十七	マケドニア	百六十五						
ホルトリコ	百五十七								

モスクバ	百八十一	ラゴス島	百八十九	リスボン	百九十七	レオン	二百五
モンテネグロ	百八十二	ライデン	百八十九	リスボア	百九十八	レスス河	二百五
モルワイツ	百八十二	ラドロナ諸島	百八十九	リントン	百九十八	レウニス	二百五
モンデペロ	百八十三	ラングーイ	百九十	リヂア	百九十八	レバント	二百五
モントリール	百八十三	ラオアイン島	百九十	リアザン	百九十八	レグナノ	二百六
モルガルテン	百八十三	ラベンナ	百九十一	リアプール	百九十八	レスボス島	二百六
モンス・サケル	百八十三	ランソン	百九十一	リグニツ	百九十九	レウクトラ	二百七
ヤ之部		ライプチヒ	百九十二	リッパツク	百九十九	レキシントン	二百八
ヤクーツク	百八十四	ラオカラス	百九十二	リッサボン	二百	レオンベルヒ	二百八
ユ之部		ランニミード	百九十二	リチモンド	二百	レヒフェルド	二百八
ユトレヒト	百八十四	ラロシエーユ	百九十三	リッヂビル	二百	ロ之部	
ヨ之部		ライスワイク	百九十三	リッヂエン	二百一	ロザ	二百九
ヨーク	百八十五	ラクタリウス山	百九十四	リトワニア	二百一	ローマ	二百九
ヨークタウン	百八十六	ランゴバルド王国	百九十四	ルアン	二百二	ローマ共和国	二百十
ヨハネスブルク	百八十六	ラウインゲン	百九十五	ルビコン河	二百二	ロシア帝國	二百十
ラ之部		ライスウイク	百九十五	ルマン	二百二	ロンダ	二百十一
ラハ	百八十七	ラウエンブルク	百九十五	ルッテル	二百三	ロッドス島	二百十一
ラミール	百八十七	リニ	百九十六	レイシアナ	二百三	ロセツク港	二百十二
ラ・ハーグ	百八十八	リッサ島	百九十六	ルクセンブルク	二百四	ロテシア	二百十三
ライン河	百八十八	リヨン	百九十六	レ之部		ロイテン	二百十三
ラクリ	百八十八	リグリア共和国	百九十七	レンゼ	二百四	ロスバハ	二百十三
						ロンドン	二百十四

ローマニア	二百十四	アングリカノ教會	二百二十一	伊太利戦争	二百十八	オリンピア十二神	二百三十五
ロシエフオール	二百十四	アカデミー學派	二百二十一	インドロ格	二百十九	オスマンリ土耳其	二百三十六
ロートリンゲン	二百十四	阿富汗戦争	二百二十二	イェルサレム法典	二百十九	カ之部	
ロンバルデア	二百十五	アリア人	二百二十二	維也納會議	二百十九	火藥陰謀	二百三十六
ワ之部		アッパス朝	二百二十三	英米戦争(合衆國第一獨立戦争)	二百三十	學術復興	二百三十七
ワグラム	二百十六	アメリカ南北戦争	二百二十三	英國恐怖時代	二百三十	關稅同盟	二百三十七
ワシントン	二百十六	アンフイクチオン會議	二百二十三	越訴條例	二百三十	畫像破壞時代	二百三十八
ワテロロー	二百十六	アリアマン	二百二十四	英國東印度會社	二百三十一	カペナンター	二百三十八
ワイルマル	二百十七	アウグスツス	二百二十四	エックレシヤ	二百三十一	カルピン教派	二百三十九
ワラキア	二百十七	アケイメチス朝	二百二十四	エミル・アル・オムラ	二百三十一	カルマルの合同	二百三十九
ワツチクニ	二百十八	アンタルキダスの和約	二百二十四	エチルギー不滅説	二百三十一	騎士	二百三十九
ワシントン	二百十八	アルアク朝	二百二十五	オールドフレンチ戦争	二百三十二	希臘正教	二百三十九
ワルシヤワ	二百十八	安息國	二百二十五	奥地利王位繼承戦争	二百三十二	希臘七賢人	二百四十
ワリナワ	二百十九	安都	二百二十五	和蘭獨立戦争	二百三十二	擬十字軍	二百四十
ワルトブルグ	二百十九	伊犁事件	二百二十五	オストラキズモス	二百三十二	金字塔	二百四十
ワールスタット	二百二十	西班牙王位繼承戦争	二百二十六	歐洲自由戦争	二百三十三	希臘四大祭	二百四十一
		印紙條例	二百二十六	黄金文書	二百三十三	金力政治	二百四十一
		伊太利統一戦争	二百二十七	オスマン朝	二百三十四	虛無克	二百四十一
		インカ帝國	二百二十七	オアツセイ	二百三十四	舊教徒符號方案	二百四十二
		イスラム教	二百二十七	オリンピア祭	二百三十五	クリム戦争	二百四十二
		イオニア式の建築	二百二十七	オルムズ	二百三十五	クラーアター	二百四十二
		イリアード	二百二十八			アラナアドル	二百四十二

附録索引

ア行之部

。鴉片戦争……………二百三十一
 亞歷山大王の遠征……………二百三十一

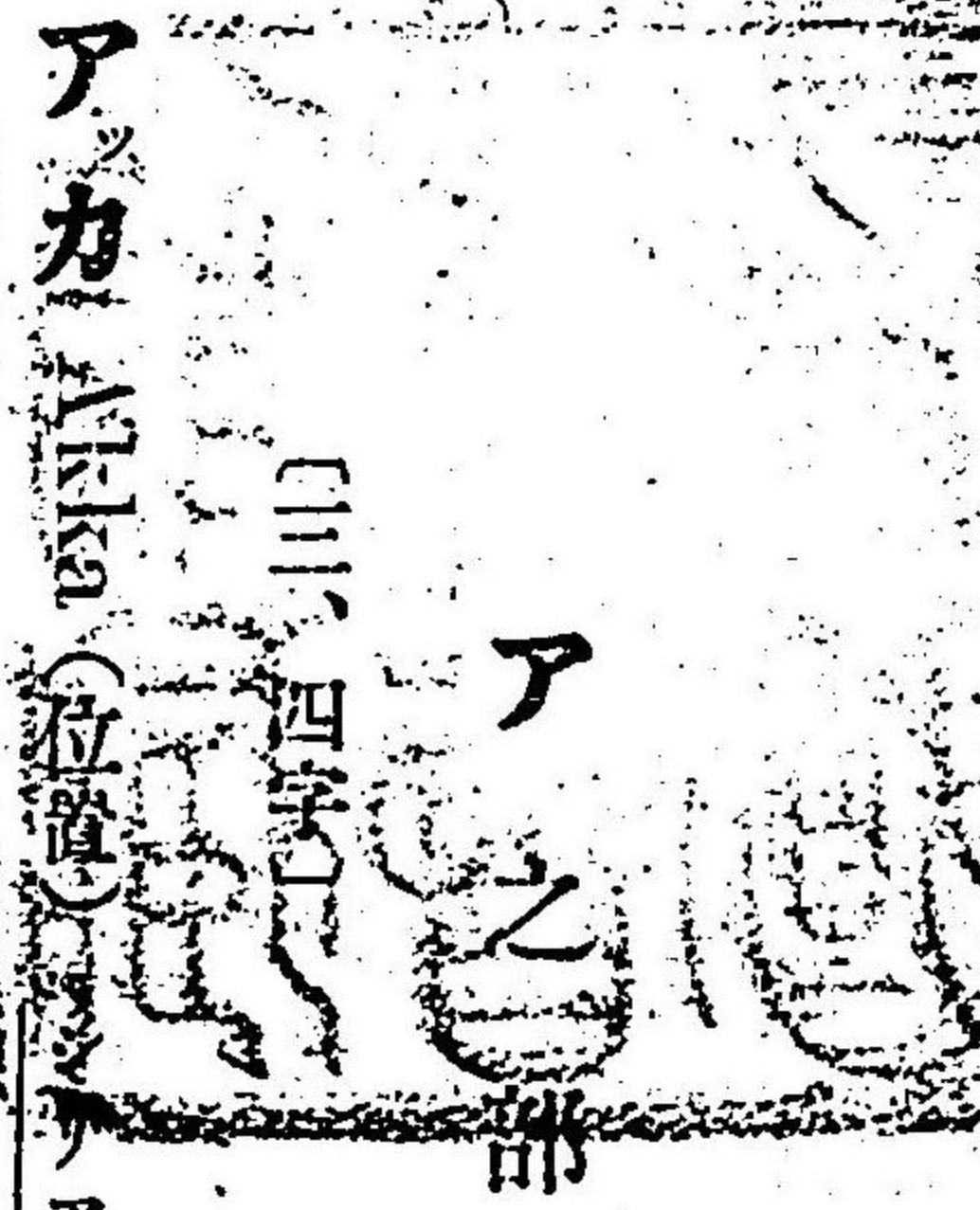
索引

モスレム	三九三	羅馬法王	三九六
モラウィアン教派	三九三	ローマンス語	三九六
毛利耶朝	三九四	羅馬法典	三九六
モーセの十誡	三九四	ワ行の部	三九六
ヤ行の部	三九四	ライプリング語	三九六
耶穌紀元	三九四		
ユグノー戦争	三九四		
幼童十字軍	三九五		
ヨハ子武士	三九五		
ラ行の部	三九六		
ランブ國會	三九六		
ランツク子ヒト	三九六		
ラザッブト種族	三九六		
羅漢嶼	三九七		
リヘルム・ベト	三九七		
律院	三九七		
リバブリカンバプテ	三九七		
ズム	三九七		
ロマーノフ家	三九八		
羅馬の内地征服時代	三九八		
羅馬の外國征服時代	三九八		
羅馬の内亂時代	三九八		

索引終

史地 西洋地名歴史

藤澤直枝編



アデン (位置) 亞刺比亞半島の西南アデン灣に臨める港市。

(歴史) 十字軍の當時歐洲基督教徒が小亞細亞に有ちたる最後の地にして、一二九一年埃及のサルタン此市を攻略するに及び、基督教徒は小亞細亞に於て全く根據を失ひ、十字軍も亦其局を結べり。一七九八年、佛のナポレオン・ボナパルト埃及を遠征して之を平げ、更に進んでシリアに入り、此市を攻圍せしが、土耳其の客將フェリポト(ナポレオン)と同窓の友なり)よく守り、且シドニー・スミスの率ゐたる英國海軍之を援けしを以て、容易に抜くこと能はずして遂に埃及に退却したり。

アデン Aden (亞丁) (位置) 亞刺比亞半島の西南アデン灣に臨める港市。

ア之部

(歴史) 英國は埃及藩王メヘメットが、其勢力を亞刺比亞に張るを惡み居りしが、偶々一八三八年英國商船此港に於て難破し其商品は土人の掠奪する所となれり、英の外務大臣パーマストン埃及に其賠償金を要求せしが埃及藩王之に應ぜざりしかば、翌年兵力を以て此地を占領したり。

アボーカー Aboukir アブーキルを見よ

アルマ Alma (位置) クリム半島の南方を北流する小河。

(歴史) クリム戦争の時、英、佛、土三國の聯合軍此河畔に於て露兵と會戦して之を撃破したり。

アーヘン Aachen (位置) 獨逸の西部マース河の東岸に在る都邑。

(歴史) カロロ大帝國(シヤールマン帝國)の首都たりし地にして、獨逸の選舉王國たりし時代には、皇帝の即位式は此府に擧ぐるを常とせり。一七四八年十月の奧國王位繼承戦争収局の平和條約は此府に於て締結したり。其條約の要綱は左の如し。

一、占略せし土地は互に之を復舊すること。二、シレシアは普國に屬し奧國はプラグマチック・サンクシオン Pragmatic Sanction を維持すること。三、ハンノフェル家は獨逸

諸州并に英國に於ける王位繼承權を得べきこと。

アゾフ Azov (位置) 黒海北部なる一支海。

(歴史) 一六九六年露の彼得大帝此沿岸の地を土耳其より奪ひ、歩を黒海に進むる端緒を開きたり。

アグラ Agra (位置) 印度ガンガ河の上支流ジュームナ河の南岸なる都邑、デリー市の南に當る。

(歴史) 莫臥兒帝國のアクバル大帝、一五六六年此地に城廓を築構して帝國の首都となし、より、オランダグゼブ帝に至るまでの帝都たりき。

アテネ Athenai (雅典) (位置) 希臘アチカ州の西南部に在る都府にしてクフィッソス、イリッソス兩川間の平野に建つ。

(歴史) 太古の傳説によれば、雅典府の創建者たるケクロプスは、埃及なるサイス市より來れりと云ふ。アチカ州の首都にして、波斯戦争後(B.C. 四八〇年の頃)テミストクレス其建築を宏壯にし市區を擴張整理し、全市を繞らすに厚壁を以てし、壯觀堅固を極めしが、ペロポネッソス戦争の後は大に衰頽し、また昔日の如くならざりき。最近世に至り

希臘の土耳其帝國より獨立するや其王國の首府となれり。古來一都府にして多くの人傑を出したるもの此府の右に出づるものなしと云ふ。

アルノ Arno 河(位置) 以太利エトルリア州の北部を西流して海に入る。

アゼニス Athens アテネを見よ。

アプリア Apulia 以太利半島東南部の地。

アンゴラ Angora (位置) 小亞細亞の中央に在り、コニア市の北に當る。

(歴史) 希臘帝國は土耳其人の侵寇を被り帝都コンスタンチノブル危かりしかば東帝特使を派して救を蒙古の帖木兒に乞ふ。帖木兒之を諾して其難に赴き一四〇二年、兵八十餘萬を以て土耳其のバチヤシッド一世が率ゐし四十餘萬の軍と此地に激戦しバチヤシッドを生擒せり。於是土耳其人の勢一時衰へたりき。

アルレス Arles (位置) 今の佛蘭西國の南方、ローヌ河の南岸河口に近き處に在る都邑。

(歴史) アルレス王國(ブルグンド王國)の名は此府より起れり。

アンシラ Ancyra アンカラを見よ。

アブーキル Aboukir (位置) 埃及ニール河の西河口の西に在る小灣。

(歴史) 佛のナポレオン・ボナパルト埃及を遠征したる時、英の海軍の將チルソン一七九六年佛國艦隊を此灣に襲撃して之を殲滅し、ナポレオンをして埃及に孤立せしめたり。此海戦の結果は歐洲各國英國の頼む可きを知り、一七九九年英、澳、葡、露の諸國第二回大同盟を作りて佛國に迫るに至れり。

アキテーヌ Aquitaine アクイタニアを見よ。

アミアン Amiens (位置) 佛蘭西國巴里府の北方に在る都市。

(歴史) 佛國大革命の末期、英佛兩國此地に於て平和條約を締結したり。其條約によれば、英國が占領せし侵地は凡て佛國及び其盟邦に返付せられ、唯英國は西印度なるトリニダードは西班牙に、東印度なるセイロン島はバタビア共和國(和蘭)に返附せられずして之を保有したり。

アルゼン Alsen 島 丁抹半島シロンスウィヒ州の東方近海に在る小島。

アラゴン Aragon (位置) 西班牙の東北部エbro河流域の地方。

(歴史) サラケン人西班牙に於て漸く勢力を失ふに及び、起りたる基督王國の一にして一四六九年此國の王子フェルチナンド、カスチリアの女王イサベラと婚し、一四七九年此

兩國合併して西班牙王國の基礎を開けり。

アラスカ Alaska (位置) 北亞米利加洲の西北部の地方。

(歴史) 此地もと露西亞領なりしが、一八六七年、北米合衆國は露國より此地を買收して其版圖となせり。

アイグン Aigun (愛渾、黒龍江城) (位置) 清國滿州の北部、黒龍江南岸の都邑。

(歴史) 一八五八年、露、清兩國境界談判を開きたる處にして、此時締結したる條約にて、清國は黒龍江以北の地を悉く露國に割譲し、烏蘇里江東の地を露清兩國共有の地となせり。之を愛渾條約と稱す。

〔五字〕

アクチウム Actium 岬 (位置) 希臘の西海岸アカルナニアの西北隅の海角。

(歴史) B.C.三二年九月二日羅馬のオクタウィアヌ(オクタウィア)大に此海角附近に於てアントニウス(アントニー)及び埃及女王クレオパトラの率むし海軍と激戦しオクタウィアヌの艦隊司令官アグリピナ善く戦ひ其艦數の少かりしに關はず其勢猛烈なりしかば戰酣にしてクレオパトラ先づ逃れ、アントニウス其後を慕ひて走りしを以て、

アントニウス及び埃及の水軍は手を束ねて敵に降れり。

アクイレヤ Aquileja (位置) 以太利國アドリア海の西北岸に在り、今のベチチア市。

(歴史) 第五世紀の中葉フン王アチラの歐洲に侵入せし時其破壊する處となれり。

アクチオン Action アクチウムを見よ。

アヴェルサ Aversa (位置) 以太利半島の西海岸ナポリ府の北に當る。

(歴史) 此地に同名の市あり、一〇二七年北人の以太利に侵入せし者、ナポリ侯より土地を與へられて建設せし都なり。

アプリエン Apuliens アプリアを見よ。

アジジク Ajaccio (位置) コルシカ島の西海岸なる都邑。

(歴史) 曠世の英雄佛帝ナポレオン第一世、一七六九年八月十五日を以て此府に生れたり。

アンボイナ Amboina 島 (位置) 東印度モルツカ群島ニギニア島とセレベス島との間に在る小島。

(歴史) 和蘭東印度領の首府は、はじめ此島に置かれしが、後瓜哇島のバタビア市に移

れり。第十七世紀の始めの頃英、蘭二國商業上の競争の結果、一六二三年蘭人は此島に居留せし英人及び日本人の傭兵とを捕へて拷問し、隠謀の罪に伏せしめ、其過半を虐殺せしことあり。英國政府は此件につき、和蘭政府に嚴談する處ありしが、當時和蘭は其勢強大なりしか。遂に其要領を得ること能はざりき。之をアンボイナの虐殺と云ふ。

アスペルン

Aspern (位置)

(歴史) 一八〇九年佛墺戦争の時、墺地利軍の東方小距離ドナウ河の左岸に在り。

一世の軍を撃破し、佛軍をして、ドナウ河南に退却するの止むを得ざらしめたり。

アルメニア

Armenia (位置)

(歴史) 一八九五年より一八九六年に亘りて此地方の基督教徒は土耳其人の迫害を被れり。アルメニア虐殺事件と稱する之れなり。

アヤクチ

Ayacucho (位置)

南米ペルー國の南方に在り、リマ府を距る東南凡そ七十里許。

(歴史)

ペルー獨立戦争の時、

コロムビアの陸軍總督スクレ五千七百の寡兵を以て九千餘の西班牙兵を撃破し、西班牙ペルー大守を擒にし其全軍を降し爲めにペルー其獨立を

得たり。時に一八二四年十二月八日なりき。

アッシリア

Assyria 王國 (位置)

チグリス河上流の地に建てられたる王國。

(歴史)

B.C. 一二五〇年の頃カルデア國に反して獨立し、遂にカルデア國を滅して四隣を併

呑し、B.C. 六七二年埃及國をも征服し、一時強盛を極めしが、B.C. 六〇六年バビロニア人の爲めに亡されたり。

アリカンテ

Alicante (位置)

西班牙の東南部バレンシア州の東南海岸に在る港市。

(歴史)

一八五二年(天正十年)出發せし我日本九州なる大友、有馬、大村三侯の羅馬遣使西班牙より羅馬に至る時、西班牙を出發したる所は此港なり。

アルジェリア

Algeria (位置)

亞弗利加洲の北部地中海に沿へる地方。

(歴史)

第十五世紀の中葉、獨逸帝カロー五世、此地の海賊掃蕩を企てしが颶風にあひて功を奏せざりき。其後此地土耳其領となりしが、海賊此地を根據として商船を掠め交通を妨害せしかば、佛のカロー十世は民望を博せんが爲め、一八三〇年兵を遣はして遂に此地を占領せり。

アルゼリー

Algérie アルジェリアを見よ。

アルバジン

Albasin (位置)

蒙古及び西比利亞の境オノン(斡難)河の南

岸に在り、露領に屬す。

(歴史) 露のコサック探検隊は、一六四九年此地に城廓を築き東方侵略の根據地となし、清の滿州軍と衝突し、一時清兵を撃退せしが、一六八五年に至り、清兵の攻圍にあひて陥落し其城廓は爲めに破毀せられたり。

〔六、七字〕

アクイタニア Aquitania

(位置) 佛蘭西の西南部がローヌ河北の地方。

(歴史) 英王ヘンリ二世、佛王ルイ七世の寡婦を娶りしより、其領土なりしアクイタニア州は英王の領地に歸し、先に有せしノルマンディーの地とを合する時は、佛國內に於ける英王の領土は佛王領よりも却て廣大なるに至り、兩國の軋轢益甚しきを加へ、遂に百年戦争の遠因を爲すに至りしが、百年戦争後佛王の手に歸せり。

アヴィニオン Avignon

(位置) 佛國ローヌ河の下流東岸に在り。

(歴史) 第十四世紀の始め、佛王、羅馬法王と軋轢し、佛王フィリポ四世は、一三〇九年羅馬法王ボニファチオ八世を廢し、佛國の僧クレメンヌ五世を立て、法王となし、此地に居らしめたり。之れより以後六十餘年間法王は唯佛王の願使に従ひき。

アクロポリス Akropolis

(位置) 希臘雅典府なる丘岡の名。

(歴史) 此地にペリクレス時代に建設せられたる、バルセノンと稱する莊麗なるアセナ神の廟宇あり。希臘有名なる彫刻家フィディアスの監督の下に建てられ、フィディアス自身の彫刻を以て之を裝飾し、且殿内に安置せるアセナ神の彫像は、フィディアスの作にして象牙を以て之を造れり。廟宇は白大理石を以て作り其結構の整齊莊嚴なる實に世界建築術の模範なりと云ふ。

アゼンクール Azincourt

(位置) 佛國の東北部ブローニヤ港の東南に在り。

(歴史) 百年戦争の時英王ヘンリ五世佛國に侵入し、一四一五年此地に於て大に佛軍を破り巴里を圍めり。

アイスレベン Eisleben

(位置) 獨逸マグデブルグ府とライプツヒ府との殆んど中間に在り。

(歴史) 宗教改革の英傑マルチン・ルーテル、一四八三年十一月十日を以て此地に生れ、一五四六年二月二十八日此地に寂しき。

アイスランド Iceland

(位置) 英國の北に當れる一大島。

(歴史) 八七四年北人此島を發見し、

の制度言語宗教を移したり。

アンチオキア Antiochia

(位置) シリアの西部地中海岸に近き所に在る都邑。

(歴史) 亞歷山大王の版圖分裂後セレウコス家のシリア王國の首都たりし所なり。

アウデナルデ Oudendarde (位置) 白耳義國の西南部シエルデ河の東岸に在り、ブルッセル府の西に當る。

(歴史) 西班牙王位繼承戦争の時、一七〇八年、英將マルボロー侯煥將オイゲインの聯合軍此地に於て大に佛軍を撃破せり。

アウグスブルヒ Augsburg (位置) 獨逸國バウリア、ドナウ河の上流沿岸に在る都府。

(歴史) 九五五年獨逸帝オトー一世此處に於て、匈牙利人と戦て大に之を破り、爾後また入寇するを得ざらしめたり。一五三〇年カロー五世此府に國會を開きし時、新教徒はマルチノ・ルーテルの親友メラントンの編述せる信仰書を捧呈して、新教信仰の自由を得んことを望みしも、國會は遂に新教禁制の決議をなし、かば、新教に歸依せる諸侯都市は合同して、一五三一年シマールカルデン同盟を結びて相救援せり。降て一五五五年カロー五世、また此地に宗教會議を開き、新教信仰の自由を許與し、新舊兩教の同權を公認し獨逸に於ける宗教改革漸く成れり。一六八六年佛王ルイ十四世のフールツ戦争を起すや、獨逸諸國は此市に於て同盟條約を結び聯合して佛王に抗したり。

アムステルダム Amsterdam (位置) 和蘭ゾイデルゼーの東南岸に在る都府。

(歴史) 佛王ルイ十四世、西班牙領チーデルランド(今の白耳義の地)を併呑せんとせし時、和蘭は英國及び瑞典と同盟して之を妨げしかば、佛王大に怒り、一六七二年和蘭を伐ち、直に首府アムステルダムに進軍せり。和蘭の防禦總督オランジ、侯ウィルレム三世英斷を以て、堤防を決し海水を注ぎて漸く佛軍を退け、僅に府の陥落を免れたり。一六九七年露の彼得大帝文明觀察の爲め、西歐を巡り此府に入りて、其知見を廣めしこと尠からざりき。近世哲學の大家スピノザ一六三二年十二月此府に生れき。和蘭國王は此府に於て即位式を舉行するを常例となす。

アウストラリア Australia (位置) 南太平洋中の一大陸。

(歴史) 一六一〇年、蘭人タスマン初めて之を發見し新和蘭と稱へしが、一七七〇年、有名なる英の探檢家ジェームス・クック、英國政府の命を奉じて、南太平洋の探檢航海をなし、此大陸を占領し其狀況を政府に報告せり。是に於て、英相ピット其報告に基き、一七八八年始めて罪人を此に移派し、其拓殖に従事せしめたり。

アドリアノプル Adrianople (位置) 歐羅巴土耳其古の東南部マリツア河の東岸な

る都府。

ア之部

(歴史) 土耳其帝ムラード一世都を此府に定め、コンスタンチノブル落城以前土帝國の首府たり。三七八年東羅馬帝ワレンス此地に於て西ゴート人と戦を交へ、敗績して陣中に殞しき。後一八二八、九年の露土戦争の講和條約は此府にて締結せり一八二九年九月。其條約によれば

a. 土耳其帝は希臘の獨立を承認すること。

b. 露國にモルダヴィア、ワラキア二州の主權を讓與すること。

c. 黒海航行の自由及びバルダゲル海峽通過の自由を露國に與ふること。

〔八、九字〕

アウステルリッツ

Austerlitz

(位置)

奥地利メーレン(モラヴィア)州に在り、
リッパの東方小距離。

(歴史) 一八〇五年十二月二日、佛帝ナポレオン一世奥地利に侵入し、奥帝フランチス二世露帝アレクサンドルの率ゐたる奥露聯合軍を撃破し、奥帝は和を請ひ露兵は退却せり之れ有名なるアウステルリッツノ三帝合戦なり。

アドリアノーポリス

Adrianopolis

アドリアノブルを見よ、

アレクサンドリア

Alexandria

アレクサンドル大王建設の府は皆アレクサンドリ

アと稱し、其數甚だ多かりしが、埃及地中海岸なるもの最も著はる。埃及なるはB.C.三三二年、大王波斯遠征の途次埃及を征服し、紀念の爲めに自ら圖を劃し、名匠デインクラテスを工事奉行に任じリヒアンの故墟に建設したるものなり。此府には有名なる文庫ありしが、羅馬のケーザル埃及に遠征し其王位繼承戦亂に關涉せし時、其兵火延いて文庫に及び珍書秘録數を悉して烏有に歸せり、時にC.五五年。

アウエルステット

Auerstedt

(位置) 獨逸ドレスデン府の西方、

リニッテンの西南に在り。

(歴史) 一八〇六年、佛、普の平和破れ、佛軍獨逸に侵入し、十月十四日佛將ダビエ此地に於て普王フレデリキウ・ルム三世の軍を逆へ、縦横奮撃して大に普露兩軍を破り、普國の精銳全く此一役に滅亡したり。

アルトランステット

Alttransicht

(位置)

獨逸國サクソニアなるライプチヒ府の西に在る都邑。

ア之部

(歴史) 北方大戦争の時、一七〇六年瑞典王カロロ十二世波蘭全國を征服し、此地に於て和を講じ、波蘭王アウグスト二世を廢しレスチンスキーを立て、波蘭國王となせり。

イ之部

〔三、四字〕

イソス Issos (位置) 小亞細亞地中海の東北隅、イソス灣頭に在り。

(歴史) アレクサンドル大王遠征の時、B.C.三三三年十一月此地に於て波斯の大軍と激戦し、波斯王ダリウス三世勇武寶輦を矢石の間に驅りて縦横力戦せしも、軍遂に敗れ、王母王妃及び王子爲めに虜となりき。

イラン Iran (伊蘭)國 元の旭烈兀兄憲宗の命を奉じ、西征して一二五八年バグダードを陥れ。哈利發モスタシムを降して、アベス朝を滅し阿母河以外西方亞細亞一帶の地を略定し其子孫世々此地に君臨せり、之をイラン國と稱し、國都をマラシア(ウルミヤ湖の東)に定めたり。後十四世紀の中葉に至り帖木兒の興起するに及び其滅す所となれり。

イツサス Issus イソスを見よ。

イプス Ipsus (位置) 小亞細亞の西部フリギアに在り。

(歴史) 此地に於て、B.C.三〇一年アレクサンドル大王の死後、其諸將權勢を争ひて決戦し大王の領土四大分せり。

イプサス Ipsus イプサスを見よ

イギリス England (英吉利)國 はじめ、ブリタニアと稱せり。羅馬帝國のために征服せられしが第五世紀の頃大陸よりアングロ、サクソン人等海を渡りて侵入しブリトン人を征服せり、是れ即ち今の英國人の祖先にして就中アングロ人最も強盛なりしかば、國名も遂に一變してイングラント England と云ふに至れり。降て十一世紀の初に至りデーン人の爲めに征服せられ、幾もなくして佛國ノルマンディー侯ウィルレム兵を率ゐ英國に侵入して王位に登り、佛の言語習俗を移したり。是に於て英國の言語混雜せり。此國は一二一五年大憲章 Magna Charta の裁可あり、一二六五年議會 Parliament を開設せしより漸次發達して立憲政體の完備せるは他の歐洲諸國より早時かりき。海軍の發達はエリザベタ女王の代一五八八年西班牙の必勝艦隊 Invincible Armada を破りて海上の覇權英國に歸してより國運發達し、航海殖民の業隆然として興り今日の隆盛を見るに至れり。王統は幾多の變更ありし後一七一四年獨逸なるハンノフェルより入りて、ジョルジ

一世英王位に登りしより其王統今日に及べり、之をハンノフェル王統となす。

イタリア

Italia (イタリア) 國

現今のイタリア王國はサルヂニア國王ビクトリオ・

エムマヌエロ名相カノールを用ゐて、佛帝ナポレオン三世の力を藉り、或は普魯西亞と

同盟し塊地利に抗して、イタリア統一の事を擧げ、一八六一年イタリア王位に登りてよ

り、茲にはじめてイタリア王國の成立を見るに至れり。

〔五、六、字〕

イスパハン

Ispahan (イラク) 亦思弗罕 (位置)

波斯の中央内地に在る都邑。

(歴史) 第十一世紀の頃、セルジック土耳其人の都たりし所にして、第十四世紀の末葉、

帖木兒中央亞細亞より起り、伊蘭國を伐ちて波斯に侵入し、此府を攻略し七萬の住民を

屠殺したり。

イルクツク

Irkutsk (位置)

露領西比利亞イルクツク省バイカル湖の西南に在る都府。

(歴史) 露のカタリナ女帝は、此府に日本語學校を設立し、歸化日本漂民を以て其教師

となし、日本語を教授せしめたることあり。

インケルマン

Inkermann (位置)

クリム半島の南西セバストポルの北に在り。

(歴史) クリム戦争の時、露軍は此地に於て、英、佛聯合軍と血戦せしが、聯合軍の爲めに竟に撃退せられたり。

イギリス海峡

English Channel (位置)

英佛兩國間の海峡。

(歴史) 此海峡に於て、一五八八年英國海軍は西班牙の必勝艦隊 (Invincible Armada) を

を邀撃し、奮戦七日大に之を破り、西國艦隊百三十餘隻中本國に歸るを得しもの僅に三

分の一に過ぎず。之より西班牙國の勢力大に衰へ、英國代りて海上に雄飛するに至れり。

エルサレム

Jerusalem (位置)

パレスチナ死海の近傍西北に在る市。

(歴史) 古へ猶太王國の首都たりし所。三十三年耶蘇教祖基督は此府の郊外に於て羅馬

官吏の爲めに磔刑に處せられたり。第九世紀の頃より西歐諸國に於て此聖地を巡禮する

こと漸く行はれしが第十一世紀に至りて此風益々流行したり、然るに此地土耳其人の爲

めに占領せらるゝに及び巡拜者の虐待を被ること甚しかりしを以て西歐の諸國は異教徒

たる土耳其人より此聖地を回復せんとし、こゝに有名なる十字軍を見るに至れり。而し

て第一十字軍は其功を奏し一〇九九年聖地保護の爲めに「神聖都府のラテン」王國を建設

せしが、一一八七年遂に埃及の名將サラデンの爲めに再び聖地を略奪せられ神聖王國遂

に亡び復た回復せられり。

イニセイスク Jeniseisk (位置) 露領西比利亞イニセイスク省の西南イニセイ河の上流右岸に在る都府。

(歴史) 一六一八年露帝ミハイル、ペテロ・アリプチャに命じて建設せしめたる都砦なり。此砦の成るや露國政府は訓令をアリプチャに下して土人の服化せしものは丁寧に之を待遇し厚く保護せしめき。之れより以後西比利亞土人の状態一變し背叛を企つもの少なかりき。

ウ之部

〔三、四、五、字〕

ウチカ Utsica (位置) 亞弗利加の北海岸バグラダス河口の北に在り、カルタゴの北に當る。

(歴史) 此地はフェニキア人の殖民地の一なり。

ウスリ Ussuri (烏蘇里) 江 (位置) 清國滿洲の東部を北流して黒龍江に入る。

(歴史) 一八六〇年、英、佛聯合軍の爲めに清都北京占領せられし時、露國公使其間に調

停の勞を執り、其報酬として、遂に清國より此江以東の地を割讓せしめたり。(アイグン参照)

ウルム Urum (位置) 獨逸の西南、ドナウ河の上流北岸なる都府。

(歴史) 一八〇五年、佛帝ナポレオン第一世十六萬の大軍を將て、獨逸に侵入し。此府に於て煥將マツハを破り其三萬餘人を降せり。

ウエールト Waerth (位置) 獨逸の西部エルザス州の東北隅に在り。

(歴史) 一八七一年の普佛戦争の時、八月六日普國皇太子フレデリキ・カロロ親王、大に佛將マシマオンの軍を此地に於て撃破せり。

ウオルムス Worms (位置) 獨逸國ライン河の中流西岸なる都邑。

(歴史) 一二二二年、此府に於て條約を結び、神聖羅馬皇帝と羅馬法王との争權一時其局を結べり。一五二二年、獨逸帝カロロ五世羅馬法王レオ五世の請を容れ、此府に國會を開き、マルチノ・ルーテルを召喚して其所説を棄てしめんとせしが、ルーテル勅命に従ふを拒みき、帝よつて勅令を發しルーテルを異端者となし、其徒と共に法律の保護を停止せり。

ウェールス Wales イングランドの西部沿海の地方。

ウトレヒト Utrecht フートレヒトを見よ。

〔七、八、九字〕

ウインチェスター Winchester (位置) 英國の南部ハンプシャーに在る一都邑、サラムプトン市の北に當る。

(歴史) 百年戦争の時、佛王カロロ五世海軍を以て、此市を焚掠せしことありき。

ウエストフリア Westphalia (位置) 獨逸國西部の一地方。

(歴史) 一六四八年、三十年戦争の講和會議を開きたる處にして、此會議は實に歐洲列國會議の最始にして、締結せられたる條約は、近世史上有名なるものなり。其條約により、佛國瑞典バワリヤ等の諸國は其領土を増加し、和蘭瑞西の二國は公然其獨立を承認せられ、カトリック、ルーテル、カルビンの三教派は同一の權利を與へられたり。

ウラヂボストク Vladivostok (位置) 烏蘇里江東なる露領西比利亞沿岸州の南方なる港市。

(歴史) 一八六〇年、露艦此地を占據し、同年清國より東方沿岸の地を割讓せしむるに及び、大に經營して軍港となしたり。

ウツテンベルヒ Wittenberg (位置) 獨逸國サクソニアの北部エルベ河の東岸なる都邑。

(歴史) 此府の大學神學教授マルチノ・ルーテル羅馬法王レオ十世の贖罪符販賣に反對し、一五一七年十月三十日、九十五條の意見書を此市の寺門に掲げ、汎く之を衆議に訴へたり。法王レオ之を怒り、ルーテルを破門しき、ルーテル敢て屈せず、一五二〇年十二月十日此市に於て公然法王の破門狀を燒棄せり。

ウンキアル・スケレシ Unkar Skelessi (位置) ホスポロス海峽東岸に在る村、コンスタンチノブル府を距る東北三里許。

(歴史) 一八三三年、埃及藩王メヘメット・アリ土廷に叛きし時、露國は此地に於て、土耳其帝國と八年間の防禦同盟を密約せり。其條約によれば、露國が他の國と開戦することあるも、土耳其は實力の援助をなすに及ばず、唯列國艦隊のダルダネル海峽を通過するを拒む可しと。之に對し、英、佛二國聯合して抗議を提出し、一八四一年に至り、漸く其條約を廢棄せしめたり。

エ之部

「二、三、字」

エリー Erie 湖 (位置) 北米カナダと、合衆國との間に在る湖にしてヒューロン、オンタリオ兩湖間に在り。

(歴史) 北米合衆國第二獨立戰役と稱せらるゝ一八一二年より同一五年に亘れる英米戰爭の時、一八一三年、合衆國の水提督ペリー、(嘉永年間我日本國に來れりし人)艦隊を組織して此湖上に泛べ英の水師を撃破したり。

エムス Ems (位置) 獨逸國フランクフルト府の東北、ライン河の東岸に在る小市。

(歴史) 一八七〇年七月九日、駐普佛國公使は、此市に滞在せる普王ウィルヘルム四世に面謁して、ホーヘンツォルレルン家の親王が、西班牙の王位を繼承せざらんことを強請して謝絶せられたり。

エークル Acre アッカを見よ。

エーゲル Eger (位置) 奥地利ボヘミアの西部に在り。

(歴史) 三十年戰爭當時の英傑ワレンスタイン、此地に於て一六三四年、皇帝の遣はせる刺客の爲めに殺されたり。

エギナ Aegina 島 (位置) 希臘サロニコス灣内に在る一小島なり。

(歴史) 第三波斯戰爭の時、希臘のテミストクレスが、雅典の幼老婦女をして避難せしめたるは此島なり。

「四、五字」

エデッサ Edessa (位置) メソポタミアの西部エウフラト河の上流なる都邑。

第一十字軍後、此府は基督教徒の領する所なりしが、一一四六年、土耳古人此府を攻めて之を破壊し、イェルサレム王國に迫りしかば、第二十字軍起るに至れり。

エジンコート Azincourt アゼンクールを見よ。

エクバタナ Ekbatana (阿贊) (位置) 波斯ササ府の北方に當る。

(歴史) 此府は古代波斯王國離宮のありし處なり。

エレトリア Eritria (位置) 希臘東海エウポイア島の西海岸に在る港市。

(歴史) 小亞細亞なる希臘殖民地の人民、波斯に反して蜂起せし時、此府の人民は、雅典人と力を併せて殖民地人民を援け、B.C. 四九八年、小亞細亞なるサルデス市を圍みて之を陥れ、烏有に歸せしめたり。此事は終に波斯戰爭の直接の原因となり、第二波斯戰爭

の時、波斯兵の爲めに圍まれ、内應者によりて陥落し、生残りたる市民は、波斯のササ府に送られたりき。

エクノムス Ecnomus (位置) シテリア島の西方海岸に在り。

(歴史) 第一ポエニ(ビローニク)戦争の時、此處に於て羅馬の海軍、カルタゴの海軍と會戦して之を撃破せり。時にB.C.二五六年にして羅馬の戦艦三三〇カルタゴの戦艦三五〇なりき。

エルフルト Erfurt (位置) 獨逸國ウチゼル河の上流東方にある都市、ライプチヒ府の西南に當る。

(歴史) 佛帝ナポレオン第一世、一八〇八年十月、此市に諸侯會議を開き、四王三十四侯獨逸諸親王をして、其歸服を宣誓せしめたり。

エウフラト Euphrates 河(位置) 小亞細亞に源を發し、東南流して波斯灣に注ぐ、下流はチグリス河と合す。

(歴史) 此河及びチグリス兩河域の地には。古代文明諸國多く建られたるを以て著はる。
〔六、八字〕

エゴスポタミ Aegospotami (位置) ヘレスポント海峡西岸に在り。

(歴史) 希臘ペロポネソス戦争の時、スパルタの名將リサンデル雅典の艦隊を殄滅せし所なり。

エイクス・ラシネル Aix-la-chapelle アーヘンを見よ。

オ之部

〔四、五、七、字〕

オトラル Otrar (訛打刺)(位置) 中央亞細亞、シル河の中流東岸に在り。

(歴史) 一四〇五年、帖木兒明國を征せんとし、途此地に至り病で没せり。

オルムズ Ormuz 島(位置) 波斯灣口に在る小島又。ホルムズ Hormuz。

(歴史) 葡萄牙の印度總督アルブケルケ、一五一五年、波斯國より此島を略奪し、此に堅岩を城き以て葡國東洋の策源地となしき。

オリノコ Orinoco 河(位置) 南亞米利加の北部を東流す。

(歴史) 一四九八年、コロンブス第三回の航海に於て此河口の地を發見せり、

オトラント Oranto (位置) 以太利半島の東南隅に在る都市。

(歴史) 一四八〇年、土耳其王ムハメッド二世西歐を席卷せんと欲し、先づ此市を攻畧せしが、翌年病没し、雄圖空しくなりしが、此市陥落の報は、西歐の人をして其膽を寒からしめき。

オルレアン Orleans (位置) 佛國ロアール河の中流北岸に在る都府。

(歴史) 百年戦争の時、一四二九年、佛國しきりに破れ、英軍の爲めに陥れられざりしは、唯オルレアン城ありしのみにて、佛國の危機實に旦夕に迫れるの時に當り、一少女ジアンヌ・ダルク遂に其圍を解き、之れより佛軍は連戦連勝英軍を佛國以外に驅逐したり。
オルミッツ Olmütz (位置) 奥地利國モラウイア州の北部、ブリューン府の東北に在る町。

(歴史) 第十九世紀の初めより普、奥、兩國獨逸の覇を争ひ、普國は奥國を除外して獨逸聯合を作り、奥國は之に反對し、將に兩國間の平和破れんとせしが、一八五〇年十一月廿九日、此町の會議に於て、普國は獨逸聯邦議會の存在を認め、自ら獨逸聯合を解散することを奥國に約し、僅に事なきを得たり。然れども之によりて、獨逸統一の事業は一蹶不振をなしたりき。

オスナブリック Osnabrück (位置) 獨逸ハンノフェルの西部ウエストフハリアに近き所に在る都府。

(歴史) 一六四八年のウエストフハリア平和條約は、此府とミュンスター府とに於て商議を重ねたるを以て「ウエストフハリア平和條約を一にオスナブリック及びミュンスターの平和條約とも云ふ。

カ之部

「二、三、字」

カレ Carthage (位置) 西方亞細亞メソポタミアの西部エウフラト河の東方に在り。

(歴史) 羅馬のクラッス、西利亞の太守となり、バルチア(安息)を伐ち、其名將スレナスの計に陥り、B.C.五三年此市の近傍に於て敗死したり。是に於て、從來赫々たりし小亞細亞に於ける羅馬の勢威一朝にして地に墜ちたり。

カレ Calais (位置) 佛國の東北隅にて、英吉利海峽に臨める港市、

(歴史) 英佛百年戦争の終に於て、此地のみは猶英領として佛國內に存在せしが、其後

一五五八年、英のマリア女王西班牙と結び、佛國と開戦し、遂に佛軍の爲めに此地をも回復せられ、英國は全く大陸に版圖を有せざるに至れり。

ガリア Gallia (位置) 今の佛蘭西及び其北方附近の地を稱したり。

(歴史) 此地方には、ケルト人種の一支部ガリ(Galli或はGauls)種居住せしが、其東北なるゲルマニ種の爲めに、漸次壓迫せられ、其一部アルプ山を超へ、以太利の地に侵入し、B.C.三九〇年には羅馬府を襲ひ市内に闖入し焚掠を極め、羅馬人は贈遺を厚ふして僅に之を退けたり。降りて羅馬の内亂時代に至り、ケーザルのガリア太守に任せらるゝや、前後八年を費しB.C.四九年には、悉く此地方を征服せり。之れよりガリア地方羅馬文明の餘澤を被り、漸次開明に赴くの端を開けり。

カザン Kazan 府 露國カザン州ボルガ河の東岸に在る市。

カナダ Canada (位置) 北米大陸合衆國北部の地。

(歴史) 此地もと佛蘭西の殖民地の一なりしが、オールド・フレンチ戦争の結果、一七六三年巴里の條約により英領と確定したり。

カリコ Calicut (位置) 印度西海岸南方に在る一都邑。

(歴史) 一四八六年、コピラム葡萄牙王の命を承け、紅海より印度に赴き此地に達したることありしが、一四九八年に至り、バスコ・ダ・ガマは、葡王マヌエロ一世の命を奉じ亞弗利加西海岸を廻りて印度洋を横ぎり、此地に達し東西航路を開通せり。

カン子 Cannae (位置) 意太利亞の南東部アブリア州アウフィツス河下流の平原。
(歴史) 第二ポエニ戦争の時、B.C.二一六年カルタゴの將軍ハンニバル五萬の兵を以て、八萬六千の羅馬軍と決戦し、羅馬軍全く敗績し戦死者七萬の多きに上り執政、護民官、議員の戦場に斃るゝもの甚だ多く羅馬府震撼せり。然れども此大勝はハンニバルが最後の大勝なりき。

カーセージ Carthage カルタゴを見よ。

ガチル Gadir 西班牙の西南海岸に在り、今のカチスの地。フォエニキア人の建設にかゝる殖民市なり。

カナン Canan パレスチナの地方。

カイロ Cairo (位置) 埃及に在る都府。
(歴史) サラケン帝國分裂後、ファテマイト哈利發廳の在りし所。

カンヌ

Cannes (位置) 佛國地中海岸の東部に在る小港。

(歴史) 佛のナポレオン第一世、エルバの配處を脱し、一八一五年三月一日此地に上陸したり。

カルス

Kars (位置) 露領カフカズの西南部なる都邑。

(歴史) 一八七七年露土戦争の時、露軍此町を占領せしが、一八七八年の伯林列國會議に於て露國となりぬ。

カヂス

Cadiz (位置) 西班牙國西南海岸なる港市。

(歴史) 一八〇五年なるトラファルガル大海戦の前、英將ネルソン此港に佛、西兩國艦隊を封鎖したり。一八二三年西班牙革命黨の最後の根據地なりき。(ガヂルを参照せよ)

カノサ

Canossa (位置) 以太利の北部、ジェノバの東方に當れる所に在る市。

(歴史) 一〇七七年神聖羅馬帝國皇帝ヘンリ四世此地に於て羅馬法王グレゴリオ七世に謁し、徒跣單衣庭中に立つこと三日にして、僅に其破門 Excommunicationの罪を赦されたり。

カルタグ

Cartago (位置) 亞弗利加の北岸に在りし都市。今のチュニス市の北

に當る。

〔四字〕

(歴史) 此市もと、フェニキア人の殖民市の一なりしが、B.C.二六〇年の頃には、其勢強盛にして、羅馬と相頡抗する程なりき。然るに、ポエニ戦争起りて、遂にC.一四六年羅馬軍の爲めに都城陥落し、都府焚掠せられて焦土と化したり。(ワンダル王國を参照せよ)

カルツーム

Khartum (位置) 亞弗利加スダンなる、白ニール青ニール兩河の合流

點に在る市。又ハルツーム。

(歴史) 有名なる英のゴルドン(才登)將軍、蘇丹を遠征し、此地に於て偽聖マーチの爲めに攻圍せられ、防守よく力めしも、孤軍援なく、遂に一八八五年一月二十六日戦死したり。

カルデア

Chaldia 王國 ハビロニア王國の一名。

カルマル

Kalmar (位置) 瑞典國の東南海岸に在る市。

(歴史) 一三九七年、此市に於て丁抹、瑞典、諾威の三國同盟條約を締結し、三國合し

て丁抹王の管下に屬したり。

カスチリア (Castile) (位置) 西班牙國中央部なる地方。

(歴史) サラケン人の盛なりし時西班牙半島の基督教徒は西北山中に逃れしが十五世紀の頃コルドバの哈利發國の勢衰ふるに及び基督教國各地に興りカスチリアも其王國の一なりき此地の女王イサベラ、アラゴンの王子と婚し、一四七九年カスチリア、アラゴン兩國合併して、西班牙王國の基礎を開きたり。

カナノル (Cananor) (位置) 印度半島の西海岸に在る市、カリコ市の北に當る。

(歴史) 葡萄牙の印度總督アルメイダ、一五〇五年此市を奪ひ、堡寨を建設し以て葡人の商業を保護したり。

カントン (廣東) (位置) 支那南海岸、廣東省に在る都府。

(歴史) 葡萄牙人東進し、一五一七年、始めて此地に來り、支那と通商貿易を開きたり。降て鴉片戦争の時、此府は英人の爲めに占領せられしことありき、

カメントツ Kamentsz (位置) 獨逸國サクソニアに在り。

(歴史) 獨逸文學に於て偉大なる功績ある有名なる文豪レッシング氏、一七二九年を以

て此地に誕生せり。

カラカス Caracas (位置) 南米ベテスエラ國の首府にして北方海岸に在り。

(歴史) 南米諸國獨立の際、大に其力を盡し、絶大の偉勳を奏したるシモン・ポリベル氏生誕の地なり。

カラフト Karafuto (樺太) (位置) 日本國北海道の北なる一大島。

(歴史) 日、露兩國雜居地として、其境界問題は久しく兩國間の物議たりしが、一八七五年、日本國は千島列島の全部を得、露は樺太全島を領して漸く其紛議落着したり（今は日露戦争の停戦中、樺太は中立地帯に置かれ、五、六、字）

ガリポリ Gallipoli 歐羅土耳其古東南半島に在る都市。

ガスタイン Gastein (位置) 奥地利の西部に在る小市。

(歴史) シュレスウィヒ、ホルスタイン戦争の後、其二州の處置に關して、普、奥兩國此市に於て、一八六五年條約を締結し、普國はシュレスウィヒを管し、奥國はホルスタインを管理するを約し、兩國間の平和一時保維せられたり。

カツバハ Katzbach 川 (位置) 獨逸オーダー河の支流サクソニアに在り。

(歴史) 歐洲諸國が、ナポレオン一世に對する自由大戦争の時、一八一三年八月二十三日、普の名將フリーデヘル普露の聯合軍を督し、此河畔に於て佛將マグトナールを合撃して大勝を博せり。此功によりフリーデヘルはワールスタット侯に叙せられき。

カタラウニ Catalauni (位置) 佛國巴里の東方に當る所に在り。

(歴史) 四五一年、西羅馬の名將エーチウス西ゴート王テオドリツヒと兵を合せ、フン國王アチラと此地に於て一大決戦をなし、アチラの軍を破り之をして退却せしめたり。

カラコルム Karakorum (和林) (位置) 蒙古の北部ウルガ(庫倫)市の西南に當る所に在り。

(歴史) 元の世祖忽必烈フビライの北京遷都以前、蒙古の首都たりし處なり。

〔六字〕

カリカドヌス Calycadnus 河(位置) 小亞細亞の南東、キリキアに在る小河。

(歴史) 第三十字軍の時、獨逸帝フレデリキ一世、一一九〇年此河に於て溺死せり。

カムチツカ Kamtchatka (堪察加) 半島(位置) 露領西比利亞沿海州の東南なる半島。

(歴史) 露國の派遣せるコサック探險隊は一六三二年に此地に達せしが、一六二九年彼得大帝の時、此地を討平して露領となしき。

カル、スバード Karlsbad (位置) 奥地利國の西北、バツリア州の西北隅に在る町。(歴史) 第十九世紀の初め、獨逸國內に獨逸統一、自由伸張を唱ふるもの多く、殊に大學々生等は青年組、體育會などを組織し、其運動烈しかりしかば、奥相メッテルニヒ一八一七年獨逸聯邦の使臣を此地に會し、青年組、體育會等を解散し、大學を政府監督の下に置き、出版物の檢閲を嚴密にすべきを決議したり。

〔八、十一字〕

カンポフォルミオ Campo Formio (位置) 以太利の東北部ベネチア府の東北に在り。

(歴史) 一七九七年、佛、奥戦争の平和條約の締結せられし地なり。此條約によれば、佛國は占領したるベネチアを奥國に與へ、奥領テューデルランドを佛國に讓與せしめ、且つロンバルディア地方に對する奥國の主權を棄てしめたり。

ガリアチサルピナ Gallia Cisalpina 近きガリアの義にて以太利北部にて、ガリ

ア人の居住せし地方を指す。

ガリア・トランスアルピナ Gallia Transalpina アルプ山外のガリアの義。現今の佛蘭西國の地方。

キ之部

〔二字〕

キバ Khiva (位置) 中央亞細亞アラル海の南アム河の西に在る市。

(歴史) 一五一五年イルバルスなる者此處に基華汗國を建設せしが後一八七三年露將カウフマンは基華汗が露國の隊商を掠奪せしを名とし基華に迫りて之を破り遂に露國に隸屬せしめたり。

ギゼー Gizeh (位置) 中埃及のメムフィスに近く北方に在り。

(歴史) 埃及クフ王時代に建設せられたる金字塔(Pyramid)は多く此地に在り

キール Kiel (位置) 獨逸國ホルスタイン州の東北海岸なる港市。

(歴史) 歐洲自由戦争の時、一八一四年一月、瑞典は佛の同盟國たる丁抹を威迫し、此處にて條約を結び、諾威とホメラニアとの交換を承諾せしめたり。於是諾威は丁抹の

管治を脱したり。

〔三、四、七、字〕

キレネ Kyrene (位置) 亞弗利加の北海岸に在り。

(歴史) 希臘ドリリア人の殖民地の一なり。

キエフ Kiev (幾富) (位置) 露西亞ドニエプル河の中流西岸に在る都市。

(歴史) 一二四〇年、蒙古軍の將、拔都、蒙哥等の爲めに屠られしことあり。

キプロス Cyprus (位置) 地中海の東北隅なる大島。

(歴史) フェニキア人の殖民地の一なり。オスマン(幹都蠻)土耳其帝國の興起するに

及び、其領土となりしが、一八七七年露土戦争起り、土廷は連戦連敗の究境に陥りしより、此島を英國に割讓するの約を以て英の仲裁を求めしが、一八七八年の伯林會議に於て英國領土となれり。

喜望峯 好望海角を見よ。

キノステフェレ Kythoscephalai (位置) 希臘テッサリア州の東南部なる山地。

(歴史) テーバ(シ)の名士ペロピダス B.C. 三六七年此地に於てフェラエ王ト戦ヒ大勝ヲ得

シガ遂ニ戦死シタリ。B.C. 一九七年、羅馬人マケドニア王の軍を此地に破り、希臘の諸市マケドニアの羈絆を脱するを得たり。

ク之部

〔三、四字〕

クレピー Crespy (位置) 佛蘭西國巴里府の西北に在る市。

(歴史) 一五四四年、獨逸帝カロー五世佛王フランシス一世と、此地に於て和議を結び佛王は以太利を放棄し、獨逸帝はブルグンドの地を拋棄するを約し、一五二一年以來連續せし以太利戦争漸く其局を結べり。

クリム Krim 半島 (位置) 黒海北岸の半島。

(歴史) 有名なるクリム戦争のありし所なり。

クマナ Cumania (位置) 南米ベテスエラ國の北海岸に在る港市、カラカス市を距る東方七十五里許。

(歴史) 南米に於ける西班牙領の獨立の際、絶大なる偉功を立てたる英傑アントニオ・ホセ・スクレ氏生誕の地なり。

クリート Kreta 島 (位置) 多島海の南方なる一大島。

(歴史) 希臘のドリア人の殖民地の一なり。オスマン土着人の興るに及び其領土となれり。一八七七年、此島に於ける基督教徒等土耳其の虐遇に堪へずして叛し、希臘は義侠の心を以て之を助けしが、却て土軍の爲めに大敗し、希臘はテッサリアの地を土國に割き償金を約して和を結べり。

クツク Cook 島或はヘルベール島 (位置) オセアニア群島中の一小島にして、ソサイエチー諸島の西に在り。

(歴史) 英國は此島所有會長の同意を得て、一九〇〇年の末、此島をニュージラランドに合併したり。こは曩に全年八月を以て、佛國はカルツ、ダブールの二列島をタヒチ島に合併せしを以て、英國は之が均衡を保たんが爲めに此處置に出でたるものなりと云ふ

クレシー Crecy (位置) 佛蘭西國東北の海岸に在り。
(歴史) 英、佛百年戦争の時、英王エドワード三世佛國に侵入し、一三四六年此地に於て大に佛軍を破り、佛王フィリポ僅に身を以て逃る。

クロトン Crotton (位置) 以太利半島の南方海岸にありて、タレンツムと相對す。

(歴史) ボエニ戦争(ヒョーニツ)の時、カルタゴの將ハンニバル本國より召還せられて歸國せる時、此地より出帆せり。

クラカウ Krakau (位置) 波蘭に在る都府。

(歴史) とも波蘭王國の首都たり。一二四〇年蒙古軍歐洲に侵入せし時、其焚掠する處となれり。

クリメア Crimea 半島 クリム半島を見よ。

〔五、六、字〕

グラニコス Granicos 河 (位置) プロポンチス海に注ぐ小河にして、小亞細亞に在り。

(歴史) B.C.三三四年、アレクサンドル大王、此河に於て大に彼斯軍と激戦して之を破る、此役大王手から彼斯王の義子スピトロバテスを斬り、其弟ロサケスの爲めに戦斧を以て、胃上を撃たれんとせしが、老臣クリッスの爲めに救はる。

クラシノー Clarsion (位置) 希臘のテッサリア州の中央に在る都邑。

(歴史) 亞歷山大王の歿後、希臘の諸邦獨立をはかりしが、B.C.三三二年此地に於て、マ

ケドニアの太守の爲めに大敗せり。

クレルモン Clermont (位置) 南佛蘭西リオンヌ府の北方に當る所にある都邑。

(歴史) 一〇九五年、羅馬法王ウルバン(バウル)二世大に僧侶侯伯平民の會議を開き、異教徒即ち土耳其人に對して、神聖戦争即ち十字軍を起すを決議せり。

クストツ Custozza (位置) 以太利北部ベエロナ府の西に在り。

(歴史) 一八四八年、北部以太利のコムバルチア塊地利に叛きし時、サルヂニア王カロロ・アルベルトは以太利統一の目的を以て之を援けしが埃軍と同年七月廿五日此地に戦ひて敗北したり。一八六六年普、埃戦争の時、六月廿四日、埃軍の將アルブレヒト大公此地に於て大に以國王の軍隊を撃破せり。

グリーンランド Greenland (位置) アイスランドの西北に在る陸地。

(歴史) 第九世紀の末葉、北人此地を發見し此に殖民せり。

クテシフ Ctesiphon 斯賓 (位置) チグリス河の東岸バビロン府の北方に當れる都府。

(歴史) バルチア(安)國の都なりしが、羅馬のトラヤヌス帝及びマルクス・アウレリウス

帝の時此府を攻陥せられしことあり。其後東羅馬がササン朝の彼斯と相争へる時、東帝ヘラクリウス彼斯に侵入し、此城下に迫りしことあり。

〔七、九字〕

ク子ルスドルフ Kimersdorf (位置) 獨逸國オーダー河の東岸に在り、

伯林府の東方に當る。

(歴史) 七年戦争の時、一七五九年普魯西のフレデリキ大王此地に於て、埃露の連合軍と戦ひ、初は勝を制したりしが、終に大敗し、大王の戎衣彈丸を受くる三、其兵殆ど全滅せり王絶望の極其宰相フィンケン・スタインに『萬事止む乞ふ王族を救護せよ茲に永訣すと云へる書面を送り、白ら毒を仰がんとするに至れり。然れども此役敵の損傷亦太甚しく露將ソルチコプの如きは『若し再び此勝を得ば彼得堡に還り報ずる者は唯一人のみならん』と曰ひ敢て普王を追究せずして國に歸れり。

クロンスタット Klonstadt (位置) 露國フィンランド灣の東南隅ペテルブルク府の近傍なる一小島。

(歴史) 北方戦争の時、彼得大帝此地方を略取し、此に砲壘を築き首府ペテルブルクの衛護となしき。其後クリム戦争起るに及び、英、佛聯合艦隊此島を攻撃せしが、防備堅固にして其効を奏せり。

クシクカイナルヂ Kuschuk Kainardschi (位置) ブルガリア國の東北、シリストリア府の東南に當る所に在り。

(歴史) 一七七四年露のカタリナ(カザリン)女帝と土耳其國との間に平和條約を締結せし地なり。其條約により、露國は南方に領土を開き、露國の商船は自由に土耳其の領海を航行することを得、クリム半島は獨立したり。

ケ之部

〔二、三、四、五字〕

ケーン Caen (位置) 佛國の北部ノルマンディーに在る村。

(歴史) 佛國大革命の時、有名なる過激黨の首領マラーを刺殺せし一少女、シャールロット・コルデーの生誕地なり。

ゼント Gent (位置) 白耳義國ブルッセル府の西方に在る都府。

(歴史) 和蘭獨立戦争の當時、西班牙軍の將レクセンス死し、其部下資給を得ざるを憤

り暴掠を極めしかば、十五州此府に於て同盟を結び、オランジャ侯ウィルレムを推して盟主となし、之を防ぎたり之をゲント同盟と稱す。

ケイロニア

Chironia (位置) 希臘ポエオチア州の西部に在り。

(歴史) B.C.三三八年、此地に於てマケドニアの王フィリポ大に雅典、テーベの聯合軍を攻撃せり。

ケベック

Quebec (位置) 北米加奈太セント・ローレンス河の下流北岸に在る都市。

(歴史) オールド・フレンチ戦争の時、佛人根據の地にして、堅寨を設け、亞米利加のジブラルタルの稱ありしが、一七五年英將ウォルフ夜に乗じて之を襲ひ終に之を拔けり。然れどもウォルフも亦戦死したり。之れより佛人の勢全く衰へ、英人加奈太を占領するに至れり。

〔五字〕

ケープコロニー

Cape Colony (位置) 亞弗利加の南端に在る地方。

(歴史) 一六五〇年、和蘭人はじめて此地に殖民地を開き、東方に到る根據地となした

りしが、其後英、蘭競争の結果英國領となれり。

〔六、七、十字〕

ケーニヒグレート

Königgrätz (位置) 今の奥地利ボヘミアの北方エルベ河の上流東岸に在り。

(歴史) 此地の附近なるサドワ村に於て、一八六六年普墺戦争の時、全年七月三日兩國軍一大激戦あり、墺軍遂に大敗し、普軍は墺の兵二萬餘人を虜にし、砲百七十四門を獲たり。普墺戦争の大局此役に決す。

ケーニヒスベルヒ

Königsberg (位置) 獨逸の北東海岸プレーゲル河の河口北岸に在る都。

(歴史) 普國のフレデリキ三世、西班牙王位繼承戦争の功を以て王號を稱することを認許せられ、一七〇一年此府に於て王位に登りしより、爾後普魯西王の即位式は必ず此府に於て舉行せらる。哲學界に有名なる大學者カント氏は一七二四年を以て此府に生れたり。
ゲッチスブルク Gettysburg (位置) 合衆國ペンシルワニア洲の南方に在り、ウォシントン府の北に當る。

(歴史) 北米合衆國南北戦争の時、一八六三年七月、北軍の將ミード此地に於て、大に南軍の將リーを撃破せり。之れより北軍大に振ひ、南北の形勢一變して北軍攻勢を取るに至れり。

ケルソ子ススタウリカ Chersonesus Taurica 今のシリム半島。

コ之部

〔二、三、四字〕

ゴア Goa (臥亞) (位置) 印度半島西海岸中程なる一小島。

(歴史) 一五一〇年、葡萄牙の印度總督アルブケルク此地を略取して根據地となし、布教貿易に従事せり。當時東洋の産物は葡人の手に由りて此地に集められ、其れより葡都リスボン府に送られ漸く歐洲市場に上るの有様なりしかば、此地は東洋貿易の要地なりき。現今猶葡國領たり。

コニア Conia 小亞細亞の西南部に在る都邑。

ゴーガメラ Gangamela (位置) チグリス河の上流に在り、ニヌア城の南に當る。

(歴史) B.C.三二〇年、アレクサンドル大王此の地に於て、彼斯王百萬の軍と戦ひ大に

之を破る。此役は大王彼斯遠征中に於ける大戦争にして、役後彼斯は再び立たずして亡びき。

コルゴス Khorgos 河 (霍爾果斯河) (位置) 支那伊犁河の深流にして典城の西に在る小河。又ホルゴス河。

(歴史) 一八八〇年の清露伊犁條約に於て此河以東を清國領とし以外の地を露國の版圖と定め露國は其域を擴張したり。

コルキラ Coreyra (位置) 希臘の西海岸に在る一小島。

(歴史) 希臘コリント人の殖民地なり。其殖民地にエビダムノスありコルキラと隙を生じて援をコリントに求む、コリント之に應ず、コルキラ恐れて盟を雅典に乞ふ、雅典之を許しかば、コリントと之を憂へスバルタに依る、於是ペロポネソス戦争遂に破裂したり。

コルドバ Cordova (位置) 西班牙の南部、グアダルキビル河の北岸に在る都府。

(歴史) 七五六年、サラセン國オンマヤ朝の哈利發國の在りし地にして、一時東方バグダードと相對して、亞刺比亞文明の中心地たりしが、一四九二年西班牙女王イサベラの爲めに陥れらる。

コリント Corinth (位置) 希臘コリント地峽に在る都邑。

(歴史) マクドニア王フィリポ希臘列國大會を此處に開き、彼斯遠征の事を議決せり。

(コリントヲ参照セヨ)

コンコード Concord (位置) 北米合衆國ニッー・ハムプシャー州に在り、ボストン府の北に當る。

(歴史) 北米合衆國獨立戦争の時、一七七五年此地に於て、英軍と殖民地人民と衝突して争闘あり、之を獨立戦争の第二回目とす。

〔五、六、九字〕

コーンウォール Cornwall 英倫の西南隅半島の地。

コルサイラ Corcyra 島 コルキラ島を見よ。

コソボ・ポリ KOSOVO Polje (位置) 歐羅巴土耳其セルビアに在り。

(歴史) 此平原に於て、一三八年オスマン土耳其王ムラッド一世セルビア及びボスニア人の聯合軍と戦ひ、ムラッド一世セルビアの勇士のために刺し殺されたり。

好望海角 Cape of Good Hope=Cabo da Boa Esperanza (位置) 亞弗利加

州の最南端なる海角。

(歴史) 一四八六年バルトロメオ・ディアズ葡萄牙王ジョアン二世の命を奉じ亞弗利加西岸を廻航し此海角に達したりしが暴風の爲めに、また進むこと能はざりしかば之を暴風岬と名けしが其復命するに及び荷王大に喜び亞弗利加を廻りて印度に至るの難からざるを思ひ更に此海角を好望海角と命名したり。

コンスタンツ Constance (位置) 瑞西國の東北コンスタンツ湖ノ西南岸に在る市。

(歴史) 一一八三年、獨逸帝フレデリキ一世、羅馬法王及び以太利諸市と此地に於て和議を講じ、以太利諸市の獨立を承認せり。降て一四一四年獨帝ジギスモンド宗教大會議を此地に開き、以、獨、佛、英、西五ヶ國の僧侶侯伯相會し、背教の鎮壓、分派の廢止、寺院の改革の三項を議し先づウィックリフの教旨を嚴禁し、三法王を廢して一法王を選び法脈の歸一を計りしが、寺院改革の件につき各國會員意見相合はずして一四一八年竟に解散し、宗弊改革の企圖も遂に其効を奏せざりき。

ゴールデン・ホード Golden Horde (黄金帳殿) 國 (位置) 黒海、裏海、アラル海の北方に建てられし蒙古の汗國。

(歴史) 第十三世紀の中葉、蒙古の將拔都西征より歸り、ボルガ河畔サライに都を定め

國を建つ、即ちゴールデン・ホード國なり或は又欽察國とも稱す。ゴールデン・ホードてふ名は、建國者拔都常に金色の帳幕を用ひしより起れり。

コンスタンチノブル Constantinople (位置) ホスポロス海峡に臨む都。

(歴史) 三二八年、羅馬のコンスタンチヌス大帝都をビザンチオン市に移し、其規模を擴張し、新羅馬と名く、コンスタンチノブル即ち是なり。其後羅馬東西に分裂するに及び、東帝國の首府たりしが、一四五三年五月二十九日、オスマン土耳其人の爲めに陥れられ、爾來土耳其帝國々都たり。

サノ部

〔二、三、四字〕

ザマ Zama (位置) 亞弗利加カルタゴ市の西南に當る平野の名。

(歴史) 第二ポエニ(ピュク)戦争の時、B.C.二〇二年春此平野に於て、羅馬の將スキピオ(シピ)カルタゴの將ハンニバルと決戦し、はじめカルタゴの軍勝勢なりしが、大勢終に羅馬軍に歸し、百戰百勝のハンニバルが奮戦も其効なく象軍亂れ騎兵敗れ、カルタゴ軍の斃るゝもの二萬の多きに上り、ハンニバルは殘餘の兵卒を收集し僅に逃れてカルタゴ府に入れり。之を第二ポエニ戦争の最終の戦とす。

レ

サイス Saïs (位置) 埃及ニール河の三角洲中に在り、アレクサンドリア府の東に當る。

(歴史) 埃及新王國首都の地たり

サモス Samos 島(位置) 小亞細亞の海岸ミカレ岬の東北に在る小島。

(歴史) ビタゴラス學派の祖なる、哲學者ビタゴラス。B.C.五八〇年を以て此の島に生れき。

サドワ Sadowa ケーニヒグレートツを見よ。

サルデス Sardes (位置) 小亞細亞の西部ヘルムス河の南岸に在る都市。

(歴史) リチア國の首都たりし所。B.C.五〇〇年小亞細亞なる希臘の殖民等、波斯の羈絆を脱せんと欲し、援を雅典及びエントリアに乞ひ、其兵と共に急に襲て此府を焼き、波斯王ダリウスの怒を招き、波斯戦争の近因をなせり。

サラミス Salamis 島(位置) 希臘サロニキ灣の東北隅に在る小島。

(歴史) 波斯戦争の時、B.C.四八〇年九月二十日此島の東方なるサラミス灣に於て、雅典の將テミстокレス波斯水師を誘ひて我海軍を死地に陥れ、然る後死力を盡して決戦し、縦横に敵船を衝かしめ、遂に僅少なる戦艦を以て千隻にあまれる波斯大艦隊を粉碎し、其片帆をも留めしめざりき。波斯王クセルクセス畏怖し倉皇東歸せり。有名なる

サラミスの海戦と稱するもの是なり。

サマリア Samaria (位置) イエルサレム府の北西方に在る都邑。

(歴史) イスラエル王國の首都たりし所。

サレルノ Salerno (位置) 以太利の西海岸ナポリ市の西に在り。

(歴史) 羅馬法王グレゴリオ七世、獨逸皇帝ヘンリ四世の爲めに追はれ、此地に逃れて憤死せり。時に一〇八五年、其臨終の言に『予正義を好み不正を惡みしを以て謫所に死するは宜なり』と。

X **ザーランダム** Zandam (位置) 和蘭國の西部アムステルダム府の對岸西方に在り。

(歴史) 一六九七年、露の彼得大帝西歐文明觀察の途に上りしが、和蘭に入るに及び、單身此市に赴き、船工の家に寓し、職工の服を纏ひ、自身手を下して工業の一斑を習得せんとし、瞬時も徒費することなく勉めしが、其第三日に至り、露國皇帝たることを發見せられしかば、直に去てアムステルダム府に赴きたり。

ザムベジ Zambesi 河 (位置) 南亞弗利加に在る河にして、モサムビク海峡に朝宗す。

(歴史) 混沌たる暗黒大陸を解剖して、歐洲人士の疑團を氷解せしめんと欲し、亞弗利

加大陸探檢を企て、此大陸を横ぎり、一八五九年より一八六三年に至る間、ニアッサ湖地方を踏査し、之を歐洲に紹介して全歐をして亞弗利加熱に浮されしめたる、英吉利國スコットランドの宣教師、リビングストン氏は此河口より溯りて大陸に侵入せしなり。亞弗利加探檢を以て、リビングストン氏と並び稱せらるゝ、ニューヨーク・ヘラルド新聞の探訪者スタンレー氏が、リビングストン氏が先に亞弗利加に入りてより、一八六六年より同七一年に至る殆んど五ヶ年間、音信なきより其消息を探らんため、暗黒大陸に入りし時も同じく此河を溯りしなり。同氏一八七四年の再度の探檢も、此河口よりしたり。

サラトガ Saratoga (位置) 北米合衆國ニューヨーク州の東部に在り。

(歴史) 合衆國獨立戦争の時、一七七六年殖民軍の將ゲイツ大に英軍を撃破し、其將卒六千人を降しき。此戦は獨立戦争中最も有名なるものにして、戦争の大局は實に此時に定まれりと云ふも不可なし。即ち此勝利ありしや、佛國政府は直に合衆國の獨立を承認し、公然合衆國と同盟して、英國と戦ふに至れり。

サイゴン Saigon (位置) 安南の南方に在る都邑。

(歴史) 一八五九年、安南國佛國と事を構へ、佛軍の爲めに此府を占領せられ、平和に及び佛國領となりぬ。

サンガラ Sangala (讚俄羅) 城(位置) 印度の北西部インドス(信)河の上支流アケシチス河の南に在り。

(歴史) 希臘マケドニアの亞歷山大王東方に遠征し、波斯國を滅し、遂に印度の北西部に侵入し、B.C.三二六年此城外に於て印度人の大同盟軍を撃破し、悉く其城地を破壊したり。此戦は大王が印度に於ける最終の戦なりとす。

〔五、六字〕

サンチアゴ Santiago (位置) 南亞米利加智利國の首府にして、國の中央に在り。

(歴史) 此府の南マイブ河の近傍に於て、智利獨立軍の將サン・マルチノ大に西班牙軍を破り、其將オルドニェスを擒にせり。時に一八一八年四月三日なり。是に於て智利の獨立堅し。

サンルカル S. Lúcar (位置) 西班牙國の西南海岸、グアダルキビル河口西岸に在る港市。

(歴史) 日本伊達政宗の使節支倉常長、一六一四年(慶長十九年十月)大西洋を航して、歐洲に到着せしは此港なり。

サイプラス Cyprus キプロス島を見よ。

ザスバハ Sasbach (位置) 獨逸バーデンなるラスタット府の西に在り。

(歴史) 佛王ルイ十四世の和蘭戰爭の當時、一六七五年佛兵は此地に於て獨逸軍と激戦し、佛の名將チーレンヌ戦死し、佛軍は一時ライン河を渡りて退却せり。

サン・ユーステ S. Yuste (位置) 西班牙國の首府マドリッド府の西に在り。

(歴史) 獨逸帝カロロ五世アウグスブルグ宗敎會議後威權大に衰へしかば、位を皇弟フェルデナンドに譲り、此地の寺院に退隱し、一五五八年九月廿一日病を以て逝けり。

サイラキユース Syracuse シラクサを見よ

サマルカンド Samarkand (位置) 中央亞細亞のアム、シル兩河間にある都邑。

(歴史) 帖木兒、花刺子摸より起り、中央亞細亞を平定し、一三六九年都を此地に奠め四方を經營せり。降て第十六世の始め、布哈拉汗國興るに及び其領となりしが、一八六

八年布哈拉國露國と事を構へ、露將カウフマンの爲めに此府は占領せられたり。
〔七、八字〕

サン・ステファン *San Stefano* (位置) プロボンチス海岸の一小村士都コンスタンチノブルの西に在り。

(歴史) 一八七八年三月、露、土兩國平和條約を締結せる地なり。其條約によれば(一)歐洲に於ける土耳其領を舉て露國に譲り(二)露國をして黒海の主權を掌握せしめ(三)露國をして地中海に根據地を得しむること、等は重なる條件なり。

サン・ベルナルド *Saint Bernard* ベルナルドを見よ。

サン・サルバドル *San Salvador* 島(位置) 西印度諸島中の一小島にして、キロバ島の東北に在り。

(歴史) 一四九二年十二月十二日、コロンブス新大陸發見の時、第一着に此島を發見し、此名を下したり。

ザールブリッゲン *Saarbrücken* (位置) 獨逸の西部フ、ハルツ州の西境に在る都邑。

(歴史) 一八七一年、普、佛戦争の時、兩國の軍はじめて干戈を交へし地にして、終に佛軍の爲めに陥れられたり。

シ之部

〔三字〕

シノーペ *Sinope* (位置) 小亞細亞黒海沿岸中央にある港市。

(歴史) 一八五三年、露土戦争の時、十一月三十日露國の水師提督ナヒモフ曇天に乗じて、オスマン・パシャ所管の土耳其艦隊を此灣に襲撃して、殆んど之を殲滅し、土耳其をして全く海上の勢力を失はしむるに至れり。

シハリー *Sicily* 島 シチリアを見よ。

シノープ *Sinope* シノーペを見よ。

シレネ *Cyrene* キレネを見よ。

ジャバ *Java* 島(位置) 南洋諸島中の大島ボルネオ島の南に在り。

(歴史) 此島もと獨立の一帝國なりしが、和蘭人之を侵略し、十九世紀の始め全く全島を征服して之を占領したり。其後佛國和蘭を併せ和蘭佛國の與國となるに及び、英國は

一八一一年艦隊を派して、蘭人を驅逐し、此島を占領せしが、一八一四年に至り、英、蘭兩國平和條約成り英國は之を和蘭に還附したり。

シドン Sidon (位置) 地中海東方沿岸に在る都市。

(歴史) フェニキアの諸市中に於て、チルと相對して一時隆盛を極め、フェニキア諸市の牛耳を執りしことあり。

シナイ Sinai 山(位置) 紅海の北部シナイ半島に在り。

(歴史) 上古ヘブライのモーセ此山上に於て、神より十誡を授かりしと傳ふる所なり。

シヤナ (紗那)港 (位置) 日本北海遣千島擇捉島エトロフに在る港。

(歴史) 露國嘗て我日本に向ひ、通商互市を請ひて許されざりしかば、フポストと云ふ者之を憤り、一八〇六年此港に來寇し、我日本人の民屋堡砦を焼き、船舶を捕奪して歸りしことあり。

[四字]

シベリア Siberia (失必見) (位置) 亞細亞洲北方の大地域。

(歴史) シベリア即ちシベリは、もと今の西比利亞の西北隅なるオブ河流域の地方の名

にして、蒙古種族此に住せしが、第十六世紀の中葉シベリの汗は使をモスクバに遣はし、露國に臣従したり。露國が東方西比利亞を經略せしは、宜萬四世の時に始まり、第十七世紀の中葉には、黒龍江に沿ふて東侵せり、然るに第十七世紀の末葉尼布楚條約によりて一頓挫を被りしか、第十九世紀の中頃ムラビヨフ西比利東部の總督となり、清國の衰に乘じ益東侵し、黒龍江口に達し此にニコライスク府を建て根據地となすに至れり。

シチリア Sicilia 島(位置) 伊太利半島の南西なる一大島。

(歴史) フェニキア人の殖民地の一なり。

シントラ Ointira (位置) 葡萄牙國里斯本府リスボンの北、小距離の處にある都邑。

(歴史) 歐洲自由戦争の時、一八〇八年、佛國の將ジョー此地に於て、二萬餘の兵を以て英軍に降伏せり。

ジノバ Genova (位置) 以太利北部の南方海岸ジノバ灣に臨める港市。

(歴史) 歐洲十字軍當時より漸く隆盛に赴き、十三世紀の末葉に至りて其勢大に張り、サルデニア、ユルシカ、エルバ等の諸島を併有し頗る強大を以て鳴りしが、ベチチアと

戦を交へて敗績してより、内亂紛起し國力疲弊し、一三九六年以來は其獨立を保つ能はざるに至り、亞米利加發見の事ありて、西歐諸港繁盛に赴くに及び、其商勢も亦大に衰へたり。

新大陸發見の大功を奏したるコロンブスは、一四五六年を以て此地に生れたりき。

シムムラ Schimla (位置) アルガリアの東部に在る郎邑、バルナ港の北に當る。

(歴史) 露のカタリナ女帝の征士の第一役の時、土耳其軍の總督此地に於て、露兵に包圍せられ、土國遂に屈してクシユ・カイナルチの和約を結ぶに至れり。

シラクサ Syracusae (位置) シチリア島南方海岸なる都府。

(歴史) 希臘人殖民地の一なり。第二ポエニ戦争の時羅馬戰艦百五十隻を以て此市を圍む。此市の有名なる物理學者アルキメデス機械學を應用して敵艦を苦しめしが、二年にして遂に陥落したりき。

シノーモン Chaumont (位置) 佛蘭西國の北部、巴里府の北方に在る都邑。

(歴史) 佛帝ナポレオン一世を敵とせる同盟列國は、一八一四年此地に於て攻守同盟を温め、各國單獨に佛帝と講和することなく、ナポレオンの佛國皇帝を廢するにあらざれば、聯合運動を止めざるを約せり。

ジナゾーブ Genève (位置) 瑞西國ジヤネーブ湖の西南に建る都府。

(歴史) ジョアン・カルビン佛國に於て宗教改革を唱へ巴里大學の攻撃を受け逃れて此府に來り大に改革を唱へ其説大に行はれたり。

社會之約束、不平等起源論等の書を著し大に自由平等主義を吹鼓せる佛の文學者ルソー氏は一七一二年を以て此府に生れ、佛國革命の初期に出でたる佛の政治家テッケル氏も亦此府に於て生誕せり。

ジエホール Jehol (熱河)(位置) 清國直隸省承德府に在り、北京の東北に當る。

(歴史) 一八六〇年、英佛の聯合軍清國帝都北京を陥れしかば、文宗皇帝は難を此地に避け、皇弟恭親王をして二國と和を議せしめたり。

シレシニア Silasia (位置) 獨逸國の東南部オィデル河上流の地方。

(歴史) 第十八紀の中葉、此地は有名なる歐洲七年戦争(シレシニア戦争)の原因となり戦争の後全く墺地利をはなれ普魯西領となれり。

〔五字〕

シヤチヨン Châtillon (位置) 佛國の東部セーヌ河畔に在る都邑、巴里府の東南に當る。

(歴史) 一八一四年佛帝ナポレオン第一世の派遣せる全權委員、聯合敵軍の全權大使と、此市に會見し和を議せしが、聯合軍は佛帝をして一七九二年の佛國々境(ライン、アルプの西北に限る)を確守せしめんと固執せしかば、佛帝と意見相合はずして、談判は中止せられ戦闘は依然繼續せられたりき。

シル・オルダ Sira-orda ゴールデン・ホードを見よ。

シンガポール Singapore (羅漢嶼、新嘉坡) (位置) 亞細亞馬來半島の南端なる一小島にして、島の西方に同名の都あり。

(歴史) 此島は、一八一九年英人其地の酋長より買収したるものにして、一八六七年以來英國直轄殖民地となれり。

ジマイカ Jamaica (位置) 西印度諸島中の一島。

(歴史) 此島もと、西班牙國の屬領なりしが、第十七世紀の頃英のオリベル・コロムエル|西班牙と戦ひ、此島を割讓せしめたり。

ジマツプ Jenappes (位置) 白耳義國の佛國々境に近き所に在り。モンス府の

西に當る。

(歴史) 佛國大革命の當時、佛國議會軍の名將チャムリエー此地に於て、埃地利軍と會戦して大に之を破り、遂に埃領チーデルランド即ち白耳義の地を征服せり。時に一七九二十年十月十日なりき。

〔六六字〕

ジブラルタル Gibraltar (位置) 西班牙の南端タリファ岬の南なる海角。ジブラルタルとはタリクの岬の義なりと云ふ。

(歴史) 七一四年、サラケン國の將タリク亞弗利加より海峡を越へ、西班牙に侵入して此地に據りしより、後人此地を呼てチェバル、アル、タリクと云へり、タリク山の意なり。今訛りてジブラルタルと云ふ。第十六世紀の初め西班牙王國興起するに及び、其版圖に歸せり。降て、西班牙王位繼承戦争起り、英國は埃地利と同盟して佛王ルイ十四世に抗し、一七〇四年英艦隊此地を砲撃して終に之を陥れ、英國々旗此岩城に樹てられしが、一七一三年ユートレヒト條約成りて確然英領となりぬ。然るに其後米合衆國獨立戦争起るに及び、西班牙は此海角の恢復をはかり、烈しき攻圍を加へしも、英の守將エリオット能く防ぎ、

西班牙をして遂に二年間の圍を解かしむるに至れり。一七八二年に至り、西班牙は佛國の援を得て此地を略奪せんとし、佛國は強大なる艦隊を以て來攻し、猛烈なる砲撃を試みしが、多く其戰艦を失ひて空しく歸り、爾後永く此險要なる海角は大不列顛國の領有たり。

シレジエン Schlesien シレシアを見よ。

〔七、八字〕

シレスウヒ Schleswig (位置) 丁抹半島ホルスタインの北に在る州名。

(歴史) 此州もと、ホルスタインと共に丁抹王管治の下に在りしが、此二州は獨逸主義を愛し、丁抹より分離せんと欲し、反して援を獨逸聯邦に求む。よつて普、埃二國主として兵を出し、丁抹軍を破り、一八六四年遂に此二州を割讓せしめしが、其後此の二州の處置に關して、普國は之を自國に合併せんと欲し、埃國之に反對し、其結果普埃戰爭を見るに至り、戰後普國の領有する所となれり。

シヤンデルナゴル Chandernagor (位置) 印度カルカッタ府北、小距離の處に在る都邑。

(歴史) 一六七二年、佛人此地を得て東方貿易に従事し、英のカルカッタと競争せし

が、遂に失敗せり。

シマルカルデン Schmalkalden (位置) 獨逸ウエーセル河の上流ウエルラ河の

東方に在る都邑ゴータ府の西南十八哩。

(歴史) 一五三〇年、獨逸帝カロー(カール)五世國會をアウグスブルグに開きし時、新教徒はメラnhitonの編纂せる、所謂アウグスブルグ信仰簡條なる者を捧呈せしが、國會は新教を排斥せしかば、新教徒は自衛の爲め一五三一年此府に會して同盟を結びたり。之をシマルカルデン同盟Schmalkalden Bundと稱す。

シント・ピーターズバーグ St. Petersburg ペテルブルクを見よ。

ス之部

〔二、三字〕

スーサ Susa (位置) チグリス河の支流コアスベス河の東岸に建つ都邑。

(歴史) 古代波斯王國の首都たりし所。スパルタの水師提督アンタルキダス、B.C. 三八七年此府に赴きて、希臘諸邦と波斯との間に和約を締結したり。有名なるアンタルキダスの和議と稱する者は是なり。其條約によれば、小亞細亞なる希臘殖民諸市及びキプロス島は

彼斯に屬し、他の陸地、島嶼は皆其獨立を確認せられたり。

スレーズ *Thrace* トラキアを見よ。

スクレ *Sicre* (位置) 南米ボリビア國の首府、國の南部に在り。

(歴史) 此府もと、チキサカと稱せしが、此國獨立の際、コロンビア陸軍總督アントニオ・スクレ氏の力甚だ多かりしより、國人長く氏の偉功を傳へん爲め、府名をスクレと改稱したり。

スエズ *Suez* (位置) 亞細亞、亞弗利加兩大陸間の地峽をスエズ地峽と稱し、此地峽に開通せる運河をスエズ運河と云ひ、運河の南端紅海の北隅なる湊をスエズ港と稱す。

(歴史) B.C. 一三〇〇年の頃、埃及王ラメス二世ニール河と、紅海との間に運河を開鑿せんとし起工せしも、成らずして止めたり。其後 B.C. 六六〇年の頃、埃及のチヨ王商業上地中海と紅海との間に運河を開くの必要なるを思ひ、其開鑿を企てしも亦成ならざりき。然るに、第十九世紀の初めに至り、佛人レセップ地中海ベルチウム灣の一角(今のポト・サイド港)よりスエズに至る間に、一大運河開通の計畫を立て、一八四六年詳細なる調査書を作りて之を公にし、以て朝野の賛助を求めしが、英國にては英國の利益を傷害

するものなりとして之に反對せり。然るに、佛國に於ては其事業を賛するもの漸く多かりき。よつて、レセップは工事に着手し、一八五七年より百難を排して精勵し、一八六九年八月十五日に至り、此大事業全く其功を奏じ開通式を擧ぐるを得たり。此事業の爲めに費したる費用は、二千萬磅に上りしと云ふ。

〔四、五字〕

スミルナ *Smyna* (位置) 小亞細亞の西部リディアの海岸にある港市なり。

(歴史) かの、簡潔にして高古、精緻にして典麗、實に叙事詩の儀表にして絶世の傑作なりと稱せらる、イリアード、オディシー二大詩篇の作者として傳へらる、希臘の大詩家ホメロス氏は此地に生れたり。

スパルタ *Sparta* (位置) 希臘ペロポネソス半島ラコニカ州の首府。

(歴史) 太古希臘北部のドリッア人南下して、ペロポネソス半島に侵入し、ラコニカ地方を征服し、此に一市を開きたり。スパルタ府是なり。此府はリコルゴスの法律制定以後強盛に赴き、長く希臘諸邦の覇權を掌握したり。

スロイス *Sluys* (位置) 和蘭西南海岸の一小市なり。

(歴史) 英佛百年戦争の當時、一三四〇年此市の近海に於て佛の海軍は、英國及びフランス兩國聯合艦隊の爲めに撃破せられたり。

スモルゴニ Smorgoni (位置) 露國ニールメン河の東方に在り。

(歴史) 佛帝ナポレオン第一世一八一二年露國より歸れる途中、此地に来るに及び其隊伍を去り、獨り星夜兼行して巴里に歸れり。

スタムブル Stambul コンスタンチノブルを見よ。

ステッティン Stettin 獨逸オーデル河口西岸に在る都邑。

〔六、七字〕

スモレンスク Smolensk (位置) 露國スモレンスク州の西部ドニエプル河の上流北岸に在る都府。

(歴史) 北方大戦争の時、一七〇八年北方のナポレオンと稱せられる、瑞典王カロール十二世露國に侵入し、此府に於て大に露軍を破り、彼得大帝は殆んど生擒せられんとして僅に脱れ、使をカローロに遣はし、辭を低ふして切に和を求めたりき。

スタジナイラ Stajina (位置) 希臘國ストラムニツク灣に臨める都邑。

(歴史) 希臘の大學者アリストテレスはB.C.三八四年を以て此市に生誕せり。

ストラルズンド Stralsund (位置) 獨逸ポメラニアの西北海岸リャーゲン島の對岸に在る市。

(歴史) 獨逸三十年戦争の時、獨逸の將フレンスタイン丁抹軍と戦ひ到る處勝を制せしが、此地のみ久しく下すを得ずして、遂にリャベックの和約を結ぶに至れり。

スケネクタデー Schenectady (位置) 北米合衆國ニューヨーク州の東部ハドソン河の西方に在る都市。

(歴史) 第十七世紀の中葉、北米に於ける英佛兩國の殖民は互に競争せしが、一六八九年佛人は英國殖民市たる此地を襲撃し、戦端を開くに至れり。

セ之部

〔三、四、五、六、七字〕

ゼンタ Zenta (位置) 匈牙利ドナウ河の支流タイス河の下流西岸に在り。

(歴史) 奧地利帝レオポルド一世匈牙利に對して英斷政策を行ひしかば、匈牙利人遂に反し、土耳其に屬せる東部匈牙利と合し援を土耳其に求めしかば、土耳其の大軍奧國に

侵入し、一六八二年には其帝都維也納を圍みしことあり。其の後一六九七年に至り埃將
オイゲン此地に於て大に土耳其の軍を撃破し、土耳其をして土領匈牙利、ジューベンピエ
ルゲンを割讓せしめたり。

聖山 Mons Sacer. モンスサクルを見よ。

セ・ン・クルー Saint Cloud (位置) 佛國巴里府の近傍に在り。

(歴史) 佛帝カロー十世専制主義を喜び、一八三〇年の議員總選舉に於て、政府反對黨
の議員多數を占めしを以て、帝は此地に於て、七月廿六日勅令を發し、未だ集まらざる
議院を解散し、新選舉法を發布し、且大に出版の自由を束縛したり。之をセ・ン・クルー
の勅令と稱し、佛國七月革命破裂の因となれり。

セイロン Ceylon 島 (位置) 印度半島の南なる一大島。

(歴史) 此島ははじめ、葡萄牙人の占有せし所なりしが、後和蘭人來りて葡人を追ひ之
を占領したり。佛國革命の時、和蘭は佛の與國たりしを以て、英國は艦隊を派して、一
七九五年此島を蘭人の手より奪ひ、一八〇二年三月佛國アミアンの和約成るに及び、英
領土と確認せられたり。

ゼ子ヴ Geneva ジャネーブを見よ。

ゼンパハ Sempach (位置) 瑞西國リュツェルン湖の北西に當る所に在り。

(歴史) 瑞西獨立戰爭の時、一三八六年瑞西兵、埃地利の大軍を襲撃して大に之を破り
たり。

センチウム Sentium (位置) 以太利の中部ウンブリア州の中央に在り。

(歴史) 第二サムニテ戰爭の時、B.C. 二九五年羅馬軍此地に於て、サムニテ同盟軍と激戦
し、大に之を撃破せり。

セン・プリバー S. Privat (位置) 獨逸國ロートリンゲンなるメッツ市の西北小距
離に在り。

(歴史) 普佛戰爭の時、一八七〇年八月十八日普王ウィルヘルム此地に於て、廿萬の獨
逸軍を督して十五萬の佛軍に當り、激烈なる戦闘の後佛軍を撃退せり。失ふ所獨兵二萬
佛兵二萬三千。此役により佛將バゼーヌはメッツの要砦に退かざるを得ざるに至り、竟
に重圍に陥りて進退自由を失ふに至れり。

セバストポル Sebastopol (位置) 黒海の北方、クリム半島の西南に在る城市。

(歴史) クリム戦争の時、英佛土聯合軍此市を攻圍し、一八五四年十月より一八五五年九月に至りて、漸く之を占領することを得たり。此戦に露國は名將トクトレーベンの計を用ひ、港口に自國の軍艦を沈めて敵艦の侵入を拒ぎ陸上の砲臺力を盡し勇敢に防戦せしかば、容易に陥落せざりしが、聯合軍の總督佛將ペリシエー、意を決して猛烈なる攻撃を加へ、九月八日遂に此城砦を占領せり。此日の戦は尤も激烈を極め、僅々數時間に於て、佛軍は七千三百人の兵士を失ひ英軍は其兵二千四百を失ひ、露軍は一萬三千の兵を失へり。戦後英、佛等の聯合軍の爲めに悉く其城砦を破壊せられたりき。

セント・ヘレナ St. Helena (位置) 亞弗利加の西方大西洋中の一孤島。

(歴史) 此島は、一五〇一年葡萄牙人之を發見して領有せしが、一六五一年英國領となれり。ナポレオン第一世はワートルローの敗後、位を皇太子に譲り亞米利加に逃れんとを圖りしが、計畫齟齬して英艦の爲めに捕へられ、遂に歐州列國の合意により、捕虜として此孤島に遠謫せられしが英人の虐待を被ふり、一八二一年五月五日、此地に病沒せり。後一八四〇年十二月十五日、其遺骨は巴里に迎へられ、莊嚴なる儀式を以て廢病院に葬られたり。

セント・ヘレナのナポレオンの墓。

奈破烈翁 ジェー・ピールポント

彼は今此處に唯一人にて睡むれり。
 彼が王冠を授けたりし諸王の中、一人として彼の遺骸に膝づく者なきなり。
 其妻も子も曾て彼の墳墓を見舞はんとも、又探めんともせず。
 彼は唯一人にて睡むれり。

夜陰がそを彼の周圍に懸げ、朝霧がそを吹き散らすなる山雲のみぞ此大將軍の遺骸にま
 とへる棺衣なる。

其處にて聞ゆる唯一つの絶えざる悲歌は、海鳥の啼き聲と、荒波の悲しげなるつよやさ
 と雲の深重なる聲音と、風の低き溜息とのみになん。

NAPOLÉON J. PIERPONT.

Here sleeps he now, alone! Not one

Of all the kings, whose crowns he gave,

Bends o'er his duse;—nor wife, nor son,

Has ever seen or sought his grave.

Alone he sleeps! The mountain cloud,

That night hangs round him, and the breath

Of morning scatters, is the shroud

That wraps the conqueror's clay in death.

The only, the perpetual dirge

That's heard there, is the sea-bird's cry,—

The mournful murmur of the surge,—

The cloud's deep vice, the wind's low sigh.

此島は、一五〇一年葡萄牙人之を發見して領有せしが、一六五一年英領となれり。

セン・ジェルメン St. Germain (位置) 佛國巴里府の西北小距離セーヌ河畔に建てる都邑。

(歴史) 佛王カロロ(シャルル)九世、一五六二年此府に於て諭勅を下し、新教徒に信仰の自由を與へたり。一六七九年佛王ルイ十四世ブランデンブルグ侯フレデリキ・ウイラムと此府に於て和議を結びしが、ウイラムは大に力を盡して、瑞典より略取せし諸邑を還附せざるを得ざるに至りしより、深く佛王を恨めり。

ソノ部

[四、五、六字]

ソファラ Sofala (位置) 亞弗利加の東海岸ザムベジ河口の南方に在る都市。

(歴史) 一四八六年、コピリアム葡萄牙ジョアン二世の命を奉じ、紅海より印度に到り、又亞弗利加東海岸を航して此地に達したることありき。

ソグチアナ Sogdiana 中央亞細亞アム河上流河北の地方。

ソルフエリノ Solferino (位置) 以太利北部ガルダ湖南の村落。

(歴史) 以太利統一戦争の時、一八五九年六月二十四日、奥地利帝フランシス・ヨセフ自ら總督となり、マジエンタの敗耻を雪がんとて軍を進め、此村に沿へる丘上に於て、佛帝ナポレオン第三世及びサルヂニア王の聯合軍と激戦せしが、奥軍遂に大敗し佛國に屈

服するの止むを得ざるに至れり。此役埃軍の死傷二萬五千被捕者六千、佛軍の死傷一萬五千、サルヂニア軍の死傷五千。

ゾイデルゼー Zuiderzee (位置) 和蘭北方の海、

(歴史) 和蘭獨立戰爭の當時、一五七三年此海上に於て、和蘭義勇艦隊西班牙海軍を破り、獨立軍の氣勢大に張れり。

タ之部

〔三、四、五字〕

タラス Taras タレンツムの一名。

タイア Tyre チルを見よ。

タプスス Thapsus (位置) 亞弗利加の北海岸に在り、カルタゴの南に當る。

(歴史) 羅馬のクエーザル(ザド)此地に於て、大にボムベイウスの殘黨及び共和黨を破れり。

タウルス Taurus 山 小亞細亞の西海岸に亘れる小山脈。

タラント Taranto タレンツムを見よ。

タガステ Tagaste (位置) 亞弗利加の北部ヌミヂアに在る市なり。

(歴史) 中世神學の基礎を築き、且羅馬教の根據を固めし大學者アゴスチンは、三五四一年を以て此市に生れたりき。

ダンチヒ Danzig (位置) 獨逸の東北ダンチヒ灣の西南岸なる都市なり。

(歴史) 實踐哲學に於て有名なる、シヨペンハウエル氏は、一七八八年二月二十二日此市に於て生誕せり。

タラベラ Talavera (位置) 西班牙の西部葡萄牙國境に近き所にある都邑。

(歴史) ナポレオン第一世の半島戰爭の時、一八〇九年英將ウェリントン此處に於て、大に佛將ヨセフの率ゐたる佛軍を撃破し、功を以て英軍の總督に任ぜられたり。

ダマスク Damascus (的迷失吉)(位置) 亞細亞の西部シリアに在る都邑。

(歴史) サラタン國のオムマヤ朝の都せる地、後蒙古の將旭烈兀の爲めに攻陥せられたり。

タブリーズ Tabriz (位置) 波斯國の西北部に在る都市。

(歴史) 第十三世紀の中葉、蒙古の旭烈兀大軍を率ゐて西征し、天方(アラビア)を略

し、小亞細亞を平定しアム河以西の西方亞細亞に君臨し伊蘭國を建設せし時其都は此府なりき。

タレントム Tarentum (位置) 以太利の南方タレントチノス灣の東北隅に在る都邑。

(歴史) もと希臘の殖民市なり、B.C. 二七二年羅馬人の爲めに攻撃せられて遂に陥り其管治に歸せり。

大平洋 Pacific Ocean (位置) 亞細亞亞米利加兩大陸間なる大洋。

(歴史) 葡萄牙人フェルデナンド・マガリアエンス南米の南端海峽を通過し、一五二二年此大洋を航行して西北に進みし時、海波靜なりしを以て此名を下せり。

タスマニア Tasmania (位置) 濠西^{オーストラリア}太刺利亞大陸の南方に在る一大島。

(歴史) 一六六二年和蘭人タスマン氏南洋探險に従ひし時發見せり島名此に基く。

タンガニイカ Tanganyika 湖 (位置) 亞弗利加州^{コンゴ}自由國と獨逸領東亞弗利加との間に在る湖。

(歴史) リヒングストン氏^{リヒングストン}の消息を探らなため、驟然故山を去りて暗黒大陸に侵入した

る、ニールヨーク・ヘラルド新聞のスタンレー氏は一八七二年此湖畔に於て、リ氏に遭遇して其目的を達したり。

チ之部

〔三、四字〕

チル Tyre (位置) フェニキアの海岸に在り都府、シドン府の南方に當る。

(歴史) 昔時航海商業甚だ盛にして、市民殷富を極め、フェニキア諸都府中第一たり。亞歷山大王彼斯遠征の時、之に抗して善く戦ひ七ヶ月間の攻圍の後漸く陥落したり。

チロール Tirol (位置) 塊地利の最西部瑞西に接する山地。

(歴史) 一八〇九年、佛境戦争の時、此地山間の人民は塊地利の爲めに義勇隊を編制し、佛軍を國境天險の地に迎へ大に佛軍を苦しめしかば、佛帝ナポレオンは精兵五萬を遣はし、欺きて其將を擒にし漸く此地を征服するを得たり。

チベル Tiber 河 以太利半島の中部を西流し、羅馬府を過ぎて海に注ぐ。

ヂッヘル Dippel (位置) 丁抹半島のシャルスウイヒ州の東方海岸に在りて、堅固なる砲砦あり、北方のセバストボルと稱せらる。

(歴史) 一八六四年、シャルスウィヒ、ホルスタイン戦争の時、普魯西軍奮戦して此要害を陥れしより、丁抹軍大に衰へ遂に和を乞ふに至れり。

〔五字〕

チルジット Tilsit

(位置) 東普魯西の東北部ニエメン河の西岸に在る都市。

(歴史) 此府に於て、佛帝ナポレオン第一世一八〇七年普、露兩國と平和條約を締結せり。普佛は七月九日佛露は七月七日調印せり。其條約の重なる件々は、露國は佛國の建設せるワルシャワ公國、ウエストファリア王國ライン同盟を承認し、普國は佛國に一億四千萬フランの軍費を賠償し、ライン、エルベ兩河間の地を割讓し、ワルシャワ公國建設の爲めに波蘭より略取せる諸地の還附を命ぜられ、大陸條約を遵奉するを約せり。

チサルピナ Cisarpiua

共和國 以太利北部なるロムバルディア地方に、一七九七年佛國共和政府が建設したる共和國なり。

チアガタイ Tchaghatai

(察合台)汗國 蒙古四汗國の一にして始祖を成吉思汗鐵木眞の第二子察合台とす、察合台の子孫世々君臨シル河外天山附近一帶の地を領し、アルマリク(阿力麻里)を首都となせり。後モスクバの爲めに滅せらる。

〔六、八字〕

チャールストン Charleston

(位置) 北米合衆國南カロライナ州の東海岸に在る港、

(歴史) 一八六一年、北米合衆國の南部諸州分離して同盟を結び、兵を擧げ此港附近なるサンター寨を襲撃して之を占領するに及び、大統領リンカーンは南部諸州の同盟に向ひ開戦を公布したり。

チャッターヌーガ Chattanooga

(位置) 北米合衆國ミシシッピ河の東方テンネッシ

州の東南部に在る市。

(歴史) 亞米利加南北戦争の時、北軍の將軍グラント此處に於て南軍を破り、大に其勢を挫折せしめたり。

チャンセラーズビル Chancellorsville

(位置) 北米合衆國の東部に在り。スポッ

トシルバニア市近傍なる丘岡。

(歴史) 亞米利加南北戦争の時、一八六三年三月南軍の將リー、北軍の將フーカーと此地に戦て大に之を破る。北軍の勢一時大に振はざりき。

ツ之部

ツール Tournai (位置) 佛國の中部ロアール河の西岸に在る都府。

(歴史) 此府の近傍に於て、七三二年カロロ・マルテル、サラケンの將タリクの軍を邀へ撃ちて大に之を破る。サラセン人はより退て西班牙を保ち、ピレネー山以北は、異教徒の侵略を免れたり。普、佛大戦争の時、佛京巴里の重圍に陥るや、ガンベタは輕氣球に乗り、巴里を出て此府に來り、義勇兵を募集して巴里の圍を解かんとせしが、獨逸軍の爲めに破られ、遂に成功せざりき。

ツーロン Toulon (位置) 佛國南方地中海岸なる軍港、マルセイユ港の東に在り。

(歴史) 佛國大革命の時、英國軍は一七九三年此港を占領せしが、間もなく佛軍の爲めに回復せられたり。此役に佛の大佐ナポレオン・ボナパルト初めて其の頭角をあらはせり。

ヅビエンカ Dźbieńka (位置) ポーランド、ウイスマツラ河の上流左岸に在り。

(歴史) 波蘭の志士等は、第一分割の無道を憤慨し、一七九一年新憲法を制定し、大に國內の改革を行ひ、國勢恢復の策を講ぜしが、露國は其改革の己に不利なるを以て之に

反對し、兵力を以て干涉するに至れり。波蘭王ポニアトウスキは愛國の英傑コシヤシニコと共に劇烈なる抵抗を試みしも其効なく、此地の決戦に於て波蘭軍は悉く粉碎せられ、一七九三年に至り、波蘭第二分割は露普兩國によりて行はれたりき。

ツォルンドルフ Zornsdorf (位置) 獨逸國ブランデンブルグなるオーデル河の東岸に建てる小市。

(歴史) 歐洲七年戦争の時、一七五八年普國のフレデリキ大王此處に於て、大に露國軍を撃破せり。

テ之部

〔二、三字〕

テーベ Thebes (位置) 上埃及ニール河の東岸に在る都邑。

(歴史) 埃及新王國の首都たりし所なり。

テーベ Thebes (位置) 希臘ベオチア州の南部に在る都府。

(歴史) B.C. 三八〇年の頃エバミノンダス、ペロピダス二傑の力によりて興起し、ポイオ

チア州諸市の盟主となり、將にスパルタに代りて覇を希臘に稱せんとせしが、兩雄相繼

きて戦没しテロへの覇業確立するに至らずして、國勢衰運に傾けり。

デーリ Delhi (位置) 印度の北部ガンガ河の上流西方に在る都府。

(歴史) 莫臥兒皇帝シャ・ジェハンの建設にかゝる都府にして、アウラングゼブ帝の時より、莫臥兒帝國滅亡に至るまで、殆んど三百年間の帝都たりき。

デロス Delos 島 (位置) 多島海中のニコヌス島の西に在る一小島にして、此島に希臘豫言の神たるアポロンの神殿あり。

(歴史) B. C. 四七七年デロス同盟成るや、アポロン神殿を同盟諸邦使臣の會場となし、府庫を建設して、毎年五十餘萬金の貢税を蓄積し、希臘管府 Hellenotamia を設け之を管理したり。後年羅馬國の盛なりし頃は羅馬商業の中心たりき。

デルス Denis 島 デロス島を見よ。

〔四、五字〕

テクサス Texas (位置) 北米合衆國リオグランド河の北方なる一州。

(歴史) 此州もと墨西哥國の版圖なりしが、一八四五年反きて合衆國に加盟を乞へり、合衆國其請を許すに及び、兩國戦端を開き、墨西哥は連戦連敗し、ニューメキシコ、上

カリフォルニアを合衆國に割きて和を結びき。

テルモピレ Thermopylai (位置) 希臘の東方マリアクス灣頭に在り。一方は險峻

なる山嶽、一方は海灣、其間僅に數十歩に過ぎず、一夫守りて萬夫進む能はざる天險の地なり。

(歴史) 第三波斯戦争の時、スパルタ王レオニダスの名譽の戦死を遂げし地なり。後年ニケの紀念碑其近傍に建てられしが、其一は戦死したる三百のスパルタ兵の爲めに建てられしものなり。其碑銘に曰く、

此處を通過する者は往きてスパルタ人に告げよ、我々が彼等の國法を奉じて此處に斃れしことぞ。

“Go, tell the Spartans, thou that passst by, that here obedient to their laws we lie.”

デルフイ Delphoi (位置) 希臘フォキス州の西南に在り。

(歴史) 此地にアポロン神殿あり。此神託は希臘人の最も重んずる所にして、宣戰講和都府建設等の一國の大事は、此神託によつて處決せり。又此地のアムフィクシオニク會は著名なるものにして、希臘十二族の使節此地に相會し、神殿の保護及び希臘諸邦

相互間に残忍暴戻なる所爲を爲さざるを盟へり。此會は希臘諸邦共同の感想を起すに與て力ありき。

デルファイ Delphi デルフアイを見よ。

ト之部

〔三、四、五字〕

トロヤ Troy (位置) 小亞細亞の西北隅なる海岸に在り。

(歴史) 詩聖ホメロスの作にかゝるイリアド篇に詳述せられたる、トロヤ戦争を以て著はる。

トルア Troyes (位置) 佛國セーヌ河の上流左岸に在る都府。

(歴史) 百年戦争の時、英佛兩國此地に於て平和條約を結び一時戦局を收めたり。其和約條件の重なる者は、佛王カロロ六世の歿後には、英王ヘンリ五世及び其子孫永く佛國王位に登る可し、と定めたることなり。

トレビア Trebia 河 (位置) 以太利北部ポー河の上支流。

(歴史) 第二ポエニ戦争の時、カルタゴの將ハンニバル、此河畔に於て大に羅馬軍を撃

破せり。

トリブル Tivoli (位置) 獨逸ライン河の中流東岸に在る市、フランクフルトの西

南に當る。

(歴史) 神聖羅馬皇帝ヘンリ四世に對して不満を抱ける日耳曼の諸侯、一〇七六年此府に會合し、ヘンリは恭年にして羅馬法王より破門せられたる罪の解けざる時は、國王たるの資格なしと議決せり。於是ヘンリ遂にカノサ城に届するに至れり。

トレントン Trenton (位置) 北米合衆國ニュージャージー州の西部デラウェア河の

東岸に在り。

(歴史) 合衆國獨立戦争の時、一七七七年ワシントン此地に於て英國軍を破れり。

トリエント Trient (位置) 今の奥地利の西部エトシュ河の上流東岸に在る都市。

(歴史) 獨逸に於ける宗教改革の當時、皇帝カロロ五世は、佛王フランシス一世とクレピエの和議を結び後、復新教徒を壓服せんと欲し、一五四五年此府に宗教總會を開きしも新教徒は一人も之れに參せざりしかば、カロロはシュマルカルデン同盟に對して戦を開くに至れり。之をシュマルカルデン戦役とす、

ドレスデン Dresden (位置) 獨逸サクソニア國の首府、エルベ河畔に在り。

(歴史) 一七四五年、此府に於て奥地利、普魯西の兩國平和條約を結び、奥地利王位繼承戰爭其局を結びき。此條約により、普魯はシレシアの領有を確定せり。降て、一八一三年に至り、佛帝ナポレオン第一世此府に於て、普露兩國の聯合軍を撃て大に之を破れり。此勝利はナポレオン帝が獨逸に於ける最後の大捷なりき。

〔六、七〕

トイトブルグ Teutoburg 森 (位置) 獨逸の西南部ウエーゼル河の西方オルデル

ブルヒ附近に在り。

(歴史) B. C. 九年、羅馬の 아우グスツス帝ライン右岸の地を略し、日耳曼人と此森林中に戦ひて、全軍覆没し、アウグスツスは日耳曼平定の初志を齟して、専ら彼の侵寇に備ふるに至れり。

トリファンム Trifanum (位置) 以太利西海岸リ、ス河の吐口南岸に在り。

(歴史) 羅馬の大羅匈戰役の時、羅馬の將マンリウス・トルカッス(ベスピオ山下の戦に、其少子が軍令に従はず羅匈の一將と闘ひて之を殪し)により、涙を揮ひて之を誅し

たる人なり) 此地に於て、羅匈人及びカムバニア人との聯合軍を撃て大に之を破り、羅匈人をして遂に羅馬に屈服せしめたり。

トリニダード Trinidad (位置) 南米オリノコ河の吐口の北に在る島。

(歴史) もと、西班牙領なりしが、一八〇二年のアミアン條約により英領に歸せり。

トラペズント Trapezunt (位置) 小亞細亞、黒海の東南海岸に在る都邑。

(歴史) 第四十字軍の時コンスタンチノブルにラテン帝國建設せられしかば希臘帝室の者此府に據りて一國を建てたり、之をトラペズント帝國と云ふ。一二五八年蒙古の旭烈兀西征して之を征服したり。

トランスバール Transvaal (位置) 亞弗利加東南部なる國。

(歴史) 喜望峯殖民地の蘭人の手を離れて英領となるや、ホーア即ち蘭人の子孫等は、相牽て此地を去り、トランスバール共和國及びオレンジ自由國を建設したり。トランスバールは一八七七年一旦英領となりしが、數年にして獨立を復し、爾來英國政府は唯外交事件を監督するに止まりしが、近年在留外人に參政權附與の年限につき葛藤を生じオレンジ自由國と結び、英國と干戈を交へ敗亡の域に陥り遂に英領に併せられたり。

トラファルガル

Trafalgar

(位置)

西班牙の西南海岸カデス港の南に當る海岬。

(歴史) 一八〇三年、英、佛兩國間の平和再び破れ、佛帝ナポレオン第一世は英國に侵入せんと決し、大軍をブローニヤ港に集め佛國艦隊の來會を待ちしが、佛國艦隊は英の水師提督テルソンの爲めに、カデス港に封鎖せられたり。テルソンは佛國艦隊を港内より誘出し、一八〇三年十月二十一日此海岬の近海に於て激戦し、大に佛、西兩國の聯合艦隊を破り、其船艦三分の二を捕奪し、佛國水師提督は敗戦を耻ぢて自殺せり。此役テルソンも亦流丸の爲めに斃れしが、此海戦以後海上權力全く英人の手中に歸し、ナポレオンをして、英國と海上に於て權力を争ふの念を斷つに至らしめたり。

ナ之部

〔三、四、五字〕

ナント

Nantes

(位置)

佛國ロアール河の下流右岸に在る都府。

(歴史) 一五九八年、佛王ヘンリ四世此府に於て上諭を發し、新教徒に信仰の自由を許し、參政の權利を與へ、且幾多の城砦を與へて自ら護るの用に供せしめたり。於是佛國宗教上の騷擾其跡を絶ち、國勢振張の氣運に向へり。

ナバラ

Navarra

(位置)

西班牙國エbro河上流の地佛國に接す。

(歴史) 西班牙のゴルドバ^{ゴルドバ}哈利^{ハリ}發^ハ廳^フの衰に乗じ、基督教徒により建てられし王國の一にして、九世紀の頃に起り十三世紀に至りては、アラゴン、カスチリアと相對立して盛なりしが、第十五世紀に至り、アラゴンに合併せり。

ナポリ

Napoli

(位置)

以太利西海岸なる都府

(歴史) 第十一世紀の初め、ノルマンディーの將士等下以太利に赴き、希臘人及びサラセン人を破り、其將ロベルト・ギスカルドは下以太利及びシチリア島を平定せり。其子ロジェロ二世立ち羅馬法王より王位を受け、ナポリ・シチリア王國を建てナポリ府を首都とし、佛國の諸制度を採用し學術商工等を獎勵保護せしかば、此王國は一時非常の繁榮を致せしが、一一八七年に至り、獨逸のホーヘンスタウヘン家の爲めに滅せられたり。

ナルバ

Narva

(位置)

露國の西北フィンランド灣に臨める都邑。

(歴史) 北方大戦争の時、一七〇六年瑞典王カローロ十二世露國に侵入し、僅々八千の寡兵を以て八萬の露軍を此地に撃破せり。

ナッサウ Nassau (位置) 獨逸ライン河の支流マイン河北に在り。

(歴史) 銳意盡力して國力を増進し、町村自治制度の基礎を固めたる有名なる普國宰相
フライヘル・フォン・スタイン氏は一七五七年此地に生れき。

ナビリノ Navarino (位置) 希臘モレアなるメセニアの西南に在る一小灣、灣の東
南に同名の市あり。

(歴史) 希臘獨立戰爭の時英、佛、露三國の聯合艦隊二十七隻千二百七十六噸を以て一
八二七年十月二十日此灣に侵入し灣内に碇泊せし土耳其埃及の聯合艦隊八十九隻を攻撃
し激戰二時間にして土耳其戰艦六十隻を失はしめ殆んど、全滅に歸せしめたり

ナンキン Nanking (南京) (位置) 清國揚子江の下流南岸に建つ都府にして、北
京に對して南京と云ふ。

(歴史) 阿片戰爭の時、清英兩國講和條約を締結したるは此府なり。時は西紀一八四〇
年にして清の宣宗道光二〇年なりき。此條約を南京條約と稱す、其重なる條件左の如
し。

(一)、阿片燒棄及び出師の賠償金二千百萬兩を清國より支辨すること。

(二)、香港を英國に割讓し、且上海、寧波、福州、厦門、廣東の五港を開放して通商貿
易を自由ならしむること。

ナイメーヘン Nymwegen (位置) 和蘭國の南西ライン河の左岸にある市。

(歴史) 佛王ルイ十四世の和蘭戰爭收局の平和條約を締結したる市なり。其條約によれ
ば、和蘭は其舊領を完全に保維し、佛國は西班牙より土地を割讓せしめ、獨逸よりフラ
イブルグを讓らしめ、佛國の勢益強大となれり。

ニ之部

〔二、三、四字〕

ニース Nice (位置) 佛國東南隅沿海の地方、此所に同名の市あり。

(歴史) 以太利統一の時、サルチニアは法王領四州を併せんと思ひしも、佛帝ナポレオ
ン三世羅馬法王と善きを以て、事容易に行はれざりしが、サルチニアの宰相カブール
苦心の末、此地及びサボヤを佛帝に讓り、佛帝の賛成を得遂に法王領四州を合併するを
得たり

ニケーア Nicaea (位置) 小亞細亞の西北部に在る都市。

(歴史) B.C.三二五年、羅馬のコンスタンチヌス大帝此府に萬國宗教會議を開き、アリウス派の基督は神に類似せる性質を有すと云へる説を排斥し、アタナシウス派の基督は神と同一なる性質を有すと云へる説を以て、正教 Catholic と定め、信仰簡條を制定したり。第四十字軍の時、拉丁帝國コンスタンチノブルに建てらるゝに及び、希臘帝國は此府に遷りて其命脈を保ちたりき。

ニヌア Ninua (位置) チグリス河の上流西岸なる都府。

(歴史) アッシリア國の首都たりし所にして、其城府は宏大莊麗なりしが、後メヂヤア王キクサルスの爲めに破壊せられたり。六二七年に至り、東羅馬皇帝ヘラクリウス此府の墟趾に於て、波斯王ホスロー(ユエスロ)二世の軍と激戦して之を破れり。

ニネベ Nineveh ニヌアを見よ。

ニカイア Nikaia ニケーアを見よ。

ニメーゲン Nimegen ナイメーヘンを見よ。

ニユーヨーク New York (位置) 北米合衆國ニューヨーク州の南方海岸に在る都府。

(歴史) 此府はじめニュー・アムステルダムと稱し、和蘭人建設の市府なりしが、一六六四年英國人と和蘭人と殖民事業につき争を生じ、遂に英人は和蘭人を驅逐し、府名をニユー・ヨークと改めたり。一七六六年、英國政府は印紙條例を發布し、殖民地の膏血を絞らんとするや、殖民地諸州大に激昂し、九州大會を此府を開き、殖民地課税の不當を論じ、書を英王に上りて嘆願し、同時に國民に訴へたり。合衆國獨立後、一七八九年第一回の國會を此府に開設し、ワシントン大統領に選舉せられたり。

ニツァ Nizza ニースを見よ。

ニスタード Nystad (位置) 今の露國フィンランドの西海岸なる都邑アボ府の北に當る。

(歴史) 北方大戦争收局の時、一七二二年瑞典と露西亞との間に平和條約を締結せし市なり。而して、其條約により露國は瑞典より、リプランド、エストランド、インゲルマ
ンランド等の地を割讓せしめ、フィンランドの地を還附し、二百萬ターレルを辨濟することとなりき。

ニコポリ Nikopoli (位置) ブルガリアの北方多瑙河南に在り、

(歴史) 一三九六年、土耳其の英主ベチャシッド一世此地に於て、匈牙利王シギスモンドの率ゐし獨、佛の騎士十萬餘の軍と決戦して大に之を破れり。此役佛、獨の貴族等生擒せらるゝもの甚だ多かりき。

〔六、七、八、九字〕

ニコメデア Nicomedia (位置) 小亞細亞の西北隅プロボンチス海の東北隅に在り。

(歴史) 羅馬帝デオクレチアスス帝國を二分して管治するの制を立てし時、此府を以て東方の帝都と定めたり。

ニューゼーランド New Zealand (位置) 南大太平洋中に在る大島。

(歴史) 一六六二年、和蘭人タスマン氏南洋探險の際此島を發見せしが、其後殆んど百年を経て、有名なる英の探險家ジェームス・クック氏南大太平洋の探險航海に従事し、精確に此島を探險し遂に英領となれり。

ニルンベルヒ Nürnberg (位置) 獨逸ライン河の上支流マイン河の上流岸に在る都市。

(歴史) 一五三二年、獨逸帝カロー五世此府に於て新教徒と和議を講し、次回の宗教總會まで、宗教の事は一に皆各人の自由に任すべしとの條件を以て新教徒と和して内憂を除き、新舊兩教徒力を併せて土耳其人の侵入せるを撃退せり。

ニコルスブルグ Nikolsburg (位置) 奧地利メーレンの南部に在る市、維也納府の北東に當る。

(歴史) 一八六六年、普、奧戦争の時、佛帝ナポレオン第三世の仲裁により、普奧二國は同年七月二十六日此府に於て休戦條約を締結せり。

ニューイングランド New England (位置) 北米合國マサチューセツツ洲の海岸に在り。

(歴史) 第十七世紀の頃英主カロー(チャールズ)一世の時、ピューリタン教徒は、此地に移住して此府を建設せり。

ニムフエンブルヒ Nymphenburg (位置) 獨逸國バワリアなるミュンヘン府の北に在り。

(歴史) 奧地利王位繼承戦争の時、一七四一年此地に於て佛蘭西、西班牙、バーデンの

三國は、各埃國所領の地を割取する目的を以て、密約同盟を結べり。後、普魯西、サクソニアの二國も亦此同盟に加入したり。

ニコライエブスク Nikolajevsk (位置) 東西比利亚黑龍江の河口北岸に在る都府。

(歴史) 一八五〇年、露人チベリスキーと云ふ者、黑龍江を下りて沿岸を視察し、此地には常に清國兵の守備するものなきのみならず、清國人民の村落さへも之なきを見、露西亞の國旗を樹て、兵士六名を留めて之を守衛せしめ、當時の露帝ニコライ第一世の威德に象り、此地にニコライエブスクと命名し、黑龍江の下流より、朝鮮國界に至る沿海一帯及び樺太島近傍の島嶼は、悉く露國の版圖なるを發布し、之れを東部西比利亚總督ムラビヨフに報告せり。然るに露廷に於ける西比利亚特別會議はチベリスキーの行動が外務大臣の諭令に違背せるものなるを論じ、犯罪人と認めたりしに、露帝は奮然として議官の論決を駁して曰く『チベリスキーが東方にさせる舉動は、實に忠勇節烈にして、忠君愛國の士にあらずるよりは、決してなすこと能はざるなり』と、直に勅を下して曰く『一旦露國の旗章を樹てし上は、決して之を卸すべからず』と。

ニュー・サウス・ウェールズ New South Wales (位置) 濠太刺利亞洲の東南部の地方。

(歴史) 第十八世紀の末葉、英の有名なる探險家ジェームス・クック氏、南太平洋探險の際、此地方の山嶺の容觀英國ウェールズの山嶺に似たりとて、之にニュー・サウス・ウェールズと命名せり。此地方は濠州中最古の殖民地なり。

ニュー・アムステルダム New Amsterdam (位置) 今の北米合衆國ニューヨークの地。

(歴史) 此府は一六九九年和蘭の殖民地によりて開かれたる都府なり、後英人の手に歸するに及び其市名をニュー・ヨークと更めたり。

ニュー・ファウンドランド New Foundland (位置) 北米カナダの東海岸に在る一大島。

(歴史) 此島もと、佛蘭西の殖民地なりしが、一五八三年英領となれり。

ヌ之部

ヌミジニア Numidia (位置) 亞弗利加北海岸に在り。

(歴史) 羅馬の外國征服時代の頃、此地にヌミディア王國あり。カルタゴ國の西に隣し、第二ポエニ戰役の際、羅馬と同盟して其國境を擴めたりしが、羅馬、カルタゴ兩國和約條件中、カルタゴ國は羅馬の許可なくして、外國と兵を交ふること能はずと云へるあるを知り、カルタゴの領地を蠶食し亡狀を極めしかば、カルタゴは之を羅馬に訴へしも、羅馬はカルタゴを忌憚し、戰を開くべき口實を得んと欲する時なりしより、カルタゴの訴を顧みず、故にカルタゴは堪ふる能はずして、B.C. 一五一年、ヌミディア國と戈を交ふるに至れり。羅馬は是に於て直にカルタゴの破約を責めて大軍を送り。第三ポエニ戰役此に開かれ、カルタゴ國遂に亡びき。其後ヌミディア國は羅馬の命令を奉ぜず頗る侮蔑の所爲多かりしかば、B.C. 一〇七年羅馬の將マリウスの爲め征服せられたり。

ヌエバエスパニャ Nueva España (新西班牙)

新大陸發見後西班牙の領地たりし北米メキシコ國地方を稱したり、徳川氏初世の頃ノビスパンヤと稱したる地は此所なり。

子之部

〔二、四、五字〕

子バ Neve 河 (位置) 露國の北西ペテルブルグ州に在る小河、フィンランド灣に注ぐ。

(歴史) 露の彼得大帝瑞典より此河口の地を畧取し、此處に聖ペテルブルグ府を創めたり。

子ーズビー Naseby (位置) 英倫ノーサンプトン州の北西に在り。

(歴史) 一六四五年英王カカロ (チャールズ) 一世、議會と衝突して、ヨークに走り兵を集めしが、議會軍の將オリベル・クロンエルと此の地に戦ひ、王軍敗績カカロ逃れて蘇格蘭に入りしが、捕へられて議會黨に渡され、遂に死刑に處せられたり。

子ーブルス Naples ナポリを見よ。

〔五、六字〕

子ーフェルス Nafels (位置) 瑞西國の東北チーリッヒ湖の南東に在り。モルガルテ

ンの東に當る。

(歴史) 一三八八年、瑞西の諸州獨立を圖り、壞地利に背き、大に此地に於て壞地利の兵を撃破し、之れより瑞西獨立の基礎固くなりぬ。

子ザーランド Netherland チーデルランドを見よ。

子之部

子ルチンスク Nertschinsk (尼布楚) (位置) 露領シベリア後バイカル州の東部に在る一小市。

(歴史) 露のコサック探險隊長ハバロフ一六五六年此地を開きしより重要なる所となり。此地は一六八九年八月廿七日露の彼得大帝の大使ゴロビンと清の聖祖(康熙帝)の大使索額圖と相會して兩國境界談判を開き、有名なる尼布楚條約を締結したる地なり。今左に該條約の重要なる箇條を列擧す。

(一)、露、清兩國の境界はアルグン(額爾古涅)河及びゴルビツァ河を以て限界とし、此河の上流即石山(ヒンガン山脈)の岑嶺より其下流海岸に至る迄とす。而してウジヤ河より南方山岳迄の間地は暫く其經界を定めざる事。

(二)、アルバジン(雅薩克)府は悉く之を破壊し、府中の居民は露國境内に遷徙せしむる事。

(三)、舊來の移住民は該地に居住するも妨げなし、爾後移住する者ある時は之を其本國に交附すべき事。

(四)、兩國の人民にして旅行券を携帶したる者は兩國の旅行規程内に於て自由に旅行す

るを得べき事。

(五)、總べて公安を妨害したる者は其本國に交附し、速に裁判を遂げ相當の罪科に處す可き事。

子ハウエンド Nehawend (位置) 波斯の西部メデアに在り、バグダードの東北に當る。

(歴史) ササン朝の波斯國サラケン人の侵略を被り、國都グテシフォンも遂に其占領する所となりしが、波斯王イズデゲルド(伊嗣侯)奮激恢復をはかり、東北諸州の兵十五萬を悉くし、六四一年此地に出で、サラケンの將ノマンと對峙すること二ヶ月、ノマン兵寡くして其力争の難きを知り、ハリ發殞落すると稱へ、詐り退きて波斯軍を誘ひ、急に反撃して大に之を破り、全軍を粉碎し、其總督フィルザンを斬る。波斯王伊嗣侯は當時東方亞細亞に建ち、其威令遠く中央亞細亞に及べる一大帝國唐朝に依りて恢復を計らんとせしが、唐太宗應ぜずして國遂に亡びき。當時サラケン國は唐の波斯を助くることあらんを恐れ、使を唐に遣はし好を通じ兩國の使臣相來往するに至れり。

子ーデルランド Nederland (位置) 今の和蘭白耳義の地。子ーデルランドとは低

地の義なり。

(歴史) 此地は近世に至るまで、或は埃地利或は西班牙などの屬領地なりしが、第十六世紀の末葉、和蘭國は西班牙より獨立したり。其後一八一五年維也納會議に於て、和蘭白耳義の地を合して、ネーデルラント王國を建設せしが、白耳義は一八三八年和蘭より分離獨立し、はじめて和蘭、白耳義の兩國成立するに至れり。

ノ之部

〔二、三、四字〕

ノビ Novi (位置) 以太利の北部ロムバルデアに在り、ジェノバの北、マレンゴの南に當る。

(歴史) 佛國革命政府の軍、以太利に侵入せしが、埃、露兩國の軍の爲めに撃破せられ其勢振はざりしを以て、佛國は更にジャッペルを將とし以太利に赴かしむ、ジャッペル以太利に入り、此地に於て埃露の連合軍と奮戦せしも、遂に其破る所となれり。

ノバラ Novara (位置) 以太利北部ミラノ府の北、ポー河の上支流セシア河の東に在り。

(歴史) 以太利サルデニア王カロロ・アルベルト以太利の統一を圖り、一八四九年埃地利と戦を開き、三月二十三日此地に於て兩國の軍會戦し、サルデニア國の兵戦甚だ力め、王自ら陣頭に立て奮戦せしも埃の名將ラデッキ(時に八十四歳)の撃破する所となり王は國家の爲めに計り、即夜陣中に於て位を太子ビクトリオ・エマヌエロに譲り葡萄牙に逃れポルト府に於て遂に病没せり。

ノバ・ローマ Nova Roma (新羅馬) (位置) コンスタンチノブルの一名。

〔五、六字〕

ノートル・ダム Notre Dame (位置) 佛國巴黎府に在り。

(歴史) 一八〇四年十二月二日、佛のナポレオン・ボナパルト此寺に於て、法王ピウス七世より佛蘭西皇帝の帝冠を受けたり。

ノルマンディー Normandie (位置) 佛蘭西北方沿海岸の地。

(歴史) 西フランク王國は第九世紀の中葉の頃より、北人の侵寇に苦しみ、オルレアン、ナント、ポルドー、パリ等の諸都府其害を被りしかば、九一二年佛王カロロ遂に此地を割きて、北人の酋長ロロに與へ侯伯となし、北人の新に入寇する者を防遏せしめし

より此名あり。第十一世紀の中葉、ノルマンディー侯ウィルレム英國に侵入し、一〇六六年英王の位に登りしより、久しき間此地は英王の所領たりき。彼の數理天文に通じ有名なるメカニク・セレステを著はして名をニットン、と齊ふしたる天文學者ラプラス氏は一七九四年此地に生れたりき。

ノブゴロド *Novgorod* (位置) 露國ボルガ河の上流北岸オカ河の合流點に在る都府。

(歴史) 歐洲に於て、北人遷徙の當時、北人の一派ルスの會長ルーリク露西亞に侵入し此府を建て、國都となせり。時に八六二年なり。爾後十三世紀の末に至るまで、此府は露國の中心たりき。

ノバカルタゴ *Nova Carthago* (位置) 西班牙の東南海岸バロス岬の西に在り。
(歴史) ホエニ戰役當時、カルタゴの將ハミルカル・バルカ西班牙半島征畧の策を建て、西班牙半島の大半を畧定し、其女婿ハスドルバル其遺圖を紹ぎ、半島を征定して此府を開きてカルタゴの根據地となしたる所なり。

ハ之部

〔二三、四字〕

パリ *Paris* (位置) 佛國セーヌ河畔に在り。

(歴史) チェルトン人の一派なるフランク人の酋長クロドウィヒ五〇六年都を此地に定めしより、永く佛國の首府となれり。普佛戰爭の時普軍(二十萬)の攻圍を受くること一百三十一日にして、一八七一年一月廿八日陥落したり。

ハワイ *Hawaii* (布哇) 島(位置) 太平洋中サントウチ諸島中の尤大島なり。

(歴史) 有名なる英國の探險家ジェームス・クック氏一七七九年此島を發見せしも、不幸にして此島の土人の爲めに非業の死を遂げたり。此島は其後獨立の一王國を成し、我日本國の條約國の一なりしが、移住米人の勢力強く、遂に革命を起して國王を廢して共和政府を建て、明治三十二年北米合衆國に合併せり。

パリジ *Parisi* 今の佛國首府巴里の舊名。

バツーム *Batum* (位置) 露領カフカズの西部黒海に臨める小市。

(歴史) もと、土耳其領なりしが、一八七八年伯林會議に於て露領となりぬ。

バーケリー *Berkeley* (位置) 英吉利グロスター州セバーン河の河口東岸に在る

市。

(歴史) 牛痘を検して種痘術を發明し醫學界に偉大なる功績を立てたる英王の侍醫エドワード・ジェンナー氏は一七四九年を以て此市に生れたりき。

バーゼル Basel (位置) 瑞西國の北西隅に在る都邑。

(歴史) 一四三一年、羅馬法王マツチノ五世宗教會議を此市に開らきて、宗教の改革を討議せしが、遂に其目的を達すること能はざりき。

パナマ Panama (位置) 南北兩亞米利加の間なる地峽。

(歴史) 一五一三年、西班牙人バルボア始めて此地峽を探検し、新大陸の西方に一大海洋(太平洋)あるを發見したり。

パロス Palos (位置) 西班牙國西南海岸に在る港。

(歴史) 以太利ジェノバの人、コロンブス西班牙女王イサベラの助を得、大陸發見の爲め、一四九二年八月三日小船三艘を率ゐて此港を出發したり。

バルミー Valmy (位置) 佛國の東北部、セダンの南に當る所に在り。

(歴史) 佛國大革命の時、佛國革命黨の將軍ケレルマン、一七九二年埃、普諸國の同盟

軍を此地に迎へ撃て大に之を破りき。之れより佛國革命黨の氣勢愈加はれり。

パスアウ Passau (位置) 獨乙國バツリアの南方ドナウ河の河畔に在る都邑。

(歴史) 獨逸帝カロー五世新教を滅さんと欲し、數年の間シママルカルデン同盟(新教徒の同盟)と戦を交へしが、一五五二年に至り、此府に於て同盟と和議を調へ、新教徒の自由を許し繋囚せし新教諸侯を解放したり。

パビア Pavia (位置) 以太利北部ポー河中流北岸に在る都邑。

(歴史) 五六八年ロムバルド王國建設せられし時、其王都たりし地にして、降て十六世紀に至り、獨逸帝カロー五世佛蘭西王フランシス一世と確執を生じ、一五二五年此地に於て兩國の軍激戦し、佛軍大敗王フランシス虜となり、西班牙マドリッド府に幽閉せらるゝこと一年、マドリッド條約締結後、漸く赦されて國に還るを得たり。

バージニア Virginia (位置) 北米合衆國東部の一州。

(歴史) 英國エリザベス女王の代サー・ウォータラレー始めて此地に殖民を企てたり。

ヴァレンヌ Varennes (位置) 佛國の北東部セダンの南に在る都邑。

(歴史) 佛國大革命の時、一七八九年六月佛王ルイ十六世外國軍隊の力を藉りて國內過

激黨を鎮壓せんと欲し、皇后、太子を率ゐてひそかにチャイレーリ宮を脱し此地に至りしが、府の守兵其國王たるを察し密告せしかば追兵到りて王を捕へ巴里に護送したり。之れより革命黨の國王を監視する甚だ嚴なりき。

バビロン Babylon (位置) エウフラト河の下流に跨れる都府。

(歴史) バビロニア王國の首都たりし地にして、此の府の盛なりしは新バビロニア國王ナボポラサルの時にして、府の大きさは今日の英京倫敦に五倍し、エウフラト河府の中央を緩流し、府の周囲は高さ三三八尺厚さ八五尺の墻壁を以て圍み、銅門あり城樓あり、特に其宮殿、懸園の若きは實に當時世界の一大奇觀なりき。B.C. 五三八年波斯王キロスバビロニア國を滅す時、エウフラト河の流を他に轉移せしめ、河床に従て城内に入り此府を陥れたり。其後マクドニアの亞歴山大王波斯を滅し、B.C. 三二四年都を此に定め一大帝國を成さんとせられしが、其大業未だ成らずして熱を病んで、遂に此地に於て歿したり云。

パリカオ Peking (八里溝) (位置) 清國北京天津兩府間に在り。

(歴史) 一八六〇年九月、英佛聯合軍北京に進軍せし時、清將僧格林沁兩國の軍を此地に防ぎて大敗し、北京は遂に聯合軍の占領する所となり。清國皇帝は熱河に蒙塵せり。

バスチーユ Bastille (位置) 佛國巴里府に在り。

(歴史) 此地に獄あり、此獄は佛國にて國事犯の罪人を禁錮する獄にして、恰も志士の陷穽として見られたる處なりき。佛國大革命の初期、一七八九年巴里暴民の一揆の爲めに破壊せられたりき。

ハールレム Harlem (位置) 和蘭アムステルダム府を距る大約十哩許西方に當る都府なり。

(歴史) 和蘭獨立戦争の時、西班牙軍の爲めに攻圍せられ、一五七二年の末より一五七三年の春に及び、遂に力屈し勢窮まりて降りしが、其間市民よく防戦し、婦女三百餘人一隊を作り軍務に従ふに至れり。其食盡きて降伏するや、西班牙軍は大に市民の虐殺を行ひ、其數二千餘人によりしと云ふ。

バタヴィア Batavia (位置) 馬來群島中なる瓜哇島の西北海岸に在る都府。

(歴史) 此府はじめ、ジャガトラと稱せり。一六一八年和蘭人は葡萄牙人を追ひて此府を占領し、一六二二年三月四日府名をバタヴィアと改め、和蘭東印度領の總督府をアンボ

イナ島より此處に移し、東洋貿易の根據地となしたり。

バタビア 共和國 一七九五年、佛國共和政府が和蘭の政体を變じて建てたる共和國なり。

ハノーヴァー Hanover ハンノフェルを見よ。

バシシー Vassy (位置) 佛國の東北部マース河の上流西方なる都邑。

(歴史) 一五六二年佛國に於て舊教徒等此の地に於ける會堂を襲ひ大に新教徒を殺戮せり。是より内亂紛々として起り國內所々に兩教徒の戦争を見るに至れり。

パルチア Partia (安息) (位置) 裏海の南方に起りし王國クテシフォンを首都とせり。

(歴史) パルチアの英主ミトラダテス一世 B.C. 一七四年王位に登り、B.C. 一五〇年バクトリア國を討滅し、頻りに版圖を擴め、エウフラト河東の地概ね其の領土に入り『王の王』(Shah-in-shah)と稱し、國勢強大なりしが、後羅馬と争隙を開き互に勝敗あり、爲めに國力疲弊し、二二六年中期ペルシアの高祖アルデシルの爲めに滅されき。
〔五、六、八字〕

バグダード Bagdad (位置) チグリス河中流左岸に在り。

(歴史) サラケンのアバス朝の都にして、哈利發ハルン・アル・ラシドノ頃は、殷富繁華文學の隆盛當時他に其比を見ざりき。降て第十三世紀中葉、蒙古の旭烈兀西侵の時、一二五八年此府遂に陥り最後の哈利發なるモスタシム其殺す所となれり。其後帖木兒の起るや、中央亞細亞平定の後、印度、波斯を征略しバグダードを陥れて之を破壊し、鹵掠殺戮至らざるなく、九萬の首級を以て一大高塔を築きたりと云ふ。

ハンブルグ Hamburg (位置) 獨逸國エルベ河下流右岸に在る港市。

(歴史) 中古のハンザ同盟中の一市にして、自治都府の一なり。一八一三年佛帝ナポレオン第一世、ライプチヒの戦に敗れ、獨逸國內風を臨て聯合軍に降りしが、獨り佛の名將デビエー此府を堅守し、依然佛國旗を樹て、和議の時に及べり。

バンベルグ Bamberg (位置) 獨逸フランコニアに在り、ライン河の支流マイン河の上流南岸。

(歴史) 獨逸皇帝フレデリキ二世、一〇〇七年此地を以て基督僧正の管轄地(Bishopric)となして教會を保護せり。

バウツェン Bautzen (位置) 獨逸サクソニア國の東部に在る市邑。

(歴史) 一八一三年、佛帝ナポレオン第一世此地に於て、普、露兩國の聯合軍と會戦して之を撃破したり。

バクトリア Bactria (大夏) (位置) 中央亞細亞オクス(烏滸)河の上流の地方。

(歴史) 古代波斯王國の盛時には、其版圖に屬し、^{アレクサンドル}亞歷山大王の殂落後、シリア王國の一部なりしが、B.C.二五五年此地の知事獨立して一王國を形成し、エウチデムス王の時代に希臘の文化輸入に勉め、其の子デメトリウスの治世の頃は、此國最盛の時代なりき。其後國勢漸く振はず蒙古種一派なる月氏其北境を侵し、西方よりバルチア王ミトラダテス一世の侵寇を被り、B.C.一五〇年其滅ぼす所となれり。ザラツストラ教の教祖ザラツストラは實に此地の産なり。

パレスチナ Palestina (位置) 地中海の東岸の地。

(歴史) 猶太王國は此地に建てられたり。

バーミンガム Birmingham (位置) 英國イングランドの中央ウオリク州の西北隅に在る都府。

(歴史) 蒸汽機關を改良し、諸種の工業に利用するを得しめたる、有名なるジエームス・ワットは此府に於て重要な研究を遂げたり。

ハンノフェル Hannover (位置) 獨逸の北部ウエーゼル、エルベ兩河下流の間に在る地方。

(歴史) 此地の選舉侯ジョルジ一七一四年英國に迎へられて其王位に登り、ジョルジ一世と稱せり。之を英國ハノーバー王統の始祖とす。其後一八三七年英王ウィルヘルム四世崩じ、女皇ビクトリア即位せしが、ハンノフェルは女子の繼承を許さざる憲法なるを以て、英國と分離し獨逸聯邦の一となりぬ。

バンカースヒル Bunker's Hill (位置) 北米合衆國の東部マサチウセツ州の東部、ポストン府の北レキシントンの南に在り。

(歴史) 北米合衆國獨立戦争の時、總督ウォシントン一七七五年六月英軍と此地に激戦し殖民軍敗れしが、英軍も亦死傷甚太しかりしを以て、ポストン府を捨つるに至れり。

ハリアルトス Halartos (位置) 希臘ボイオチア州に在り。

(歴史) 希臘のコリント戦争の時、B.C. 三九五年 スバルタの名將リサンデル テイベを征し、此地の戦に於て遂に陣没したり。

バリアドリッド Valladied (位置) 西班牙國バリアドリッド州に在る部邑、ダウロ河の北。

(歴史) 亞米利加新大陸發見によりて、其名を世界に轟かしたるコロンプスは、一五〇六年此府に於て遂に白玉棲中の人となれり。

パレスタイン Palestine パレスチナを見よ。

ハリカルナソス Halikarnassos (位置) 小亞細亞の西南海岸に在る市邑。

(歴史) 希臘の史家にて歴史學の祖と稱せらるゝ有名なるヘロドートスは、B.C. 四八四年此市に生れたり。

亞歷山大王東方遠征の時、此地の守將メムノン能く防ぎ、マケドニア兵大に苦しみ、遂に王自ら手兵を提て奮闘し、僅に陥しゝるゝことを得たり。

ヒ之部

〔二、三、四字〕

ピサ Pisa (位置) 以太利アルノ河の下流北岸なる都府、海を距ること六哩許。

(歴史) 此府十世紀の頃に在ては、優に以太利諸市の牛耳を執り、一〇二五年にはサルヂニア島よりサラケン人を驅逐し其勢盛なりしが、後ジェノバの勃興するに及び之に壓せらるゝに至れり。彼の十七世紀に於て望遠鏡の改善及び振子落鉢の觀察を以て顯はれるガリレオ・ガリレイは此地の産なり。

ピナン Penang 島 (位置) 馬來半島の西岸に在る小島。

(歴史) 此島は一七八六年英國東印度會社の船長フランシス・ライト氏非常なる盡力を以て其領主ケタ國酋長より買ひ受けしものなり。

ピレネー Pyrenes (位置) 佛蘭西、西班牙兩國の境。

(歴史) 佛西兩國は獨逸三十年戦争の頃より、葛藤を生じて戦を交へしが、一六五九年此地に和約を結び、佛國はネーデルランドに於て諸都邑を得、佛王ルイ十四世は西班牙王フィリポ四世の公主マリア・テレサと婚せり。されど公主は其西班牙國に於ける王位繼承のことを辭退したり。此和約は佛相マザレンが畢世の力を盡して締結せるものなりと云ふ。

ピレウス Piræus 港 (位置) 希臘アチカ州の海岸アテネ府の西なる港。

(歴史) 第二波斯戦争の後アテネの名將テミстокレス大に築港して、堅固なる軍港となし、以て波斯の來寇に備へたる港なり。

ヒューゼン Fisen (位置) 獨逸パワリアの南境に在る小市。

(歴史) 埃地利王位繼承戦争の時、マリア・テレサに對する王位競争者カローロ七世没し、其子ヨセフ此市に於て埃地利女王マリア・テレサと和約を締結し、埃國王位繼承の權を放棄したり。

ビブルス Byblos (位置) 地中海東岸に在る都府にしてシドン市の北に在り。

(歴史) 此市はB.C. 一三〇〇年の頃には、其勢盛にして當時フェニキア諸都市の牛耳を執れり。

〔五、六字〕

ヒダスペス Hydaspes 河 (位置) 印度の北西部に在り、インドス河の上支流の

一。

(歴史) マケドニアの亞歷山大王遠征して、B.C. 三二六年印度の北西部に侵入せし時、印

ヒダス

度のパウラ國王ポルス大象八十五戰車三百步騎三萬七千を以て、大王の軍を此河に邀ふ。亞歷山大王兵を分て其將クラテルスに分ち授け、ヒダスペスの急流を涉り、方陣を以て先づ象軍を衝かしめ、奮闘激戰の末之を走らし、ついで大にポルスの軍を破り之を生擒せり。ポルス捕へられて屈せず、從容王者の禮遇を享けんを求む、亞歷山之を壯とし其故地を復せり。

ヒフシス Hyphasis 河 (位置) 印度の北西部に在り、インドス河の上支流の

一。

(歴史) マケドニアの亞歷山大王東征して遂に印度に入り、ヒダスペス、サンガラ等に勝ち、猶兵を南に進めんと欲せしめ、天暑く地險に加ふるに疫病流行し、將士皆歸休舊故を見んを希ひ、遠く不知の異域に入るを欲せず。爲めに軍中騷然たりしかば、王止むを得ずして此河を渡るに及ばずして軍を旋しぬ。故に此河を以て亞歷山大王東方遠征の限界となす。

ヒルカニア Hyrkania 裏海の南東隅沿岸の地方。

ビザンチオン Byzantion (位置) 今のコンスタンチノブル。

(歴史) 此地もと、希臘人の殖民地の一なりしが、其形勝の地なりしより、漸次繁盛に赴けり。後コンスタンチヌス大帝羅馬を統一するに及び、此市の歐亞兩大陸交通の要衝に當り、南北水運の鍵關たるを見、斷然帝都を此市に奠め、諸種の特典を與へて、羅馬府及び東方の富豪右門工匠賈人を招致し、三三〇年五月開府し之にコンスタンチノブルと命名せり。

ビラフランカ Villafanca (位置) 以太利北部ベロナ州ベロナ府の西南十哩に在る市。

(歴史) 以太利統一戦争の時、一八五九年七月十一日、奥國遂に屈し奥帝自ら此地に赴き、佛帝ナポレオン三世と會見し、講和の假條約を締結したり。此條約締結は、プロンビエール條約に違背せるを以て、サルヂニアの宰相カプーラは、大に佛帝の不信を憤りき。

フ之部

〔三、四字〕

プルート Pruth (位置) 露國の西南部プルート河とドニエステル河との中間に在

り。

(歴史) 北方大戦争の時、瑞典王カロー十二世ホルタバに敗れて土耳其に走り、土國を煽動して露國再征を計り、一七一一年露の彼得大帝ペテロを此地に圍み、陷落旦夕に迫りしが、后妃カタリナの計を用ひて、土軍の上將に厚賂を啗はし、カローの反對を唱へしにもかゝはらず、此地に和を講じ僅に虎口を免るゝを得たり。

プラーグ Prague (位置) 今の奥地利オーストリア匈牙利國ボヘミアの首府にして、エルベ河の上支流モルダウ河の西岸に在り。

(歴史) 一三四八年、獨逸帝カロー四世巴里大學に倣ひ、此府に大學を設置せり。之を獨逸に於ける大學の嚆矢となす。七年戦争の時、普のフレデリキ大王一七五七年此地に於て大に奥軍を撃破し、全歐をして其精銳を驚嘆せしめたりき。一八六六年八月廿三日普奥戦争平和條約を此府に於て締結せり。此條約に於て、奥國は獨逸聯邦より除かれ、シャルヌウヰヒ、ホルスタイン二洲に關する權利を一に普國に讓與し、二千萬ターレルの軍費を賠償し、ベチチアを以太利に讓與せり。

ブービーヌ Bouvines (位置) 佛蘭西國の東北隅國境に在り。

(歴史) 佛の英主フィリポ二世、一二一四年英吉利日耳曼兩國の聯合軍を此地に撃破し、英王の佛國內に有する領地の大部を恢收したり。之れより佛國王權大に揚れりき。

プレブナ *Plevna* (位置) 歐羅巴土耳其アルガリア國ドナウ河の南に在る市邑。

(歴史) 一八七七年露土戦争の時、土耳其の名將オスマン・パシヤ此城を守り『吾輩が土國の名譽の爲めに流す所の碧血の最後まで、唯戰あるのみ』との決心を以て、兵寡く然かも防備不整なる城砦に據りて、よく強盛なる露軍に當り、三萬有餘の敵兵を鏖殺し、殆んど五ヶ月の長き露軍の南進を防遏し、敵國人及び全世界の人にまで一般に賞嘆せられたり。然るにセバストポル戦役の驍將トートレーベンの來りて長圍持久の策を立つるに及び、糧食盡きて遂に陥落せり。此城地陥落の後は、露軍は各方面に於て充分なる運動をなすを得て、アドリアンブル忽ち下り、帝都コンスタンチノブル震駭し、土國は遂に露に向て和を請ふの止むなきに至れり。

プエブラ *Puebla* (位置) メキシコ國メキシコ府の南東に在る市。

(歴史) 一八六三年佛帝ナポレオン三世メキシコを遠征し、此府を陥れて遂にメキシコを占領したり。

ブレシヤ *Brescia* (位置) 以太利北部ガルダ湖の西六里許の處に在る町なり。

(歴史) 一八四九年、薩、埃戦争の時ロムバルディア人起りて、サルデニアに應ぜしかば、埃兵直に此府を攻撃して猛烈なる市街戦をなし、漸く之を陥れ、軍法會議を開き有罪者を刑し死に當る者甚だ多く、又此町市及び附近の町村に巨額の軍事費を課し暴虐を極めたり。世人之を『ブレシヤの豺』と稱す。

プラテエー *Plataene* (位置) 希臘ポイオチア州に在る都府。

(歴史) 波斯戦争の時、波斯の海軍はサラミス海戦に敗績して、王クセルクセスは倉皇東歸せしが、其將マルドニウス陸兵三十萬を以て此府に留り、希臘征服の擧を完くせんことを期せり。B.C. 四七九年希臘諸邦兵を併せ、スバルタの將パウリニウスを總督とし、進で波斯軍を攻撃せしも、名將マルドニウスの計に陥り、其糧道水路を斷たれ全軍覆没せんとせしが、マルドニウス戦没せしかば波斯の軍衆戦はずして潰走し、勝利は反て希臘同盟の軍に歸せり。

プラチア *Platia* プラテエーを見よ。

プlassy *Plassy* (位置) 印度カルカッタ府の北方に在り。

(歴史) 英國東印度會社の書記クライブ、一七五七年佛國と同盟せるベンガル王の大軍を此地に撃破し、印度に於ける佛國の勢力を撲滅し、ベンガルを保護國となせり。是に於て英人の東印度に於ける勢力大に張れりき。

フロリダ Florida (位置) 合衆國南東なる半島地。

(歴史) 此半島はもと、西班牙領なりしが、一八一九年合衆國に讓與したり。合衆國は一八二二年フロリダ州を新置し、此地に人民の移住をはかり、在來の亞米利加土人を武力を以てミシシッピ河西に驅攘せんとするに及び、所謂セミロール(Semirole)役起り、一八三五年十二月より一八四二年八月に亘り、漸く土人を征服することを得たりしが、合衆國政府の損失太甚しく、半島全土荒廢に歸せしかば、政府は善後の經營に苦心盡力し其結果一八五五年に至り、はじめて合衆國の一州に列するに至れり。

ブラジル Brazil 國 (位置) 南亞米利加東北部なる一大國。

(歴史) 一五〇〇年、葡萄牙の人カブラル之を發見して葡領となし、より、爾後久しく葡萄牙國の殖民地なりしが、一八二八年母國より離れて獨立の帝國となり、一八八九年革命起り、帝ペテロ二世を廢して共和國となりぬ。此國は近年我日本國と通商條約を締結

したり。

フランク Frank 王國 (位置) 今の佛蘭西獨逸地方。

(歴史) ライン河の下流に住せし、チェルトン人の一派フランク人ガリアに侵入し、其酋長クロドウィヒ五〇七年都をパリに奠めてフランク國の基を開き、爾後二四六年間此王統繼續せしが、カロリング家のピピン之に代り、其子カロロ(シャイレマン)大帝の時、其國勢強大を極め、西はエプロ河より東はエルベ河に至り、北はオーデル河より南はチベル河に達する版圖を開きしが、大帝の没後八四三年ベルダンの條約によりて、フランク王國は三分したり。

フランス France 國

(歴史) フランク王國分裂して生じたる、西部フランクの發達したるものにして、はじめ王國なりしが、第十八世紀の末大革命起り、國王ルイス十六世を斷頭臺上に弑し、共和國となし、ナポレオン第一世及び三世の時一時帝國となりしが、幾もなく共和政治に復し、以て今日に及べり。

〔五、六字〕

ブレスラウ Breslau (位置) 獨逸シレシアの中央、オーデル河の西岸に在る都府。

(歴史) 奥地利王位繼承戦争の時、一七四二年奥地利女王マリア・テレサは此の府に於て、普王フレデリキ二世と特別和約を結び、シレシアを普魯西に割譲し、普國をして抗奥同盟中より脱せしめたり。

フアシダ Fashoda (位置) 亞弗利加ニール河の上流に在り。

(歴史) 佛國は亞弗利加に於けるソマリ、コンゴ二殖民地を連絡せしめんと欲し、一八九八年遠征隊を派遣して、此地を占領せしが、英國の抗議を招き、遂に其兵を撤去し僅に事なきを得たり。フアシダ事件と世に稱せらるゝもの即ち是なり。

ファレルム Phalerum (位置) 希臘雅典府の南に當れる港ピレウス港の東に當る。

(歴史) B.C. 四八〇年サラミス海戦の當時、波斯海軍の根據地たりし港なり。

ブルガリア Bulgaria (位置) 歐羅巴土耳其ドナウ河とバルカン山脈との間に在る國。

(歴史) もと、土耳其帝國の領土たりしが、一八七五年此地の人民叛旗をひるがへして蜂起かしが、土耳其兵の爲めに勘定せられたり。其後露土戦争の末、一八七八年サン・

ステフ、ノの條約により、東ローマニアをも併せて、土耳其の附庸國となし、自治權を有し基督教政府を建て、民兵を備ふるを得しめ、其國君は同國民の選舉となし、土耳其帝之を認可する事を定めたりしが、一八七八年の伯林會議に於て其地域をドナウ河とバルカン山脈との間に縮少せられたり。

ブリンヂシ Brindisi (位置) 以太利半島の東南アドリア海岸の都市。

(歴史) B.C. 四〇年羅馬のアントニウス、オクタウィアヌスの兩人此市に會し、羅馬の領土を二分して、以太利なるスクタノを境界とし、以東をアントニウス以西をオクタウィアヌスの領有と定め、以太利半島は其共有となすことを決せり。

プリマウス Plymouth (位置) 北米合衆國の東海岸ボストン府の南に在り。

(歴史) 此地は一六二〇年頃、英國なるピューリタン教徒の英政府のために追放せられたるものの移住して開きたる所なり。

フランドル Flandres (位置) 今の白耳義及び之に接する佛蘭西國境の地方。

(歴史) 英佛百年戦争の當時、一三四〇年英吉利との聯合艦隊を以て、スライス近海に於て、大に佛國海軍を撃破せしことあり。

フロレンス Florence フィレンツェを見よ。

ブルッセル Brussels (位置) 今の白耳義國の首府。

(歴史) テーデルランドの人民西班牙の管治を脱せんと欲し騷擾を極めし時、西班牙より派遣せられし太守アルバ公が、彼の有名なる流血會議 Council of blood の稱ある法廷を開きしは此府なり。

フリピン Philippine 群島 (位置) 亞細亞州の東南太平洋中の群島なり。

(歴史) 一五五六年、西班牙王フィリポ二世此群島を占領して之に布教せんと欲し、命を新西班牙總督に下す、總督即ちメキシコ府の市長ミゲル・ロペス・ダ・レガスピを遠征隊長に住し、一五六四年新西班牙を發し、翌年四月ゼブ島を占領し、尋いて附近の諸島を下し、一五七〇年五月呂宋マニラ府を占領し、同府を以て列島の首府となし、全列島占領の布告を發せり。之れより此群島永く西領たり。其群島名は西班牙王の名に因みて命名せるものなり。其後一八九八年に至り、北米合衆國西班牙國と西印度キウバ島事件より戦を開き、西班牙艦隊をマニラ灣に殲し、平和に及び此列島を西國より割讓せしめたり。

ブリタニア Britania (位置) 今の英吉利。

(歴史) 此地もと、ケルト種一派ブリトン人之を占領せしが、羅馬の内亂時代ケーザルの爲めに其一部を征服せられ羅馬帝ドミチアヌスの時アグリコラ此地の總督となりて、全く蕩平したり。降て第五世紀の初め、羅馬の鎮兵を撤するや、チュートン種に屬せるアングロ、サクソン、ユート人等大陸より海を渡りて侵入し、ブリトン人を征服して七王國を建設したり。是等は今の英國人の祖先なり。就中アングロ人最強盛なりしより、國名も遂に一變してイングラントと稱するに至れり。

プリンストン Princeton (位置) 北米合衆國の東部ニュージャージー州の西北トレントン府の北に當る。

(歴史) 北米合衆國獨立戦争の時、一七七七年總督ウォシントン此地に於て、英國軍を撃破したり。

フリードランド Friedland (位置) 東普魯西の中央ケーニヒスベルヒの東南に在り。

(歴史) 一八〇七年、佛帝ナポレオン第一世此地に於て露軍と激戦し、露軍大敗死傷甚だ多く、露帝アレクサンドルは遂に佛帝に和を乞ふに至れり。

プロンビエール Plombières (位置) 佛蘭西國ポスヌ州に在る温泉場にて有名

なり。

(歴史) 一八五八年七月二十日、サルチニアの賢相カプーリル佛帝ナポレオン第三世と此地に密會し、僅々二十四時間を以て、佛、薩兩國攻守同盟條約の大本を協定したり。其密約によれば、佛國はサルチニアを援けて埃地利兵を以太利より驅逐し、ロムバルチア及びベネチアの二州をサルチニアに併せ、其領内の人口をして千百萬乃至千二百萬の數に達せしめ、而して佛國は其報酬として、サボヤ、ニースの二地を併せ、以て其南東の方向に於ける國疆の守備を嚴にすべきを約したり此密約締結の結果、翌一八五九年直に埃薩戰爭の開始を見るに至れり。

プラセンチナ Piacentina 以太利北部ポー河の南岸に在り。

ファルサルス Pharsalus (位置) 希臘テッサリアの南部、キノスケフ、レの南に當る。

(歴史) 羅馬の二傑、ケーザル、ポンペイウス此野に決戦す。時にポンペイウスが率ふる兵衆四萬五千、ケーザルの軍其半に満たず、然れども精銳遙に之に過ぐ、兩軍大に戦ふこと終日、ポンペイウスの軍遂に潰走し、ポンペイウス埃及に走る實にB.C. 四八年九月九日なり。

フィレンツ Firenze (位置) 以太利アルノ河に跨る都府。

(歴史) 此府は文學復興の先鞭を着け文學美術共に著はれたり。此地より有名なる人物を出だせしこと多くダンテ、ペトラルカ、ボカチオ、マキアベリ(文學者)、ミカエル・アンジェロ(美術彫刻家)、アメリゴ・ベスプッチ(有名なる探検家にして、一四九九年南亞米利加の海岸を探見し其紀行を著はせり、新大陸をアメリカと稱するは其の名に因めるなり)トスカチリー(地球の圓躰なるを説き、歐洲より西方に航して直に印度及び日本に達する捷路を得べしと主張せり。コロンブスは深く此説を信じ、新大陸を發見するに至れりと云ふ)、等は皆此地の出身にして、知名の士を出せることに於ては唯古の雅典のみ之比肩することを得。

ブレンハイム Blenheim (位置) 獨逸バウリアの西方ドナウ河の北に在り。

(歴史) 西班牙王位繼承戰爭の時、一七〇四年英の名將マルボロー公此地に於て、佛國及びバウリアの聯合軍を撃破したり。

フィンランド Finland (位置) 今の露西亞の北西部の地方。

(歴史) 此地方は第十七世紀の頃、瑞典國が北歐に覇を稱したる時代には其版圖なりしが、北方大戰爭の結果ニスタードの條約により露國の領土となれり。

プレスブルグ

Presburg

(位置)

匈牙利

の北境に在る都府、維也納府の南に當り

ドナウ河の北岸に建つ。

(歴史) 奥地利王位繼承戦争の當初、奥國女王マリア・テレサ匈牙利に走り、公衆を此府に招集して、當時の状況を訴へて愛國心を喚起せしめ、勤王の士を募り、翌一七四一年奥地利に入り、佛蘭西、バワリア兩國の兵を國外に驅逐し漸く其勢を恢復したり。其後歐洲自由戦争の時、一八〇五年アウステルリッツ戦役の後、佛、奥、兩國此地に於て平和條約を締結し、其結果として、バワリア、ウィルテンブルグ等西部の白耳曼諸國は、ライン同盟を組織してナポレオン第一世を其保護者と仰ぎ、以太利に於ける奥國領は沒收せられて、ナポレオンの治下に屬するに至り、日耳曼人種の神聖羅馬帝國は全く瓦解滅亡し、皇帝フランシス二世は神聖羅馬帝國の解散を公布し、自ら奥地利皇帝と稱するに至れり。

〔七、八、九、十字〕

フンテヌブロー

Fontainebleau

(位置)

佛蘭西巴里府の南、セーヌ河の西に

在る小市

(歴史) 一八一四年佛帝ナポレオン第一世此地に於て帝位を退き、聯合敵軍と左の條約を結べり。

(一)、佛帝ナポレオン第一世をエルバ島に遷し、其の處の君公に封じて全島の主權を委ね、猶皇帝の尊號を保たしむること。

(二)、佛國政府より年金二百萬フランをナポレオンに送附すること。

(三)、ナポレオン第一世の皇后マリア・ルイサにはバルマ侯國を與へ、皇后の尊號を保たしむること。

ブランデーワイン

Brandywine

(位置)

北米合衆國フィラデルフィア府の北西に

在り。

(歴史) 北米合衆國獨立戦争の時、一七七六年九月此地に於て殖民地軍大に英軍の爲めに撃破せられ、フィラデルフィア府は英軍の占領する所となれり。

フベルツスブルグ

Hubertsburg

(位置)

獨逸サクソニア國ライプチヒ市の東

南に在る小市。

(歴史) 一七六三年、普、奥兩國此市に於て平和條約を締結し、有名なる七年戦争其局

を結べり。此和約によれば、戦争の原因たりしシレシアの地は全く普魯西の有に歸し、普國王はマリア・テレサの子を獨逸皇帝に選舉すべきを定めたり。

フランクフルト Frankfurt (位置) 獨逸マイン河の下流北岸に在る都府。

(歴史) 第十五世紀の末葉、獨逸皇帝マキシミアノ一世此地に帝國裁判所を常置せしとあり。一八一五年より一八四八年に至る間獨逸聯邦會議の開かれし市府なり。普佛戦争ベルサイユの假條約は一八七一年五月十日此府に開かれたる和議によりて確定したり。

フィラデルフア Philadelphia (位置) 北米合衆國ペンシルワニア州の東南デラウエーア河の岸西に在る都府。

(歴史) 北米英國殖民地の人民、本國政府の不當課税に反對し不穩の狀況ありしかば、英政府は軍隊の力により之を壓服せんとしたり。於是殖民地諸州の人民は、一七七四年此府に第一回の大陸會議(Continental Congress)を開き、左の件々を決議せり

(一)、本國政府が寛大なる處分をなして、殖民の不平を解くに至るまでは、決して本國と通商せざる可し。

(二)、殖民地の政治は凡て各州の議會に任じ、議會は其州の施政に關しては最上の權力

者たる可し。

(三)、本國の王及國會に對して寛大の處分を歎願すべし。

其翌年第二回の大陸會議此府に開かれ、愈擧兵の事を決し、ウォシントンハ總督に任せられ。合衆國獨立後一七八七年各州の代議員此府に會し新に憲法を議定したり。

ブルケルスドルフ Bukersdorf (位置) 奥地利維也納府の北ドナウ河の南に在り。

(歴史) 七年戦争の時、一七六二年普魯西王フレデリク二世此地に於て大に奥地利の軍を破れり。

ファイブフォークス Five forks (位置) 北米合衆國の東部バージニア州に在り、リッチモンド府の南に當る。

(歴史) アメリカ南北戦争の時、一八六五年四月北軍の名將シェリダン大に南軍の將リリーを此地に撃破せり。リリー將軍勢究まり遂に軍を擧げて、北軍の將グラントに降るに至れり。

ブランデンブルグ Brandenburg (位置) 獨逸國サクソニアの北に當れる地方。

(歴史) ホーヘンツォルレルン家のアルブレヒト此地を領して獨逸の選舉侯となり、普魯西を併有し、其後フレデリキ・ウィルヘルムの子フレデリキ一世に至りユートレヒトの條約により、王號を承認せられ普魯西王と稱し、普魯西王國成れり。

ブライテンフェルト Breitenfeld (位置) 獨逸サクソニア國ライプチヒの近傍北に當る。

(歴史) 三十年戦争の時、瑞典王グスタフ、サクソニア侯と兵を合せ、獨逸の將軍チリーと此地に會戦して、大に獨逸軍を撃破す。時に一六三一年なり。

フェール・シムプノア Fere Champenoise (位置) 佛蘭西巴里府の南方に在り。

(歴史) 歐洲自由戦争の時、一八一四年佛軍此地に於て聯合敵軍と決戦して敗績せしかば、聯合軍は進んで巴里府を攻圍したり。

フレデリクスハル Frederikshall フレデリクシャルドを見よ。

フレデリクスブルグ Frederiksburg (位置) 北米合衆國バージニア州に在り。

(歴史) アメリカ南北戦争の時、一八六二年十二月南軍の將リ、此地に於て北軍の將バーンサイドの軍を破れり。

プラーヌ・ド・ラ・コンコルド Place de la concord (位置) 佛國巴里府の中央に在り。

(歴史) 佛國大革命の時、一七九二年國王ルイス十六世をはじめ、幾多の志士人傑が斷頭臺上の露と消へし刑場の在りし地なり。

フレデリクシャルド Frederikshald (位置) 那威國の東南隅なる都邑、クリスチアニア府の南に當る。

(歴史) 此地は北方のナポレオンと稱せらるゝ英傑瑞典王カロロ十世戦没の地なり。北方大戦争の末期、カロロ十二世は國勢を恢復せんと欲し、兵を那威に出し、丁抹より那威を略取せんことを計り、一七二八年此府を圍みしが、流丸に中りて遂に陣中に没せり。

へ之部

〔二、三、四、五字〕

ペグ Pegu (位置) 緬甸マルタバン灣の北隅海岸なる都府。

(歴史) 葡萄牙の印度總督アルブルケ馬來半島南端なるマラカ(滿刺加)を畧取し、一

五二一年はじめて此府と通商貿易を開きたり。

ペリー Pelew 島 (位置) 太平洋中にして、フィリッピン群島の南東に在り。

(歴史) 此島もと、西班牙國の所領なりしが、一八九九年カロライナ群島と共に獨逸國に賣渡し、現今は獨逸領島の一なり。

ベロナ Verona (位置) 以太利の東北ベネチア州の西部に在る都府。

(歴史) 一八二二年、希臘獨立戰爭の時神聖同盟諸國、煥相メッテルニヒの議を納て此府に會し亂民を援助せざることを議決せり、然るに露帝ニコラ一世はメッテルニヒの抗議を顧みず希臘を助けて土耳其と戦ふに及び此決議は無効に屬せり。

ベニス Venice ベネチアを見よ。

ベルデ岬 Cabo Verde (位置) 緑の岬の義、亞弗利加西海岸に在り。

(歴史) 一四四五年ヂニス・ヂアズ葡萄牙王ヘンリの命を奉じて、亞弗利加西岸を探検し、はじめて此岬を迂回し、草木繁茂し人畜棲息せるを見て歸り、南方の熱度は動植物を枯死せしむと云へる、アリストテレス、ブトレマイオス等の古來の妄説を打破し以て大に人心を啓發したり。此岬の西にカボ・ベルデ島あり。第十五世紀の末新大陸發見の事あるや、羅馬法王は一四九三年敕命を發し此島より西百ガレ(一レガは凡三千歩)の處に南北に一線を劃し、其以東に基督教の君主を戴かざる國土を發見したる時は悉く葡萄牙領とし、以西に發見したる時は、之を西班牙領となすべきを命じたりしが、此敕命に本ける形勢は爾後百餘年の間持續せられたり。

ベネチア Venecia (位置) 以太利アドリア海の西北岸なる都府。

(歴史) 第五世紀の頃フン人歐洲に侵入せし時、其奪掠を避けんがため移住せし人民の創説せる都府にして、十字軍の當時は隆盛段富を極めしが、第十五世紀の頃より漸く衰へぬ。佛國大革命の時、佛共和政府の軍以太利に侵入し此地を征服せしが、一七九七年佛國の和成るに及び、佛國は此地を煥國に與へ煥領チーデルランド(今の白耳義の地)を得たり。是れより後久しく煥國管治の下に在りしが、一八六六年普煥戰爭起るに及び、以太利國は此地を得るの目的を以て、普國と同盟して煥國に當り、プラッグの條約によりて其目的を達するを得たり。一二七一年歐洲を發して陸路蒙古に赴き元の世祖忽必烈に仕ると廿年、海路印度の地方を経て、此府に歸り東方見聞録を著はし支那及び日本を歐洲人に紹介し冒險心と利慾心とを刺激したるマルコ・ポロ氏。ミケランジェロ以後第一と稱せらるゝ彫刻の大家カノバ氏は共に此府の産なり。

ベルダン Verdun (位置) 獨逸の西部マース河の上流西岸に在り。

(歴史) 八四三年此地に於ける條約の結果、カロロ大帝國分裂して東部、中部、西部フランスとなり、佛、獨兩國分立の基をなせり。

ベルリン Berlin (伯林) (位置) 獨逸ブランデンブルグに在り。

(歴史) 一七〇一年、普魯西王フレデリキ一世都を此地に奠めたり。七年戦争の時、聯合敵軍の爲めに攻圍せられしことあり。降て第十九世紀のはじめに至り、一八〇六年十月廿一日佛帝ナポレオン第一世此府に於て、大陸條例 (Continental System) を發布せり、世に伯林命令と稱するもの之なり。此は佛帝が英國海軍の強盛にして、戰に依て之を屈せしむること難きが故に、此命令を發して大陸諸港を鎖し、英國と通商貿易を禁じ以て英國を苦しめたるものなり。

ベテレヘム Bethlehem (位置) 志利亞なるイェルサレム府の南小距離の所に在り。

(歴史) 耶蘇教の教祖耶蘇基督イエス・キリストマアウグスツス帝の治世B.C.四年此地に生誕せり。一八五二年此地の寺院管理權に關して、希臘教會と羅馬教會との間に争を生じ、爲めに露、土兩國間に紛議を來し、事態容易ならざる有様なりしが、西歐列國の關涉によりて此件

は平和に落着したり。

ベルサイユ Versailles (位置) 佛國巴里府の西北小距離、佛王の宮殿あり。

(歴史) 一七八九年、此處に於て三氏議會を開設してより史上に著はる。普佛戦争の當時、巴里攻圍獨逸軍の大本營を置かれし地にして又兩國媾和假條約締結の地なり。一八七一年一月十八日普王ウイルム獨逸諸王侯の請を容れ、此宮殿に於て獨逸皇帝の宣言をなしたり。

ベネベント Benevento (位置) 以太利半島サムニテ州の西南部に在り。

(歴史) B.C.二七五年希臘のエピロス王ピロス大に羅馬軍と此地に於て激戦し、遂に大敗して本國に逃げ歸りし。

〔六、十字〕

ヘスチングス Hastings (位置) 英吉利の東南方海岸に在る市邑。

(歴史) 一〇六六年、ノルマンディー侯ウイルム英國に侵入し、ハロルド伯を此地に破りて、英國全土を征服し遂に英國王位に登れり。

ベルナルド Bernarde (位置) アルプ山中の險道にして。以太利亞より佛蘭西に通

ずるを得。

(歴史) 一八〇〇年三月佛のナポレオン・ボナパルト、此險道を越へて以太利亞に侵入したり。

ヘルゴランド Helgoland (位置) 丁抹半島ホルスタイン州の西方海上に在る小島。

(歴史) 一八六四年、シャルスウイヒ、ホルスタイン戦争の當時、埃地利の名將テゲトフ、埃地利、普魯西兩國の聯合艦隊を率ゐて、此島附近海上に於て、丁抹の艦隊と會戦して大勝を得たり。

ヘルウエチア Helvetia 共和國 (位置) 今の瑞西國。

(歴史) 一七九八年、佛國の共和政府が瑞西國に干涉し、其政體を變じてヘルウエチア共和國と稱せしめたり。

ペルセポリス Persepolis (位置) 波斯國の南部ニリア湖の北方に在り今のイスタフル町の地。

(歴史) 古期波斯國の英主ダリウス王地を此に相し、天下の名匠良工を集め宏大莊麗を究極せし大宮殿を造營し、王國の首都となせり。ペルセポリスとは希臘人の『波斯都城』

の義なりとぞ。

ヘレスポント Hellespont 海峡 (位置) 小亞細亞と歐羅巴との間に在る海峡、

(歴史) 第三波斯戦争の時、^{B. C.}四八〇年波斯王クセルクセス無慮九十萬の大軍を率ゐて

西征の途に上り、發するに先ちフェニキアの船匠を募りて、此海峡に船橋二條を作らしめ、渡兵の用に供せしめしが、王の大軍此を渡り了るに二週日を要したりと云ふ。

ヘルゼゴビナ Herzegovina (位置) 歐羅巴土耳其古ボスニアの南方なる地方。

(歴史) 一八七五年、此地の人民土耳其古政府の重斂と回教徒の迫害に苦しみ、一揆を起して騷擾を極めしが、露土戦争の後、柏林會議に於て、此地は埃地利匈牙利國行政の下に立つに至れり。

ペテルブルク St. Petersburg (位置) 露國の西北子バ河口に在り。

(歴史) 露の彼得大帝北方戦争の當時、瑞典領を蠶食し、一七〇三年子バ河口に建てたる都府。此地もと寂寞無人の地にして、其附近に於ける漁夫等が、時に來りて垂綸を試むる地たるに過ぎざりしが、一七〇三年、彼得大帝此地の方面に堡砦を築造すべき必要を感じ、地をヘレス島に卜し、ニクの要砦を築きしが、此事偶然にも新都府を經營創設

する端緒となり、苦心經營四年、一七〇六年全く功を奏し、爾後露國の帝都と定めたり。此時大帝は書をモスクバなる貴族に送つて曰く。『新市に住居することの愉快なるは、恰も天國に移住せしが如し』と帝の得意想ふ可し。

ヘレス・ド・ラ・フロンテラ Heres de la Frontera (位置) イヌベニア 西班牙の西方に在り、カヂス港の北東四十哩許。

(歴史) 七一一年サラケンの大將タリク此地に於て西ゴート國王ロ德里ゴと戦ひ大に西ゴートの軍を破り、ロ德里ゴ王戦没せり。於是西班牙半島全くサラケン人の占領する所となれり。

ホ之部

〔二、三、四字〕

ホーゴ (澎湖) 列島 (位置) 日本國臺灣島の西なる小群島。

(歴史) 一八八五年、清佛戦争の當時、佛の海軍提督クールベール此島を占領して根據地となし、が、平和恢復に及び、佛國は之を清國に還附せり。其後日清戦争起り、日本軍之を占領し、一八九五年馬關條約締結の結果、全島日本の領有に歸しぬ。

ボハラ Bokhara (布哈拉) (位置) 今の露領トルキスタン、アム及ビ、シル兩河間に在り。又ベハラ。

(歴史) 此附近の地は、セルジック土耳其人の住居せし所なり。此市は嘗て布哈拉汗國の首都たりし所。布哈拉汗國は月即別部長アブルケルの孫シバン第十六世紀の始め建國したるものにして、其勢一時強盛なりしが、第十八世紀の頃に至り國勢漸く衰へ、加ふるに浩罕、ホカンド 基華の兩汗國と屢々葛藤を生じて益々國力の疲弊を來し、露將カウフマンの中央亞細亞に侵入するや、之を邀へて大敗し、或は阿富汗の後援を仰ぎ、或は英國の同盟を請ひしも皆成らず、遂に一八四八年布哈拉汗國は露國の保護國となり、且五十萬ルイブル留の償金を支辨し、サマルカンド以下露軍の占領せし土地を讓與して露國と和せしが、後英國阿富汗兩國事を構へて相争へる機に乗じ、露國は全く布哈拉汗國を滅じて其版圖となしたり。

ボヤカ Boyaca 橋 (位置) 南亞米利加コロンビア國の首府ボゴタ府の近傍に在り。

(歴史) 南米獨立當時の俊傑シモン・ボリバル一八二二年八月此處に於て、大に西班牙

の軍を撃破し、其全軍を降しボゴタ府を略取しコロンビア共和國を建設したり。

ボストン Boston 港 (位置) 北米合衆國マサチューセツツ州の東海岸に在る港市。

(歴史) 英國政府は本國の財政困難を醫せん爲めに、北米殖民地に、一七六六年印紙條例(Stamp Act)を發布せしが、殖民地の人民いたく反對せしより之を廢し、更に殖民地に輸入する貨物に課税したり。是に於て、殖民地の壯士五十人印度人に粉装し、ボストン港に碇泊せし英國商船に突入し、積載せる茶荷三百四十箱を悉く海中に投げたり。之を『ボストン茶黨』(Boston tea party)と稱す、時に一七七三年なり。英國政府は此報を得て、軍隊をボストン港に送り、ボストン港條例を發布し、ボストン港を封鎖し、食品及び燃料の外貨物の輸出入を禁じ港民を苦しめたり。之れより殖民地の人民益激し、獨立戰爭起るに至れり。

ボリソフ Borisov (位置) 露西亞スモレンスク府の西ドニエプル河の上支流ベレンシナ河の東岸に在り。

(歴史) 一八一二年、佛帝ナポレオン第一世露西亞より退却せる時、露兵の追撃愈々急に特に遊撃コサク騎兵の追及甚しく、此地に於て大に佛兵を苦しめたり。此時佛軍の勇

將子殿軍を以てよく之に應じ『勇中の勇』の稱を得たり。

ボロニア Bologna (位置) 以太利北部ラウエナ府の西北ポー河の南岸に在る市。

(歴史) 獨逸帝カロー五世、一五三〇年此府に於て羅馬法王より羅馬の帝冠及び以太利の王冠を受く、之を法王授冠の最終となす。彼の動物磁氣説を創唱してガルバニズムの名を残したる、伊太利の醫師ガルバニ氏は一七三七年此市に生れたりき。

ポアチエー Poitiers (位置) 佛國ロアール河の下流の南に在り。

(歴史) 英佛百年戦争の時、一三四六年英王エドワード三世の黒太子(ウエールス親王)寡兵を以て、佛王ジョアン二世の率ゐし六萬の騎士と、此地の附近モールツェイに會戦し、大に之を破り佛王を生擒したり。ジョアン王英國に囚はるゝこと四年、一三六〇年ブレチニーの和約成り、軍費賠償の後許されて歸國せり。

ホラズム Khorasm 國 (花刺子摸)(位置) 裏海東南方の地方に建てられたる國。

(歴史) 突厥種族のテキシユなる者セルチック家の土耳其古を滅し、波斯を統一せしが、一二〇〇年其子ムハメッド花刺子摸王となり、トルキスタン、アフガニスタン地方の大半を併吞し、都をサマルカンドに定め、其版圖裏海より印度河に達し、國勢一時頗る強

盛なりしが、蒙古の隊商百餘人ホラズムに到りし時、オトラル(訛打刺)の城主之を殺して其貨財を掠奪せしかば、成吉思汗は詰問の使を派遣せしに又殺されたり。是に於て、成吉思汗激怒一六一八年其四子朮赤察合臺、阿窩臺、拖雷と共に大軍を帥ひて、ホラズム國に侵入し遂に之を滅ぼしたり。又フワリズム Khivania (貨利習彌伽)

ポーツマス Portsmouth (位置) 英國の南部ハムプシャーの南岸に在る港市。

(歴史) 英佛百年戦争の時佛王カロロ(シャルル)五世艦隊を派して、此都府を焚燒せしことあり。

ホンコン Hongkong (香港) (位置) 支那廣東省の南方海中なる一小島。

(歴史) 此島もと、清國領なりしが、一八三九年鴉片戦争の南京條約によりて英國領となれり。

ポアッシー Poissy (位置) 佛蘭西國に在る市邑。

(歴史) 佛蘭西王カロロ(シャルル)九世、一五六一年此市に宗教會議を開きし時、テオドル・ベザ博識雄辯を以て、新教の教理を辯析したり。

ポントス Pontus 國 (位置) 小亞細亞に起りたる王國にして、黒海の南岸。

(歴史) 一時國勢頗る盛にして羅馬と相争ひしことありしが、B.C. 四七年遂に羅馬の英傑クローザルの爲めに征服せられき。クローザルが羅馬に書を送りて『我來れり、我見たり、我勝てり』“I came, I saw, I conquered.”と云ひしは此時にして、其戦勝の迅速なるを云ひあらはしたるなり。

ボスニア Bosnia (位置) バルカン半島の北西部セルビアの西に隣れる地方。

(歴史) バルカン半島に移住せしスラフ種なるセルビア人の中ボスナ河畔に移住せしもの、自らボスニア人と號しセルビア木國より分離せしが、一四〇一年以後土耳其に服屬したり。降て一八七八年六月伯林會議に於て、此地はヘルゼゴビナと共に墺地利管治の下に屬するに至れり。

ボリビア Bolivia 國 (位置) 南アメリカ、ブラジル國の西部に位する共和國。

(歴史) 此地古のインカ帝國の一部にして、西班牙のピサロの爲めに征服せられ久しく西國殖民地たりしが、南米西班牙殖民地悉く獨立するに及び、此地も亦英傑スクレン氏の力によりて最後に西班牙の羈絆を脱して獨立し、上ペルーの名を改めてボリビアと稱しスクレン市を國都となし、共和政體の一國を成せり。ボリビアてふ名は南米のウォシント

ンと稱せらるゝシモン・ポリバルに因みて名けたるなり。

ボヘミア Bohemia (位置) 塊地利匈牙利國の西北部の地方。

(歴史) 宗教改革時代に於て此地方は新教を奉ずる者多かりき。獨逸帝ルドルフ二世の時、帝は皇弟マチアスと隙ありしを以て、ボヘミア人の心を得て其援を藉らんと欲し、一六〇九年此地の新教徒に宣教の自由を與へたり。然るに帝歿しマチアス帝位に登るに及び其從弟フェルデナンドをボヘミア國王となせり、フェルデナンドは舊教歸依者なりしかば、いたく新教徒を抑壓せしよりボヘミア人遂に反し其勢甚だ猖獗なりき。時に會マチアス帝崩じボヘミア王たりしフェルデナンド帝位を繼ぐに至りしかば、ボヘミア人之を奉ぜずして別に英國王ジェームス一世の女婿たるファルツ侯フレデリキ五世を推して王となせり。フェルデナンド帝よつて大舉してボヘミアを伐ち、フレデリキを放逐せり。於是、歐洲に於ける新舊兩教徒最後の衝突にして、歐洲全土の大紛擾なりし三十年戦争其端を發したりき。

ボルネオ Borneo 島 (位置) 亞細亞大陸東南海中なる一大島。

(歴史) 本島ははじめ西班牙人によりて開かれしが、後和蘭人の勢力西國人を凌駕し、一八二五年以來和蘭人は大に其領域を擴め、遂に本島の大部を有するに至れり。英人は一八一一年の頃より一八一七年に至り此島の北西部を領有し、一八八九年に至りラプアン島をも併有したり。

ポトマク Potomac 河 (位置) 北米合衆國東部 Chesapeake 灣に注ぐ河。

(歴史) 一八一二、三、四、五年に於ける英米戦争の時、一八一四年英の水師提督コック・パーンは軍艦を率ゐて此河を遡り、八月二十四日首都ウォシントン府を侵す米人之を拒ぎて大に敗れ大統領以下皆脱し市府英兵の爲めに焚燒せられたりき。

ホドトン Hudson 河 (位置) 北米合衆國東部に在る河流。

(歴史) 此河名は一六九九年和蘭人ホドソン氏の探險せしにより其名に依て命名したるなり。米人ロバート・フルトン氏が航海に堪ふる蒸氣船を發明し、始めて艦裝せしは此河なり。又ホドソン河。

ポーランド Poland 國 (位置) 歐羅巴の東北部、露西亞及び塊地利兩國間に建てられし王國。

(歴史) 此國はもと、獨逸國に屬せるスラフ人種の國なりしが、プラヂスラウ十四世紀

の始め國內を統一し、獨逸より分離してポーランド王と稱したり。其後ヤゲロ家の時は、普魯西を屬國とし、露西亞を蠶食し、蒙古人を擊退し、國勢頗る張りしが、國內の統一鞏固ならず各州法律行政を異にし、一五七二年選舉王國となりてより、國王選舉の際には外國の干涉を來たし王權地に墜ち、貴族は腐敗専横にして、農民は奴隸の如く、堅實なる中等社會全く其跡を絶ち、農商工藝の業萎靡振はず。國內の人事既に此の如くなるに、加ふるに、此國は山嶽河流等地形上の固めなく、自然に於ても亦國を守る可き地利を有せざりき。ポーランド國の情態上述の如かりしかば、露、普、墺の三國は同盟して一七九二年第一回のポーランド分割を行ひ、各其國境に接する地を略奪したり。其後ポーランドの志士等國勢の恢復を計りしが、露國は兵力を以て之に干涉し、一七九三年普國も亦露と連合して、ポーランドの將コシッコ等の軍を破りて第二回の分割を決行せり。其翌一七九四年コシッコ等再び義旗を擧げ、上下一致して恢復を計りしも、貴族農民相和せず、露、普、墺三國の大軍侵入し來りコシッコ遂に虜となり、一七九六年此國は全く三國の分割する所となりて遂に亡びき。

“Oh! bloodiest picture in the book of time!”

Sarmatia fell, unwept, without a crime.”

ポンペイ Pompeii (位置) 意太里亞國の南西海岸ベスビオ山の麓に在りし市。

(歴史) 此市はB.C.二九〇年頃までは羅馬に屬せしが其後獨立し市勢頗る盛なりしが、六三年二月ベスビオ山噴火の際大地震ありて全市を破壊し、七九年八月二十四日ベスビオ山再び大噴火をなし、其際全市悉く埋没せられ、住民の逃れ得ずして熱泥に埋められしもの二千餘人に及べりと云ふ。埋没後、中古時代には全く此市は世人に忘却せられ居りしが、近世に至り此市の發掘に従事し、一八七三年には其大部分を發掘せり。其發掘せる所によれば、此市は東西に亘りて二千六百メートルの城壁によつて圍まれ、内には大劇場、大浴場、議政場等の大建築物ありて往時の隆盛を想見し得べし。

ポルタバ Poltava (位置) 露國の西南方ポルタバ州の東に在る都邑。

(歴史) 北方大戦争の時、瑞典の英主カロロ十二世既に露國の同盟國を征服し、更に進んで露國を征せんとし、露國に侵入し南方に轉じて此府を攻圍せしも、容易に抜くと能はず、兵士糧食に乏く菜色ある時に乘じ、露帝彼得精銳を提げて來り、一七〇九年大に瑞典王の軍を破りき。瑞典國の勢力は此一舉によりて全滅し、瑞典王カロロは土耳其に走れり。

ボロヂノ Borodino (位置) 露國モスクバ府の西モスクバ河の上流河畔に在り。

(歴史) 一八一二年佛帝ナポレオン第一世五十萬の大軍を以て露國に侵入し、此地に於て兩國の軍血戦し死傷算なかりしが、露軍は遂に退却の止むを得ざるに至り、モスクバ府に退却したり。

ボスワース Bosworth (位置) 英國イングランドの中央レーセスター州の西部に在り。

(歴史) 英國薔薇戦争の時、ランカスター家のヘンリ七世ヨーク家のリチャード三世と、一四八五年此地に戦ひ克てリチャード三世を殺して、英王の位に登り薔薇戦争漸く其局を結べり。

〔五、六、七字〕

ポムメルン Pommern 獨逸オーデル河下流兩岸沿海の地方、前部後部に分る。

ボルスタラ Vorkla 河 露國ドニエプル河の支流。

(歴史) 一三八二年、帖木兒、欽察のトクタムシ汗の不信を憤り、兵四十萬を率ゐて露國に侵入せしかば、トクタムシ奔りて獨逸リトワニア大侯に依る。リトワニア大侯トク

タムシを援け、獨逸、波蘭リトワニア、露西亞、欽察の諸軍に將とし、此河上に帖木兒を迎撃し、反りて大敗し、帖木兒のために諸所を蹂躪焚掠せられたりき。

ポルトアーサー Port Arthur 旅順口を見よ。

ポルトリコ Portorico (位置) 西印度諸島中の一にしてハイチ島の東に在り。

(歴史) 此島もと西班牙國の屬島なりしがキューバ島獨立事件より米、西兩國間戦を交へし末西國は此島をも合衆國に讓與し一八九八年以後は合衆國領島となれり。

ポルトガル Portugal 國 (位置) 歐羅巴イベリア半島の西部。

(歴史) もと、カスチリアの屬邦なりしが、第十一世紀の末に至りて獨立せり。降て第十五世紀の中葉、ジョアン二世即位して漸次王權を固め、又航海を獎勵保護して、遂にアフリカを迂廻して印度に到る航路を發見して、世界商業の局面を一變し、次第に東洋に於て諸地を占領して居留地を設置し、一五一七年には支那廣東に來りて支那と通商し、一五四二年には日本種子島に到りて日本と通商貿易を開始し、新大陸に於ても廣大なる殖民地ブラジルを領有し、當時ポルトガルの國勢は頗る強盛なりしが、政府治民の術に拙にして、徒らに殖民地の利益を吸収して本國を膏すを計り、人民は着實なる業務に従

ふて喜ばず、爲めに本國の製造工業衰萎振はず、十七世紀の半頃に至りては東洋に於ける勢威商權は、蘭人の爲めに蹂躪侵奪せられ、十九世紀に至りブラジル國も母國を離れて獨立するに至れり。

ホンヂャラス Honduras 國 (位置) 中央亞米利加中部の國。

(歴史) ヌエバ・エスパニア(新西班牙)の一部にして西班牙殖民地なりしが、一八二一年獨立し一八二三年に至りて、他の中央亞米利加諸地と共に中央亞米利加合衆國を建てしが、一八三八年に至り分裂して、ホンヂャラス。サン・サルバドル San Salvador。ニカラグア Nicaragua。ニスタ・リカ Costa Rica。グアテマラ Guatemala の五國となれり。

ホルスタイン Holstein (位置) 丁抹半島の南部の地。

(歴史) シャルスウイヒ 見よ。

ポンヂシヘリー Pondichery (位置) 印度半島の東南海岸に在り。マドラス府の南に當る。

(歴史) 佛國ルイ十四世の時、有名なる政治家ロルベール此地に佛國殖民地を開き、印

度に於ける佛國商業上の要地となしてより、佛の印度總督の駐在府なりしが、七年戦争の時印度に於ける英佛殖民人等戦を交へ、一七五七年冬此府は英人の攻圍を受け、總督ラリー病を力めて防禦に盡し、糧食缺乏し翌年一月遂に陥落したり。其後平和恢復するに及び、英國は此市及びシヤンデルナゴル市等とを佛國に還附し現今佛領たり。

ホーヘンリンデン Hohenlinden (位置) 獨逸國バウリアなるミッハンヘン府の東北に在り。

(歴史) 佛國大革命の當地、佛國革命政府の將モロイ奥地利に侵入し、一八〇〇年十二月奥地利の將ヨハテ大公の軍と此地に會戦し、大に大公の軍を破りしかが、奥國遂に力屈して和を乞ふに至れり。

マ之部

〔三、四字〕

マルタ Malta 島 (位置) シチリア島の南地中海中の一小島。

(歴史) 佛國革命の時、ナポレオン・ボナパルト埃及遠征の途中此島を占領せしが、幾もなくして英の名將テルソン地中海に於ける艦隊根據地として此島の好位置なるを思

ひ、佛人の手より此島を略取せり。然るに一八〇二年三月アミアン條約により英國は此島を使徒セント・ジヤンの武族たるヨハ子社に返還するを約せしが、英國は此條約を無視して此島を還附せざりしかば、ナポレオンの憤怒を招き、一八〇三年英佛兩國の平和破るゝに至れり。降て一八一五年のウィーン列國會議の結果確然英國領島となれり。

マカヲ Macao (澳門) (位置) 支那廣東省の海岸なる一小島。

(歴史) 支那明朝の末より、葡萄牙人此地に來りて支那と貿易を開きしが、一五五七年葡人は海賊征伐の功により、年金五百兩を明廷に納るゝを約し、此島を永代借地となせり。降て一八八二年に至り、清國と契約を結び永く葡萄牙領島となれり。徳川氏の頃我邦人通商の爲め此に住くもの多く、邦人は之を阿媽港アマカカと稱したり。

マンジ Mangi 以太利のマルコ・ポーロ支那より還りて、東方見聞録を著はしたりしが、其書中南支那地方をマンジと稱したり。

マニラ Manila (位置) フィリピン群島呂宋島の西部マニラ灣に臨める港市。

(歴史) 西班牙王フィリポ二世フィリピン群島を占領して之に布教せんと欲し命を新西ヌエバエス班牙の總督に下して遠征隊を出さしむ、總督乃ち一五六四年十一月レガスピを派遣し、

一五七〇年五月レガスピの孫サルセドをして呂宋島を征服せしむ、サルセド呂宋に至りマニラ王と條約を締結せしが、マニラ王ソリマン之を悔む市府を焚燒して戦ひサルセド重傷を負ひしかば、パナイ島に在りしレガスピ報を得て赴き援け之を平定し、此府を以てフィリピン群島の首府となし全列島占領の布告を發せり。於是フィリピン群島確然西領となれり。降て一八九八年キッパ島事件より米西戦争起るに及び合衆國艦隊はマニラ灣に泊せし西班牙艦隊を襲撃して之を殄滅したり。

マラカ Malacca (滿刺加) (位置) 亞細亞馬來半島の西南方マラカ海峡に望める都市。

(歴史) 葡萄牙の印度總督アルブケルケ一五一一年七月土人と激烈なる戦争の後、此地を占領したり。其後和蘭人の東洋貿易隆盛に赴くに及び、一六四〇年遂に葡萄牙人を驅逐して此地を占領し、東南兩洋咽喉の地を得、蘭人益振ひ葡人大に衰へたり。降て第十八世紀の末、佛國大革命起るに及び、英吉利海軍は和蘭が佛國の與國たるの故を以て、此地を攻撃し、一七九五年此地を略取し、爾後永く英領となれり。

マクタン Mactan 島 (位置) 南洋フィリピン群島中の一小島。

(歴史) 有名なる世界一週者葡萄牙人マガリアエンス(マジェラン)大平洋を横ざりて、比律賓群島に達し、セブ島の酋長をして西班牙國に服従せしめ、セブ酋長を援けて其敵を撃ち、此島に於て激戦し遂に毒矢を受けて斃れたり、時に一五二一年四月廿五日なり也。

マラトン Marathon (位置) 希臘アチカ州の東南に在る一小灣の海岸。

(歴史) B.C. 四九〇年波斯王大流士大軍を催し、アルタフェルチスを將とし再び希臘を征せしむ。アルタフェルチス海路をとりて進み、此地に上陸せり。雅典人は急に兵備を整へ、使を飛ばして急をスパルタに告げしめしに、スパルタは満月の日至らざれば、國を出でざる習ひなるを以て、其以前に於ける出兵を辭せり。此時雅典に來援せしは、プラテエー市民ありしのみにて、雅典兵と合して僅に三千に出でざりしが、雅典の將ミルチアデスの議にしたがひ速戦に決し、進て波斯軍を此地に撃ち、兩國の兵衆寡懸絶せしも、希臘兵は其地勢狹隘にして、寡兵に利に大軍に便ならざるに乗じ、短兵を以て急に波斯軍にせまり、奮激殊死して戦ふ。波斯軍遂に敗れて潰走し、船中に遁る。時にB.C. 四九〇年九月十二日なり也。

マラゾン Marathon マラトンを見よ。

マリアナ Mariana 諸島 一名ラドロナ諸島と云ふ。ラドロナ諸島を見よ。

マインツ Mainz (位置) 獨逸國ライン河の中流、ライン、マイン兩河の合する南岸なる都邑。

(歴史) 此市のグーテンベルヒ、一四四四年金屬活版印刷術を創始せり。

マレンゴ Marengo (位置) 以太利北部ポー河上流の南に在り。ミラノ府の南に當る。

(歴史) 一八〇〇年、佛蘭西のナポレオン・ボナパルト以太利に侵入し、六月此地に於て突然塊地利の將メラスの爲めに襲撃せられ、佛軍將に覆没せんとせしが、會佛軍の支隊來援せしかば、形勢一變してナポレオン遂に大勝を博し、塊地利をして休戦を乞はしむるに至れり也。

マドラス Madras (位置) 印度半島の南東海岸に在る都市。佛領ボンデシエリー市を距ること北方百哩許。

(歴史) 此市は一六三九年英人の印度商業に従ふもの、此地を根據地とせんが爲め、此

地に聖セントジョルジ城を建設せしより、東印度會社の重要な立脚地となれり。降て七年戦争の時英佛殖民の印度に在る者亦戦を交へ、一八五八年十二月此市は佛の印度總督ラリの爲めに大軍を以て襲撃せられ、其外廓を奪はれしも、聖ジョルジ城堅く守りて下らず、翌年二月に至り佛軍は遂に其圍を解くに至れり。

マシリア *Massilia* 今の佛蘭西地中海岸なるマルセイユ港。此地もと希臘殖民地の一なりき。

〔五、六、七字〕

マジメンタ *Magenta* (位置) 以太利北部ポー河の上支流チチノ河畔に在り。ミラノ府を距る西方十五哩。

(歴史) 以太利統一戦争の時、一八五九年六月四日奥地利の軍佛軍を此地の附近なるバッフハロー橋に於て襲撃し、佛帝ナポレオン三世大危急に陥りしが、會佛將マクマオンの來援するありて僅に免るゝを得、更に佛蘭西、サルチニア聯合軍を以て、奥兵と此地に會戦し、奥兵は戦頗る力めしも遂に大敗せり。

マンチチア *Mantina* (位置) 希臘ペロポネソス半島アルカチア州の東南に在り。

(歴史) ペロピダスと共にテーベの覇業を成したる英雄エバミノングスが戦死したる地なり。エバミノングス兵を率ゐてペロポネソスに第四次の進撃を試み、スバルタを攻むること二回なりしも其功を奏すること能はず、退きて此地に陣し、スバルタアテチ雅典同盟軍と決戦し、奮撃之を破りしが、其身も亦數創を蒙りて遂にまた立たざりき。之れよりテーベの勢俄然として衰へたり。

マケドニア *Macedonia* (位置) 希臘北部の地方。

(歴史) 此地もと、北方蠻夷の地として希臘諸邦の中に加へられざりしが、フィリポ王に至りて大に興り、遂に希臘列邦の中に列し、其子亞歷山大王アレキサンダーに至り覇業を大成し、東方大遠征を企て東西文化を融合せしむるに至れり。降て羅馬の興るに及び其屬邦となりぬ。

マセドニア *Macedonia* マケドニアを見よ。

マルセイユ *Marseille* (位置) 佛蘭西國の南部地中海岸に在る港市。

(歴史) 此市もとマシリアと稱し、希臘殖民地の一なり。第十六世のはじめ獨逸皇帝カ

コロ五世と佛國王フランシス一世と相争ひし時、フランシスは土耳其と同盟して東西よりコロロを攻撃せんと圖れり。コロロ先づ發し親ら軍を率ゐて此市を攻圍せしが城將モンモランシー沈毅勇敢能く守りしかば、獨帝は遂に其士卒の過半を失ひ退却するの已むを得ざるに至れり云。

マグネシア Magnesia (位置) 小亞細亞の西海岸シヒロス河畔に在り。

(歴史) 羅馬の外國征服時代シリア王安チオコス三世マゲトニア王ト同盟して、埃及、ローツス等を征服せんとせしかば、此等諸國は援を羅馬に乞へり。羅馬之を許し、羅志兩國戦を交ふるに至り、羅馬の名將スキピオ・アフリカヌス、シリアに攻め入り、B.C. 一九〇年此地に於て大にシリア王の軍を破り、翌年左の條件を以て和成れり。

- (一) シリアの領土にして歐羅巴に在るものは全然、又小亞細亞に在るはタウロス山西の地を羅馬に割讓すること。
- (二) 償金一萬五千タレント(凡三二八二五萬圓)を十二ヶ年間に辨償すること。
- (三) 軍艦は十艘を残し他は皆戦象と共に之を羅馬に交附し、宣戦は羅馬の命令に従ふべし。

(四) 客將バシニバルを送致すべしこと。

シリア國は此役後國勢大に衰へたり。

マルプラケ Malplaquet (位置) 佛蘭西國の北部白耳義の國境モダンの西北に當る所に在り。

(歴史) 西班牙王位繼承戦争の時、佛軍連戦連敗の有様なりしかば、佛王ルイ十四世大に奮激し、敵の同盟軍と一七〇九年此地に於て決戦せしも、同盟軍の名將英相マルボロ公の爲めに大敗し、佛王ルイは遂に屈して講和の議を提供するに至れり。

マダガスカル Madagascar (位置) 亞弗利加東南岸なる一大島。

(歴史) 一八九五年、佛國は遠征隊を出し此島を伐ちて遂に其保護國となしぬ。

マルムスベリー Malmesbury (位置) 英吉利國ウイルトシャーに在り。

(歴史) 有名なる英國の哲學者トーマス・ホッブス氏は一五八八年五月此地に生れたり云。

マーストン・モア Marston Moor (位置) 英國ヨーク州ヨーク府の西北に在り。

(歴史) 一六四四年、オリベル・クロムエル有名なる鐵騎軍を以て國王カロー(チャーレス)一世の軍を此地に破れり。

マグデブルグ Magdeburg (位置) 獨逸國エルベ河中流西岸に在る都府伯林府の西南に當る。

(歴史) 三十年戦争の時、此府は復舊令 Restitution's Edict を拒みしかば、一六三一年獨將チリー此府を攻圍せり。瑞典王グスタフ之を援はんと欲するも、サクソニア等の諸國其外人たるを猜疑し、逡巡趨起空しく時日を費やしし間に、同年五月廿日エルベ左岸第一の要衝たりし此府は終にチリーに陥れられ、全市兵燹にかゝりて塵灰と化し、死者三萬餘蹠血數里に亘り、獨逸兵の奪掠其慘を極めたり。於是新教諸公戰慄し、瑞典王グスタフの力に藉り同年九月チリーの軍を大にライプチヒに破り、破竹の勢を以て中南獨逸に侵入したり。

マガリアエンス Magalhães 海峡 (位置) 南亞米利加南端の海峡。

(歴史) 一五一九年マガリアエンス(もと葡萄牙人にして西班牙に仕へて航海に従事したり) 西班牙より西方に航して東洋に到らんと欲し、南亞米利加の東海岸を航し、南端

に至りて此海峡を發見し、此處を通過して太平洋に出てたり。海峡發見者の名によりてマガリアエンス海峡或はマジラン海峡と稱す。

ミ之部

〔二、三字〕

ミレ Mylæ (位置) 地中海なるシチリア島の東北隅の海岸に在り。

(歴史) 第二ポエニ戦争の時、羅馬人は海軍に於ては其力遙にカルタゴに劣りしかば、B.C. 二六〇年羅馬の艦隊は忽ちカルタゴ海軍の爲めに全く捕獲せられたり。是に於て羅馬の執政ヅイリウスは、其國人が到底船艦の操縦に於ては、カルタゴ人に及ばざるを知り、海戦に陸兵を使用する方法を考へ、吊橋(其末端に鈎を附し敵船に近づき急に之を掛け鈎にて繋ぎ留むるなり)を發明し、水夫の數を減じて兵士の數を増し、専ら敵艦に侵入するの策をとり、B.C. 二六〇年此處に於てカルタゴ海軍と會戦し、はじめてカルタゴ海軍を破りたり。此海戦勝利の結果制海權漸く羅馬人の手に移り羅馬はカルタゴ本國を衝くを得るに至れり。

ミカレ Mykale 岬 (位置) 小亞細亞の西海岸、サモス島と相對せる岬角。

(歴史) 此海角には海神ポセイドンを祀れる廟宇ありて、リディア沿岸なる希臘殖民地十二市の共同禮拜場なりき。希臘の波斯戦争の時、スパルタ王レオチキデスデロス島在泊の希臘艦隊を率ゐ小亞細亞に向ひ、此海角に於て波斯艦隊に遭遇せしが、波斯人はサラミス海戦の大敗に懲り、水戦を避け其水兵を上陸せしめ、其船艦を砂濱に拽き着け、柵を以て之を圍み、壘に據りて自ら衛る、雅典等の兵之を見て直に上陸して波斯兵を撃ち、イオニア人の内應によりて大に波斯軍を破り、其二將を斬り其軍艦を奪ひて之を燒棄せり。時にB.C.四七九年九月四日なりき。此戦役の結果イオニア人は全く波斯の羈絆を脱して獨立するを得るに至れり。

ミラン Milan ミラノを見よ。

ミラノ Milan (位置) 以太利北部ポー河の北に在る都府。

(歴史) 羅馬のデオクレチアヌス帝帝國を東西二帝國に分ちし時、此府は西部の首府たりしことあり。降て第十世の中葉、獨逸國王オトー一世以太利に入り、此府に於て以太利王の鐵冠を戴きしより以降、獨逸に王たる者は必ず此府に於て、以太利王冠を受くるの例となれり。一八〇五年佛のナポレオン・ボナパルト以太利に入り、此府に於てラン

ゴバルド王家の鐵冠を戴き以太利王の位に即けり。同七年十二月十七日ナポレオンは、英國が伯林命令に對し復讐的に樞密院令を發布せしに答ふるため、此府に於て勅令を發し英國を苦しめたり。其勅令には、凡そ船舶にして、英國巡洋艦の臨檢を受くる者は、唯其之を受けたる一廉のみを以て、國籍を脱したるものと認定す。凡そ船舶にして、英國に往き或は英國より來るものは、唯其往來するのみの理由を以て、正當の捕獲物たるべきこと。等を宣明したり。之をミラノ勅令と稱す。伯林命令に比し一層苛酷を加へたるものなり。

〔四、五、六字〕

ミノルカ Minorca (位置) 地中海の西部マホルカ島の東に在る島。

(歴史) 此島もと西班牙領なりしが、一七一三年ユトレヒトの條約に於て英國に讓與せしが、一七八三年佛國ベルサイユの和約に於て、英國は之を西班牙國に讓與したり。

ミンヘン München (位置) 獨逸國バワリアの首府なり。

(歴史) 獨逸人ゼンメリング一八〇九年此府に於て、電信を發明したり。

ミシシッピ Mississippi 河 (位置) 北米合衆國中央を南流する河。

(歴史) 此河流域の地は、ルイジアナと稱して佛國殖民地なりき。此河の通航權は、一七八三年佛國ベルサイユ宮に於ける英佛平和條約に由て、英米同權たることを規定せり。此河の下流東岸に、ニュー・オルリーシス府あり、もと佛國殖民の開きたる府なり。一八一二、三、四、五年の英、米戦争の時、英軍は南北より合衆國に侵入する策を立て、英將バックンハムは一八一四年十二月大軍を以て此府を攻圍せしが、米將ジャクソン來り援ひ兩軍劇戦し、英將バックンハム遂に陣歿し、英軍は事の成らざるを見、急に兵を收めて艦に還れり。時に一八一五年一月八日。

ミシロンギ Missolonghi (位置) 希臘コリント灣の北岸西方に在り。

(歴史) 希臘獨立戦争の時、埃及藩王メヘメット・アリの子イブラヒム土其古帝の命を奉じ、兵を率ゐて希臘に赴き、一八二七年四月二十六日前後三回の攻圍をなし之を陥れたり。

ミールベルヒ Mülberg (位置) 獨逸國サクソニアなるエルベ河畔に在り、ドレスデン府の西北に當る。

(歴史) 獨逸帝カローロ五世は、兵力を以て新教徒を壓伏せんとし、新教同盟なるシマ

ルカルデン同盟と、一五四七年四月二十四日此地に戦ひ、新教徒の首領サクソニア公フレデリキを虜にし、大に同盟軍を破れり。之れより一時新教徒の勢大に衰へたり。

ミンステル Münster オスナブリックを見よ。

ム之部

ムラヒダ Mulahida (木乃兮、沒里奚) 國 (位置) 裏海の南エルブルツ山邊に在りし國。

(歴史) 此國人は一種の回教徒にして兇悍犖猛にして暗殺に巧に、久しく蒙古及び附近の累をなし、が一二五四年蒙古の旭烈兀西征の時、西域諸侯王の兵を招致し其軍を併せて此國を伐ち激戦の後其都城を陥れ之を摧破し其人民を屠殺し之を亡ぼしたり。

メ之部

〔三、四、五字〕

メッカ Mecca (麻嘉) (位置) 亞刺比亞西部に在る都府。

(歴史) イスラム教の教祖ムハメッド(摩訶末)五七一年を以て此市に生れたりき。ムハメッド唯一眞神アルラーの神使なりと自稱し、此市に於て其教を説きしが、他族のアブ

ソフィアンと云ふ者、衆を會してムハメッドを殺さんことを謀りしを以て、ムハメッドはアブ・ベクルと共に夜に乗して此市を遁れ、メジナ市に入れり。時に紀元六二二年七月十六日なりき。イスラム教徒は此日をヘジラ(Hegira—別離の義)と稱し其紀元となせり。其後六三〇年に至り、ムハメッド兵一萬を以て急にメジナ市を發して此市を襲ひ、アブ・ソフィアンを降し、カーバ神社に入りて、國人崇拜の本尊たりし神體(黒石)を破毀し、神殿を淨め、異教徒を市外に放逐せり。是に於て、亞刺比亞全土風靡してイスラムの新教に歸依し、サラケン國の基成れり。

メツツ Menz (位置) 今の獨逸國の西部ロートリンゲン州モーゼル河の中流東岸に在る都市。

(歴史) 一八七〇年、普佛戦争の時、佛の將軍バゼーヌ此市の北方に當れるグラベット丘の戦に敗れ、遂に退きて此市城に入り、普將フレデリキ・カロロ親王の爲めに包圍せられ、また野戦に従ふこと能はざるに至れり。其後バゼーヌは屢々合圍軍を衝て脱出を計りしが、其功を奏する能はずして、突撃は毎に敗北に歸せり。よりて止むを得ず、普佛講和條約締結まで此城を固守するに決し、防戦に力めしも、城中糧食盡きしを以て降

を乞ひ、同年十月廿七日悉く普軍の要求を容れて、談判其局を結び、同廿九日市街城砦すべて之を普軍に委し、三人の將官(バゼーヌ、カンロバール、レバウフ)六千の士官、十七萬三千の兵、六百門の野砲、九百門の疊砲、普軍の手に落ちき。斯の如き降参は、實に世界古今未曾有のことにして、戦争史中他に其比を見ざる所なり。

メルフ Melv (馬魯、木鹿) (位置) 今の露領トルキスタンなる砂漠中の綠嶼なり。

(歴史) 此地はナポレオン第一世が、露佛聯合の兵士を以て、英領印度の背部を衝かんことを企てし時、路を此處に取らんとしたる處にして、アフガン、波斯、露領裏海沿岸地方との間に在りて北西より印度に入るの要衝なり。露國は一八七三年ヒバ(基華)を征略してより、益南下の形跡ありしを以て、英國は此地を露國の占領せんを恐れ、遂に公然露國政府に向て『もし露國にしてメルフを占領せば、英國は直ちに之を以て露國と開戦する口實と爲すべし』と言明せり。故を以て、露國は止むを得ず、一八八一年英國に向てメルフに對して異圖なき旨を決答せしが、翌年に至り、英國が亞弗利加大陸に事ありて他を顧みる暇なきを視、露國は前年の誓言を無視して終に此地を占領し、爲めに一八八五年に於ける亞富汗事件を惹起し、兩國將に干戈に訴へんとせしが、翌年に至り英

國が一步を譲りしたため、平和の局を結ぶを得たり。

メシナ Messina 市 (位置) 以太利シチリア島の東北海岸に在る市にして、メシナ海峽に臨む。

(歴史) 以太利カンパニアの傭兵のシチリア島に在りし者、主將を失ひて盜賊となり、此市を奪ひて之に據り、自らマメルス黨と稱し四近を剽略せり。シラクサ(サイラキア)府王ピエロ兵を遣はしてマメルス黨を伐つ、マメルス黨勢究まり援を羅馬に乞ふ、羅馬援軍を派し海を渡りしに、是より先、カルタゴの將ハンノも亦マメルス黨中一派の請により、來りて既にメシナ市を占領し居たりしかば、羅馬軍は謀りてカルタゴ將校を捕ふ、ハンノ市を捨て遁れ歸れり。時にB.C.二六四年なり。カルタゴ人此市を失ひて羅馬の舉措を憤り、新に師を興してメシナ市を圍むに至り、有名なるポエニ戦争端を此に發せり

メンフィス Memphis (位置) 埃及の北部ニール河の北岸に在り。

(歴史) 埃及メンフィス朝即ち舊王國時代王都たりし所なり。

メチナ Medina (默德那) (位置) ^{アラビア}亞刺比亞の西部に在る都邑メッカの北に當る。

(歴史) 此市はじめ、ヤトレブと云ひしが、六二二年七月十六日イスラム教祖ムハメッドメッカ市より此處に遁れ來りしより、メチナト・アル・ナビ(豫言者の市)と呼び、後省略してメチナと稱しき。ムハメッドの遁れて此市に在るや、アブ・ソフィアン兵一萬を將て此市を攻圍せしが、ムハメッド其教徒三千人と共に固く守り、相峙する二旬、敵軍倦怠し大雷雨に逢ふて全く退潰せり。六三二年に至り、ムハメッド此市に在て熱を病むこと十有四日にして、同年六月八日遂に永眠せり享年六十三。

メチア Medina 王國(位置) 裏海の南方に起りたる古王國の一。

(歴史) メチアの地方はアッシリア國の強盛なりし頃は其版圖なりしが、B.C.八世紀の頃より漸く興り、遂にアッシリアの羈絆を脱して獨立し、キアクサレス王の代に至り四隣を征服し、B.C.六〇六年バビロニアと連合してアッシリア國を亡ぼし、一時西方亞細亞の最大國たりしが、其子アスチアゲスの時に至り、彼斯のキロス王の滅ぼす所となれり。

メッサナ Messana メシナを見よ。

〔六、七字〕

メソポタミア Mesopotamia (位置) アルメニアの南方、チグリス、エウフラト